

瑞穂町

第5次地域保健福祉計画策定のためのアンケート調査
調査報告書

令和7年3月 瑞穂町

目 次

第1章 調査の概要	1
1 調査の目的	3
2 調査の対象	3
3 調査の方法	3
4 調査の期間	3
5 回答結果	3
6 留意点	4
7 標本誤差	5
第2章 調査結果概要	7
1 ご自身について	9
2 安心して暮らしやすいまちづくりについて	9
3 地域で行う福祉ボランティア活動や助け合い活動について	10
4 健康意識・健康行動について	12
5 地域福祉に関わる知識や関係団体について	15
6 地域福祉を推進するために重要なことについて	15
7 暮らしやすい地域づくりについて	16
第3章 調査結果	17
1 ご自身について	19
(1) 年齢	19
(2) 性別	19
(3) 職業	20
(4) 職場・通学先	20
(5) 居住年数	21
(6) 家族構成	21
(7) 同居家族	22
(8) 定住意向	22
(9) 居住地区	23
(10) 町内会・自治会への加入状況	24
2 安心して暮らしやすいまちづくりについて	25
(1) 瑞穂町は安心して暮らしやすい町だと思うか	25
(2) 暮らしやすいと思うまちの姿の重要度	26
(3) 子どもを健やかに産み育てていくために必要なこと	27
(4) 高齢者が暮らしやすい社会とするために必要なこと	28
(5) 障がいのある人にも優しい社会をつくるために大切なこと	29
(6) 外出しやすいまちづくりを進めるために必要なこと	30

(7) 利用者本位の福祉を実現するために必要なこと.....	31
(8) 成年後見制度の認知度	32
(9) 成年後見制度を知ったきっかけ	32
(10) 成年後見制度をどのように利用したいか	33
3 地域で行う福祉ボランティア活動や助け合い活動について.....	34
(1) 近所づきあいの程度.....	34
(2) 近所づきあいをしていない理由	35
(3) 居住地域における助け合い支え合うつながりの有無	36
(4) 地域で支え合っていく上で大切なこと.....	37
(5) 地域の人困っているときの相談先を知っているか	38
(6) 地域の問題を自分のこととしてとらえるとき	39
(7) 地域の課題に主体的に取り組むために有効な手段.....	39
(8) 地震や災害時に住民同士が協力し合うために必要なこと	40
(9) 日常生活が円滑にいかなくなったときに地域に手助けしてほしいこと	41
(10) 近所で困っている家庭があった場合に手助けできること.....	43
(11) 地域の問題に対して住民間の自主的な協力関係が必要だと思うか	45
(12) 地域の問題に対して住民がお互いに協力するために必要なこと	46
(13) 瑞穂町内における福祉ボランティア活動や助け合い活動.....	47
(14) 現在取り組んでいる福祉ボランティア活動や助け合い活動.....	48
(15) 瑞穂町内での福祉ボランティア活動や助け合い活動への活動意向.....	49
(16) 福祉ボランティア活動や助け合い活動に参加したいと思わない理由.....	50
(17) 身近な認知症の人の有無.....	51
(18) 認知症についてどの程度知っているか.....	52
(19) 認知症の人やその家族を支援するためにしたいこと	52
(20) 自分が地域住民による見守りが必要になった場合の考え	53
(21) 孤独・孤立の状況.....	54
(22) 孤立死（孤独死）を防ぐために有効だと思うこと	56
4 健康意識・健康行動について.....	58
(1) 健康面で気を付けていること	58
(2) 過去1年間の健診等の受診状況	60
(3) 健診等を受けていない理由.....	61
(4) 睡眠時間.....	62
(5) 睡眠による休養が十分にとれているか.....	63
(6) 自分の歯の本数を知っているか	64
(7) 食べる時の状態.....	66
(8) 普段朝食を食べないことがあるか	67
(9) 主食・主菜・副菜のそろった食事を1日2回以上食べているか	68
(10) 1日の野菜摂取量の目安を知っているか	69
(11) 1日の果物摂取量.....	70
(12) 塩分摂取量に気を付けているか	71

(13) BMI	72
(14) 自分の適正体重を認識し体重をコントロールしているか	73
(15) 喫煙の状況	74
(16) 受動喫煙が低体重児出産の原因になることを知っているか	75
(17) COPD（慢性閉塞性肺疾患）の認知度	76
(18) 日頃から身体活動を意識して行っているか	77
(19) 1回30分程度、週2回以上の運動を行っているか	78
(20) 1日に歩いている時間.....	79
(21) コモティブシンドローム（運動器症候群）の認知度	80
(22) 健康ポイントアプリの利用状況.....	81
(23) 町の健康ポイントアプリ「みずほ健康ポイント あるってこ」の認知度	82
(24) 飲酒の状況.....	83
(25) 1日当たりの飲酒量	84
(26) 日常生活における悩みやストレス.....	85
(27) 悩みやストレスの相談状況	87
(28) 希望する保健や福祉に関する情報等の入手方法	89
(29) 地域で安心して生活していくために福祉・保健・医療に関して大切なこと	91
5 地域福祉に関わる知識や関係団体について	93
(1) 地域福祉に関わりのある用語の認知度	93
(2) 町内の団体や福祉施設の認知度	94
6 地域福祉を推進するために重要なことについて	96
(1) 地域福祉を推進するために重要なこと	96
7 暮らしやすい地域づくりについて（自由記載欄）	98
(1) 生活環境について	98
(2) 地域活動について.....	99
(3) 安全・安心について	99
(4) 行政・まちづくりについて.....	100
(5) 保健・医療・福祉について.....	100
(6) アンケートについて	100
(7) その他.....	101
資料編.....	103

第1章 調査の概要

1 調査の目的

瑞穂町第5次地域保健福祉計画の策定にあたって、これからの瑞穂町における、誰もが暮らしやすい地域社会の実現のための方法を住民とともに考え、よりよい施策実施の参考とするため、アンケート調査を行いました。

2 調査の対象

調査の対象	瑞穂町在住の18歳以上の町民（住民基本台帳から無作為抽出）
配布数	1,200件

3 調査の方法

配布方法	郵送による配布
回答方法	郵送又は専用のWebフォームによる回答

4 調査の期間

調査期間	令和6年8月28日（水）から令和6年9月20日（金）まで
礼状兼督促状	令和6年9月10日（火）に発送

5 回答結果

配布数	1,200件		
回答方法	全体	郵送	Web
回答数	497件	401件	96件
回答率	41.4%	33.4%	8.0%

※前回（令和元年度） 対象：瑞穂町在住の18歳以上65歳未満の方
配布数：500件 回答数：192件 回答率：38.4%

6 留意点

- 本報告書で示している回答結果の割合（％）は、回答数に対する選択肢ごとの割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、合計値が100.0%にならない場合があります。
- 複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合も、回答数に対する選択肢ごとの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- 本報告書内のグラフや表において「n」とある場合、n数（number of case）であることを示し、その設問における集計対象者の総数、あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人数を表しています。
- 数量による回答を求めている設問では、カテゴリー化した結果を示すとともに、平均値をクロス集計表に示しています。
- 問28から問54までの健康づくりに関する設問は、すべて年齢・性別によるクロス集計表を記載しています。
- 「その他」や「無回答」など、回答から読み取れるものが少ない、又はないものについては、言及しない場合があります。
- 限定された設問やn数にばらつきがあるものは参考値とし、全体に関する内容を中心に記載しています。
- 本文中の設問番号等について、報告書の便宜上、実際の調査票と異なる設定を行っている場合があります。
- 本文中の設問の文章や選択肢について、長いものは簡略化している場合があります。
- 第3章調査結果のグラフ内の（ ）には前回（令和元年度調査）の数値を参考に記載しています。なお、前回調査では18歳以上65歳未満の町民を対象としてアンケート調査を行ったものになります。
- 前回（令和元年度調査）との比較について、年齢や性別などの属性項目や選択肢に変更があった設問、おおむね同様の傾向がみられる結果となった項目などは、言及しない場合があります。

7 標本誤差

本調査は、瑞穂町の住民の中から一部を抽出して行う調査（標本調査）です。標本調査では、母集団全体を対象に行った調査と比べ、調査結果に差が生じることがあり、その差のことを「標本誤差」といいます。

標本誤差は、数学的に計算することが可能となっており、標本比率の標準誤差の一般式は、 $k \times \sqrt{\{p(1-p)\} / \{n(N-1)/(N-n)\}}$ となります。本調査の標本の信頼度を95%とすると $k = \pm 1.96$ となり、以下の計算式で表すことができます。

$$\text{標本比率の標準誤差} = \pm 1.96 \times \sqrt{\{p(1-p)\} / \{n(N-1)/(N-n)\}}$$

p = 回答比率

N = 母集団数（本調査では、令和6年8月1日の18歳以上の人口27,959人）

n = 基数（サンプル数。本調査全体では、全回答者数497人）

実際の回答数にあてはめると以下の表のとおりです。表の見方は、質問の回答者数が497人で、回答比率が50%であった場合、その回答比率の誤差は、最大で±4.45%となることを示しています。

回答比率 基数 (n)	10%または 90%	20%または 80%	30%または 70%	40%または 60%	50%
497人	±2.67	±3.56	±4.07	±4.36	±4.45

なお、標本誤差の数値指標は以下の指標を基準としています。

※標本の回答者数が400件以上の場合、誤差が±5%の範囲内となり、一定の信頼できる結果が得られると考えられる。

出典：厚生労働省老健局介護保険計画課、認知症施策・地域介護推進課、老人保健課
「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査実施の手引き」（令和4年8月）

第2章 調査結果概要

1 ご自身について

- 回答者の年齢は、65歳以上が46.6%を占めています。
- 回答者の居住年数は、「30年以上」(56.1%)が過半数を占め、次いで「20~29年」(15.7%)となっており、居住年数が長い人が多くなっています。
- 回答者の家族構成は、「親子2世代」(43.7%)が最も多く、以下「夫婦のみの世帯」(31.8%)、「単身世帯」(11.3%)、「親・子・孫3世代」(7.2%)となっています。
- 回答者の定住意向は、「今住んでいるところに住み続けたい」(73.4%)が最も多く、年齢が高いほど多くなる傾向がみられます。一方、「町外に転居したい」(13.3%)は年齢が低いほど多く、小・中学生の子どもがいる世帯では他の世帯より多くなっています。
- 回答者の町内会・自治会への加入状況は、「加入していない」(46.9%)と「加入している」(46.5%)に二分されています。「加入している」は、石畑地区(64.0%)と、殿ヶ谷地区(61.1%)で6割を超えています。長岡地区(33.8%)は3割強にとどまるなど、地区による差がみられます。

2 安心して暮らしやすいまちづくりについて

- 瑞穂町は安心して暮らしやすい町だと思うかは、「そう思う」(19.1%)と「まあそう思う」(39.0%)を合わせると58.1%を占め、「そう思わない」(2.8%)と「あまりそう思わない」(12.9%)を合わせると15.7%となっています。
- 暮らしやすいと思うまちの姿について、重要度に大きな差はみられないものの、重要度が高い順では、『災害の時に安心なまち』(89.6%)、『子どもがいきいき育つまち』(88.8%)、『高齢者が暮らしやすいまち』(88.3%)、『障がいのある人が暮らしやすいまち』(85.1%)、『困った時に助け合えるまち』(83.7%)となっています。
- 子どもを健やかに産み育てていくために必要なことは、「出産や子育てに対する経済的な負担を少なくする」(57.7%)が最も多く、次いで「延長保育や0~2歳児保育等の保育サービスを充実する」(33.6%)となっており、経済的な支援や保育サービスに関するニーズが多いことがうかがえます。
- 高齢者が暮らしやすい社会とするために必要なことは、「交通手段の確保」(47.5%)が最も多く、次いで「買物する場所の確保」(42.3%)となっており、移動や買い物に関するニーズが多いことがうかがえます。
- 障がいのある人にも優しい社会をつくるために大切なことは、「職業訓練、働く場所の紹介等、雇用・就労の場を確保する」(41.0%)が最も多く、次いで「ホームヘルプサービス、ショートステイ等の在宅福祉サービスを充実する」(32.8%)となっており、就労支援や在宅サービスのニーズが多いことがうかがえます。

- 外出しやすいまちづくりを進めるために必要なことは、「建物や道路の段差を改善する」(47.7%)が最も多く、次いで「歩道や道路を歩く上での障害物を取り除く」(43.5%)となっており、物理的な障壁の解消に関するニーズが多いことがうかがえます。
- 利用者本位の福祉を実現するために必要なことは、「福祉サービスについての情報の提供体制を充実する」(60.6%)が最も多く、以下「専門的な相談が受けられるようにする」(41.9%)、「自分で人と契約することが難しい方への支援の仕組みを整える」(40.6%)となっており、情報提供や専門的な相談支援のニーズが多いことがうかがえます。
- 成年後見制度の認知度は、「名前を知っている程度」(41.6%)が最も多く、以下「ある程度内容を知っている」(27.8%)、「まったく知らない」(21.5%)、「知っている・利用したことがある」(7.2%)となっています。なお、成年後見制度を知ったきっかけは、「テレビやラジオ、新聞、ホームページ等で知った」(60.1%)が過半数を占めています。

3 地域で行う福祉ボランティア活動や助け合い活動について

- 近所づきあいの程度は、「必要に応じてしている程度」(67.2%)が過半数を占め、以下「ほとんどしていない」(22.1%)、「積極的にしている方だと思ふ」(9.7%)となっています。30~59歳の年齢層では「ほとんどしていない」が3割を超えており、単身世帯では50.0%を占めています。
- 近所づきあいをしていない理由は、「知り合う機会がないから」(40.0%)が最も多く、以下「学校や仕事で忙しいから」(30.9%)、「人とのつきあいが苦手だから」(24.5%)などとなっています。
- 居住地域における助け合い支え合うつながりの有無は、「ある」「どちらかといえばある」(51.5%)が過半数を占め、以下「ない」「どちらかといえはない」(28.0%)、「わからない」(19.5%)となっています。殿ヶ谷地区、石畑地区、元狭山地区では『ある』が過半数を占めていますが、箱根ヶ崎地区、長岡地区、武蔵野地区では半数を下回っており、「ない」「どちらかといえはない」が3割を超えています。また、各地区で「わからない」との回答が一定数あり、殿ヶ谷地区、石畑地区、武蔵野地区では2割を超えています。
- 地域で支え合っていく上で大切なことは、「隣近所の人達との普段からの付き合い」(77.5%)を占め、以下「ひとりで暮らしている高齢者の見守りの活動」(47.3%)、「地域が行う防災活動等の日常的な協力活動」(34.6%)などとなっており、普段からの付き合いが重要視されていることがうかがえます。
- 地域の人困っているときの相談先を知っているかは、「知らない」(59.2%)が過半数を占め、「知っている」は34.8%にとどまっています。また、年齢が低いほど「知らない」が高くなる傾向があり、50歳未満の層では8割を超えています。

- 地震や災害時に住民同士が協力し合うために必要なことは、「支援が必要な人の情報を地域で共有する」(49.1%)が最も多く、次いで「福祉サービス事業者や行政との連携」(45.3%)となっており、情報共有や関係機関等との連携が重要視されていることがうかがえます。
- 日常生活が円滑にいかなくなったときに地域に手助けしてほしいことは、「近隣への声掛けや安否確認」(45.5%)が最も多く、次いで「病院への付添い等、外出の手伝い」(44.9%)となっています。50歳未満の層では、子どもに関する手助けが多くなっています。
- 近所で困っている家庭があった場合に手助けできることは、「近隣への声掛けや安否確認」(56.5%)が最も多く、次いで「話し相手」(42.1%)となっています。一方、ニーズが多い「病院への付添い等、外出の手伝い」は19.9%にとどまっています。
- 地域の問題に対する住民間の自主的な協力関係は、「必要だと思う」(55.3%)が過半数を占めており、「分からない」は38.0%、「必要だと思わない」は3.2%となっています。60歳以上の層では「必要だと思う」が6割を超えていますが、60歳未満の層では「分からない」が4割を超えています。
- 瑞穂町内における福祉ボランティア活動や助け合い活動は、「活動したことがない」(82.3%)が大半を占めています。
- 瑞穂町内での福祉ボランティア活動や助け合い活動への活動意向は、『活動したいと思わない』(45.8%)が『活動したい』(36.2%)を上回っています。30～39歳、60～64歳では『活動したい』の方が多くなっていますが、その他の年齢層では『活動したいと思わない』の方が多くなっています。また、いずれの地区においても『活動したいと思わない』が『活動したい』を上回っており、長岡地区、元狭山地区では過半数を占めています。
- 福祉ボランティア活動や助け合い活動に参加したいと思わない理由は、「体力的に自信がないから」(50.9%)が過半数を占め、次いで「仕事、家事や勉強で忙しく時間がないから」(48.2%)となっています。
- 身近な認知症の人について、『いる』が22.5%となっており、内訳をみると「いる(同居していない)」が19.1%、「いる(同居している)」が3.4%となっています。60～64歳では『いる』が38.1%で他の年齢層より多く、殿ヶ谷地区(38.9%)、石畑地区(32.0%)で他の地区より多くなっています。
- 認知症についてどの程度知っているかは、「ある程度知っている」(61.6%)が過半数を占め、「よく知っている」(10.9%)と合わせると72.5%となっています。
- 認知症の人やその家族を支援するためにしたいことは、「1人歩きで困っている高齢者を発見した場合、保護等の協力」(70.0%)が最も多く、次いで「地域の見守り活動や声かけ活動への協力」(43.1%)となっており、身近な地域における支援に協力的な人が多いことがうかがえます。
- 自分が地域住民による見守りが必要になった場合の考えは、「できればお願いしたい」が35.4%で最も多く、以下「分からない」が34.4%、「できれば受けたくない」が12.1%、「ぜひお願いしたい」が11.9%、「受けたくない」が2.4%となっています。

- 孤独感の評価について、「4～6点（ほとんどない）」（42.7%）が最も多く、以下「7～9点（時々ない）」（35.4%）、「3点（決してない）」（11.7%）、「10～12点（常にある）」（5.6%）となっています。「10～12点（常にある）」は、50～59歳では12.4%（平均7.1点）で他の年齢層より多く、また、単身世帯では16.1%（平均7.2点）で他の世帯より多くなっています。
- 孤立死（孤独死）を防ぐために有効だと思うことは、「地域住民による声かけ、見守り」（50.5%）が過半数を占め、以下「新聞・郵便配達等、民間の協力による情報提供」（33.8%）、「民生委員・児童委員による訪問、見守り」（27.0%）となっており、地域による声かけや見守りを基本として、関係機関等との協力が有効であると考えられていることがうかがえます。一方、孤独感が「10～12点（常にある）」と評価された人では、上位3項目が他の区分より少なく、「本人からの危険危機の通報」、「介護保険等の各種福祉サービス事業所と連携した緊急時連絡網」などが多くなっています。

4 健康意識・健康行動について

- 健康面で気を付けていることは、「定期的に健康診断を受けている」（43.3%）が最も多く、以下「規則正しい生活を心がける」（42.3%）、「過労に注意し、睡眠や休養を十分にとる」（39.0%）、「栄養のバランス等、食生活に気を付ける」（37.0%）などとなっています。40歳未満の層では「過労に注意し、睡眠や休養を十分にとる」が最も多く、「定期的に健康診断を受けている」、「規則正しい生活を心がける」は他の年齢層より少なくなっています。
- 過去1年間の健診等の受診状況は、「ある」が81.7%、「ない」が16.3%となっています。
- 健診等を受けていない理由は、「忙しくて受ける時間がないから」（32.1%）が最も多く、次いで「悪い結果が見つかるのが怖いから」、「既に通院中だから」（19.8%）となっています。
- 平均睡眠時間は6.6時間となっており、50～59歳では6.1時間、40～49歳では6.3時間で他の年齢層より少なくなっています。
- 睡眠による休養は、「とれている」「おおむねとれている」が72.0%、「とれていない」「あまりとれていない」が27.0%となっています。40～59歳は「とれていない」「あまりとれていない」が他の年齢層より多く、50～59歳では48.3%、40～49歳では40.0%となっています。
- 自分の歯の本数を知っているかは、「知らない」が49.1%、「知っている」が44.5%となっており、「知っている」と回答した人の歯の平均本数は21本となっています。年齢が高いほど平均本数が少なくなり、65歳～74歳では20本、75歳以上では15本となっています。また、平均本数は男性が19本、女性が22本となっています。
- 普段の朝食は、「朝食は必ず食べる」が74.2%を占めています。30歳以上では「朝食は必ず食べる」が過半数を占めており、75歳以上では94.0%、65～74歳では85.2%を占めていますが、18～29歳では45.7%にとどまっています。

- 主食・主菜・副菜のそろった食事を1日2回以上食べているかは、「ほぼ毎日2回以上」(45.7%)が最も多く、次いで「ほぼ毎日1回」(35.4%)となっています。30～39歳では「ほぼ毎日2回以上」は16.1%にとどまっており、「週に数回」(29.0%)と「ほとんど食べない」(12.9%)が他の年齢より多くなっています。
- 1日の野菜摂取量は、「適正な野菜の量は知らないが、意識して食べるようにしている」(44.5%)が最も多く、次いで「適正な野菜の量を理解しているが、意識して食べるようにはしていない」(23.5%)となっており、「適正な野菜の量を理解し、意識して食べるようにしている」は20.5%にとどまっています。「適正な野菜の量を理解し、意識して食べるようにしている」は年齢が高いほど多く、「適正な野菜の量は知らないし、意識して食べるようにはしていない」は年齢が低いほど多くなる傾向がみられます。
- 1日の果物摂取量は、「100g未満」(44.7%)が最も多く、以下「100～200g未満」(27.2%)、「まったく食べない」(20.1%)などとなっています。「まったく食べない」は60歳未満で多く、3割弱から3割半となっています。
- 塩分摂取量は、「日頃から気をつけている」(40.2%)が最も多く、以下「時々気をつけることがある」(36.2%)、「ほとんど気をつけていない」(21.9%)となっています。年齢が高いほど「日頃から気をつけている」が多く、年齢が低いほど「ほとんど気をつけていない」が多くなる傾向がみられます。また、男性では「ほとんど気をつけていない」が女性より多くなっています。
- 身長と体重から算出したBMIは、「18.5～25.0未満(普通体重)」(65.6%)が過半数を占め、「25.0～35.0未満(肥満)」が19.3%、「18.5未満(低体重)」が8.2%となっており、BMIの平均は22.7となっています。30～39歳では「18.5未満(低体重)」が他の年齢層より多く、40～49歳と50～59歳では「25.0～35.0未満(肥満)」が他の年齢層より多くなっています。BMIの平均は30～59歳の層で全体平均より高くなっています。また、男性では「25.0～35.0未満(肥満)」が、女性では「18.5未満(低体重)」が多くなっています。
- 自分の適正体重の認識については、「適正なBMI値を理解しているが、体重はコントロールしていない」(39.0%)が最も多く、次いで「適正なBMI値を理解し、体重をコントロールしている」(22.5%)などとなっています。BMIの評価結果でみると、18.5未満(低体重)と25.0～35.0未満(肥満)では、「適正なBMI値を理解しているが、体重はコントロールしていない」が他の区分より多くなっています。
- 喫煙の状況は、「まったく吸っていない」(63.0%)が最も多く、「以前は吸っていたが今は吸っていない」は19.3%、「毎日吸っている」は14.9%などとなっています。60歳未満では「毎日吸っている」が60歳以上より多く、30～59歳の層では2割を超えています。また、女性では「まったく吸っていない」が74.6%を占めているのに対し、男性では48.4%にとどまっており、「毎日吸っている」が21.9%となっています。

- 受動喫煙が低体重児出産の原因になることを知っているかは、「知っている」が71.8%、「知らない（今回の調査で初めて知った）」が15.1%となっています。75歳以上では「知っている」が49.6%にとどまっています。また、女性では「知っている」が83.5%を占めていますが、男性では58.6%にとどまっています。
- COPD（慢性閉塞性肺疾患）の認知度は、「知らない（今回の調査で初めて知った）」（52.1%）が最も多く、以下「名前は聞いたことがある」（23.7%）、「知っている」（20.9%）となっています。30～39歳では「知っている」が38.7%で他の年齢層より多くなっています。
- 日頃から身体活動を意識して行っているかは、「毎日実行している」（33.4%）が最も多く、以下「時々実行している」（29.4%）、「努力はしているが、十分に実行できていない」（26.8%）、「実行するつもりはなく、実行していない」（4.8%）となっています。18～29歳では「毎日実行している」が57.1%を占め、他の年齢層より多くなっています。一方、40～49歳では「実行するつもりはなく、実行していない」が15.0%で他の年齢層より多くなっています。また、30～39歳、50～59歳では「努力はしているが、十分に実行できていない」が4割を超えています。
- 1日に歩いている時間は、「約20分以内」（24.1%）が最も多く、以下「約30分」（20.3%）、「約60分」（14.1%）、「約40分」（13.3%）などとなっています。18～29歳では「約90分以上」、30～49歳の層では「約60分」が最も多くなっていますが、50～74歳の層では「約20分以内」、75歳以上では「約30分」が最も多く、年齢による差がみられます。
- ロコモティブシンドローム（運動器症候群）の認知度は、「知らない（今回の調査で初めて知った）」（63.0%）が過半数を占めています。60歳未満の層では「知らない（今回の調査で初めて知った）」が7割を超えています。
- 健康ポイントアプリは、「利用していない」（54.5%）が最も多く、以下「利用している」（21.7%）、「今後も利用するつもりはない」（11.3%）、「今後利用したい」（9.3%）となっています。40～49歳では「今後も利用するつもりはない」が23.3%で他の年齢層より多くなっています。
- 町の健康ポイントアプリ「みずほ健康ポイント あるってこ」は、「知らなかった（今回の調査で初めて知った）」（54.9%）が最も多く、以下「知っている」（24.9%）、「名前は聞いたことがある」（17.5%）となっています。
- 飲酒の状況は、「飲まない」（37.4%）が最も多く、以下「毎日」（17.7%）、「ほとんど飲まない」（17.1%）などとなっています。65～74歳では「毎日」が25.2%で他の年齢層より多く、「週5～6日」と合わせると30.4%となっています。また、男性では「毎日」が27.0%で女性より多くなっています。
- 日常生活における悩みやストレスは、「将来への不安」（34.0%）が最も多く、以下「自分の健康問題」（33.6%）、「仕事（就職・仕事内容・労働環境など）」（27.0%）、「経済的な問題」（26.6%）などとなっています。「自分の健康問題」は年齢が高いほど多くなる傾向がみられ、「仕事（就職・仕事内容・労働環境など）」は年齢が低いほど多くなる傾向がみられます。

- 悩みやストレスの相談状況は、「家族に相談している」(49.9%)が最も多く、次いで「友人・知人に相談している」(39.0%)となっています。一方、「相談する必要はないので誰にも相談していない」は16.9%となっています。「家族に相談している」は30~39歳で特に多く80.6%を占め、「友人・知人に相談している」は年齢が低いほど多くなる傾向がみられます。一方、65~74歳では「相談する必要はないので誰にも相談していない」が21.7%で他の年齢より多く、「無回答」を合わせると75歳以上とともに3割を超えています。
- 希望する保健や福祉に関する情報等の入手方法は、「広報紙で」(48.1%)が最も多く、次いで「インターネットのホームページで」(30.8%)となっています。「広報紙で」、「自治会・町内会の回覧板等で」、「高齢者支援センターの職員を介して」は、年齢が高いほど多くなる傾向がみられ、「SNSで(X、Instagram、LINEなど)」は、年齢が低いほど多くなる傾向がみられます。また、「インターネットのホームページで」は、40~49歳と60~64歳で過半数を占めています。
- 地域で安心して生活していくために福祉・保健・医療に関して大切なことは、「地域医療(かかりつけ医、病院等)提供体制の充実」(72.4%)が最も多く、次いで「福祉施策(高齢者福祉、障がい者福祉、児童福祉等)の充実」(46.1%)となっています。「地域医療(かかりつけ医、病院等)提供体制の充実」は40歳以上の層で7割を超えており、また、「福祉施策(高齢者福祉、障がい者福祉、児童福祉等)の充実」は50歳以上の層で過半数を占めています。

5 地域福祉に関わる知識や関係団体について

- 地域福祉に関わりのある用語について、認知度が高い順に「ひきこもり」(86.3%)、「ヤングケアラー」(55.3%)、「8050問題」(30.2%)、「再犯防止推進法」(18.7%)、「瑞穂町地域保健福祉計画」(5.6%)となっています。
- 町内の団体や福祉施設について、認知度が高い順に「瑞穂町シルバー人材センター」(80.5%)、「保健センター」(74.4%)、「民生委員・児童委員」(65.0%)、「高齢者福祉センター「寿楽」」(62.2%)などとなっており、「瑞穂町シルバー人材センター」、「民生委員・児童委員」、「高齢者福祉センター「寿楽」」などは年齢が高いほど認知度が高く、性別でみると、女性の方が全体的に認知度が高くなっています。

6 地域福祉を推進するために重要なことについて

- 『自助』の視点では、「地域のことに関心を持つ」(57.9%)が最も重要視されており、次いで「できる範囲で地域に貢献する」(44.3%)となっています。
- 『互助・共助』の視点では、「より多くの人に地域や福祉に関する情報を広める」(35.0%)と「地域の人々の課題を共有する」(34.0%)が特に重要視されています。

- 『公助』の視点では、「地域住民のニーズの把握を強化する」(39.8%)が最も重要視されており、次いで「公的な福祉サービスの質の向上を図る」(34.8%)となっています。

7 暮らしやすい地域づくりについて

- 暮らしやすい地域づくりに関する意見（自由記載欄）として、138件の回答がありました。
- 生活環境についての内容が最も多く、公共交通や買い物などの利便性に関する意見が多く挙げられています。
- 地域活動については、地域に期待をする若い年齢層の意見がある一方で、50歳以上の年齢層では自治組織の継続に困難を感じている意見が挙げられています。
- 安全・安心については、子どもや歩道の安全・安心に関する意見が挙げられています。
- 行政・まちづくりについては、情報提供や行政の施策に関する意見が挙げられています。
- 保健・医療・福祉については、福祉サービスや医療に関する意見が挙げられています。
- アンケートについては、アンケートでの学びやアンケートの設問内容に関する意見が挙げられています。
- その他については、個々の普段の生活や行政への個別の要望等が挙げられています。
※テーマごとの個別の具体的な要望等については、本報告書への記載は行わず、関係部署で共有し、今後の町政を進める上での参考とさせていただきます。

第3章 調査結果

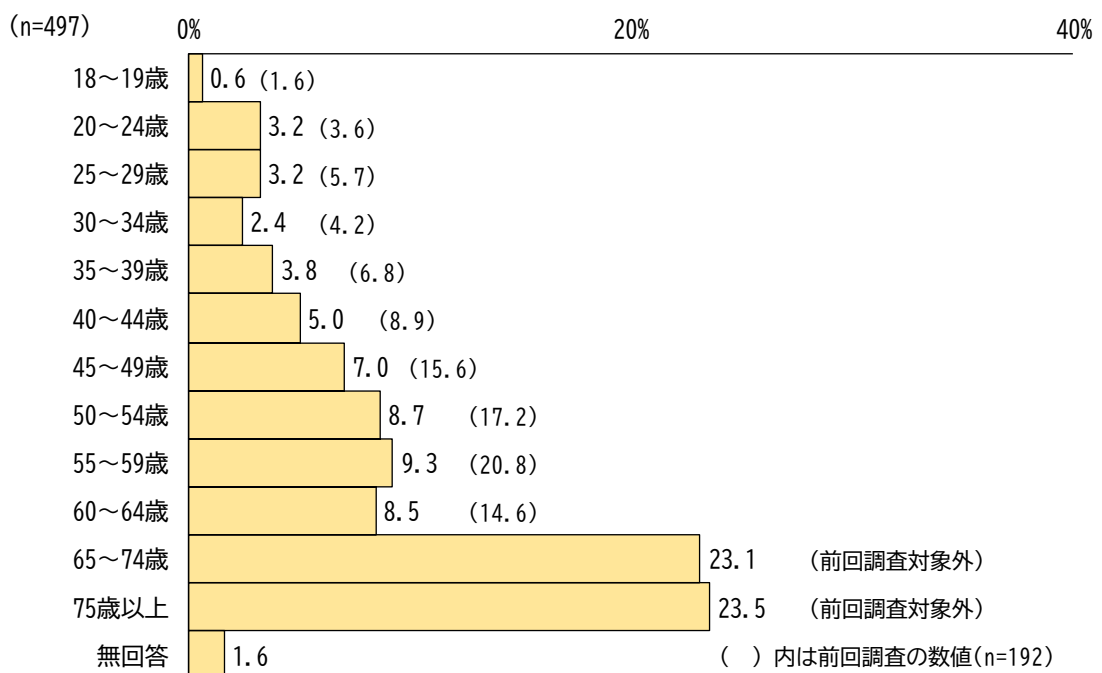
1 ご自身について

回答しやすさや回答者への配慮のため、年齢や性別などの属性項目は、調査票の後半に設定しました。問番号は調査票と同じ問58～問67としています。

(1) 年齢

回答者の年齢は、「75歳以上」が23.5%で最も多く、次いで「65～74歳」が23.1%となっており、65歳以上が46.6%を占めています。

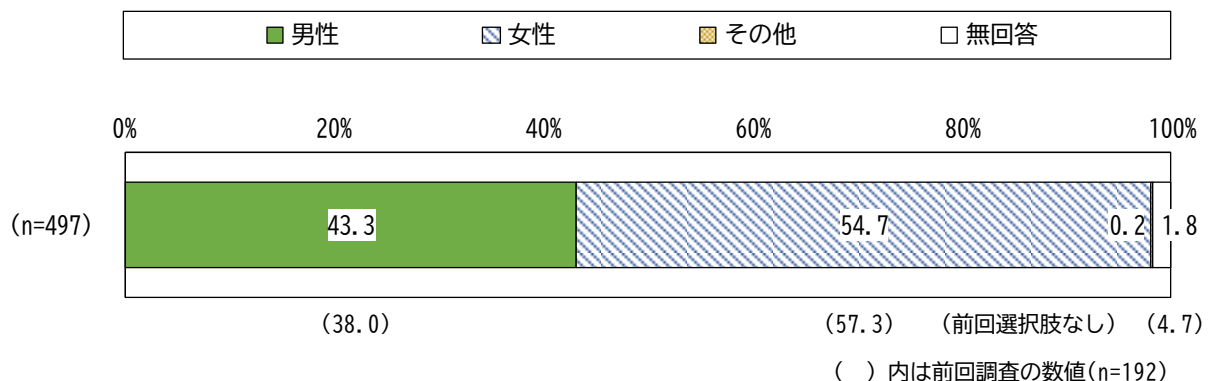
問58 令和6年7月1日現在のあなたの年齢はいくつですか。(1つに○)



(2) 性別

回答者の性別は、「女性」が54.7%、「男性」が43.3%となっています。

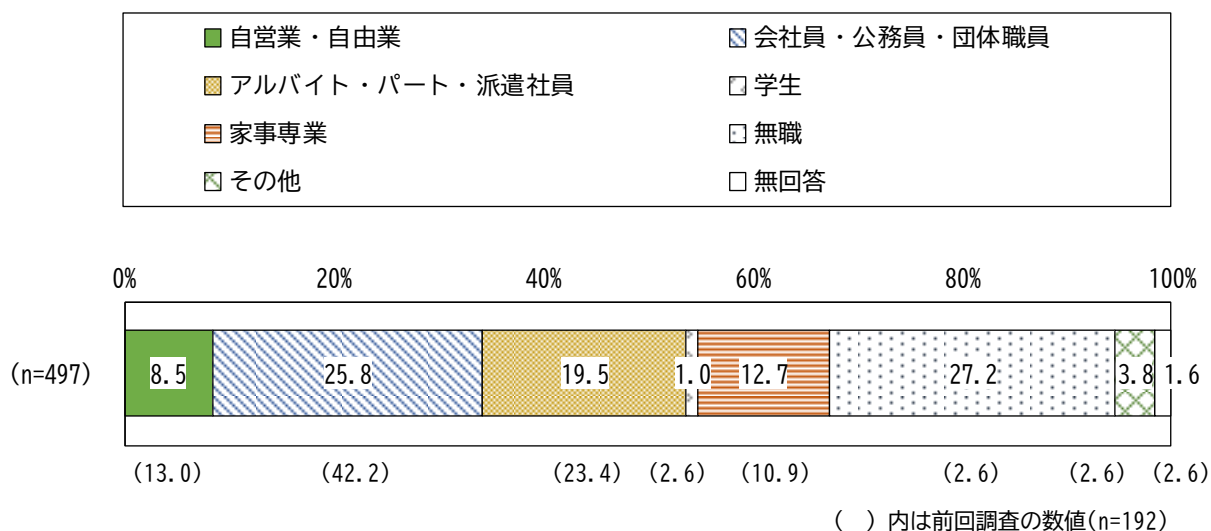
問59 あなたの性別はどれですか。(1つに○)



(3) 職業

回答者の職業は、「無職」が27.2%で最も多く、以下「会社員・公務員・団体職員」が25.8%、「アルバイト・パート・派遣社員」が19.5%、「家事専業」が12.7%などとなっています。

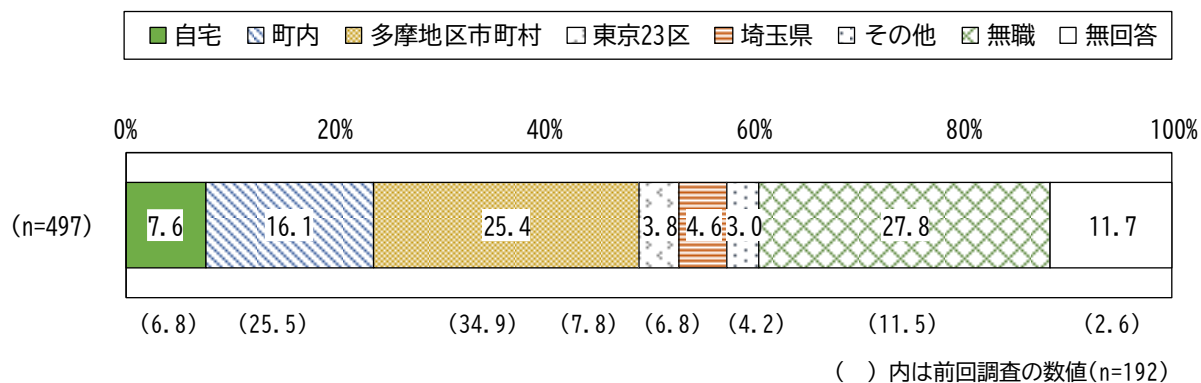
問60 あなたの現在の職業は次のどれですか。(1つに○)



(4) 職場・通学先

回答者の職場・通学先は、「無職」が27.8%で最も多く、以下「多摩地区市町村」が25.4%、「町内」が16.1%、「自宅」が7.6%などとなっています。

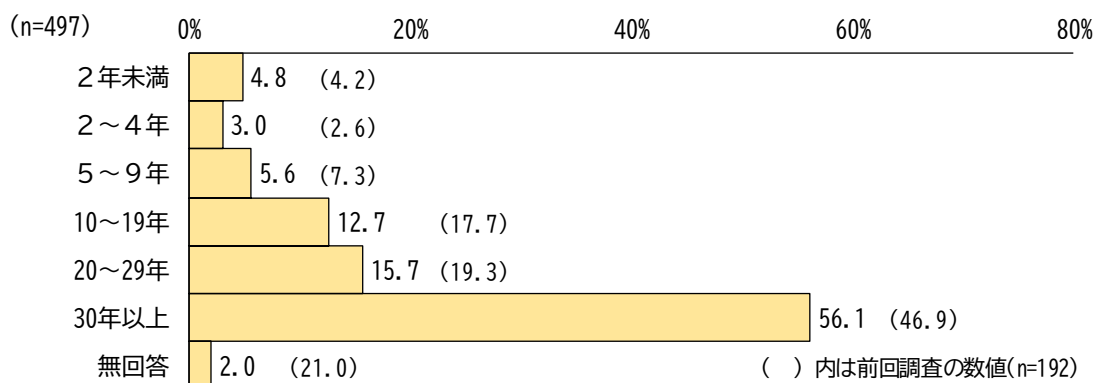
問61 職場または通学先は次のどれですか。(1つに○)



(5) 居住年数

回答者の居住年数は、「30年以上」が56.1%で最も多く、以下「20～29年」が15.7%、「10～19年」が12.7%、「5～9年」が5.6%などとなっています。

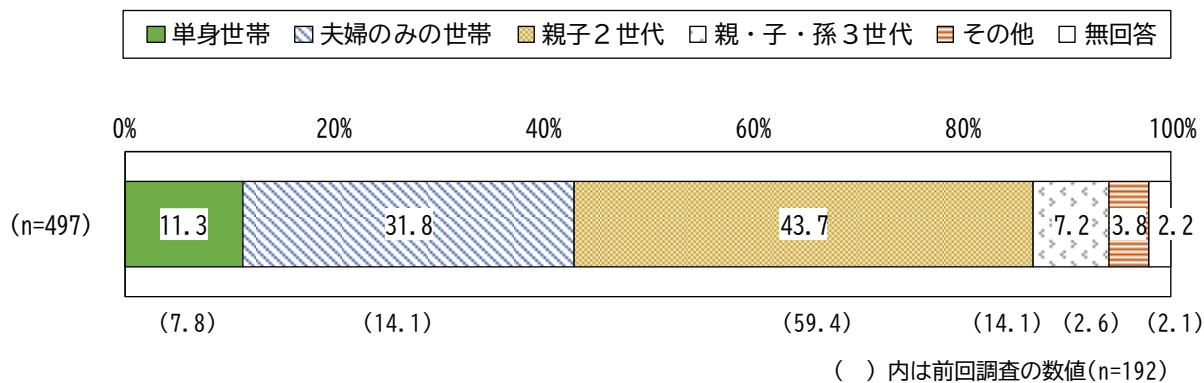
問62 令和6年7月1日現在、瑞穂町に住みはじめてから何年になりますか。(1つに○)



(6) 家族構成

回答者の家族構成は、「親子2世代」が43.7%で最も多く、以下「夫婦のみの世帯」が31.8%、「単身世帯」が11.3%、「親・子・孫3世代」が7.2%となっています。

問63 同居しているご家族の構成(あなたを含めた構成)はどれですか。(1つに○)

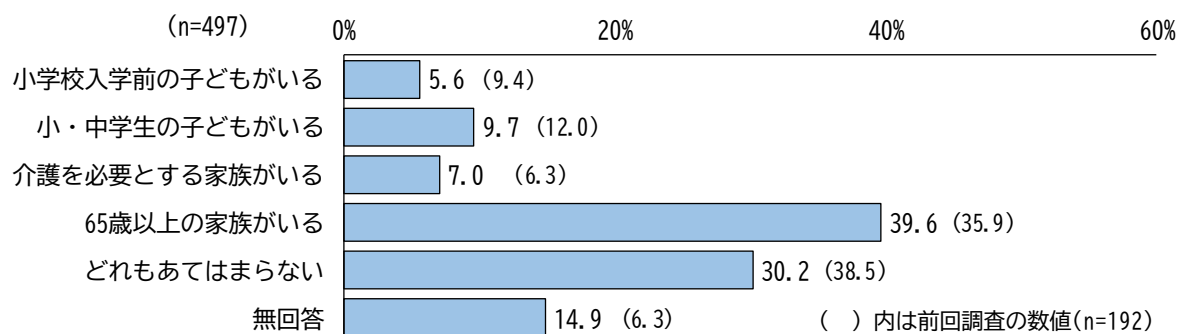


(7) 同居家族

回答者の同居家族は、「65歳以上の家族がいる」が39.6%で最も多く、以下「小・中学生の子どもがいる」が9.7%、「介護を必要とする家族がいる」が7.0%、「小学校入学前の子どもがいる」が5.6%となっています。

一方、「どれもあてはまらない」は30.2%となっています。

問64 同居しているご家族について次のどれですか。(あてはまるものすべてに○)



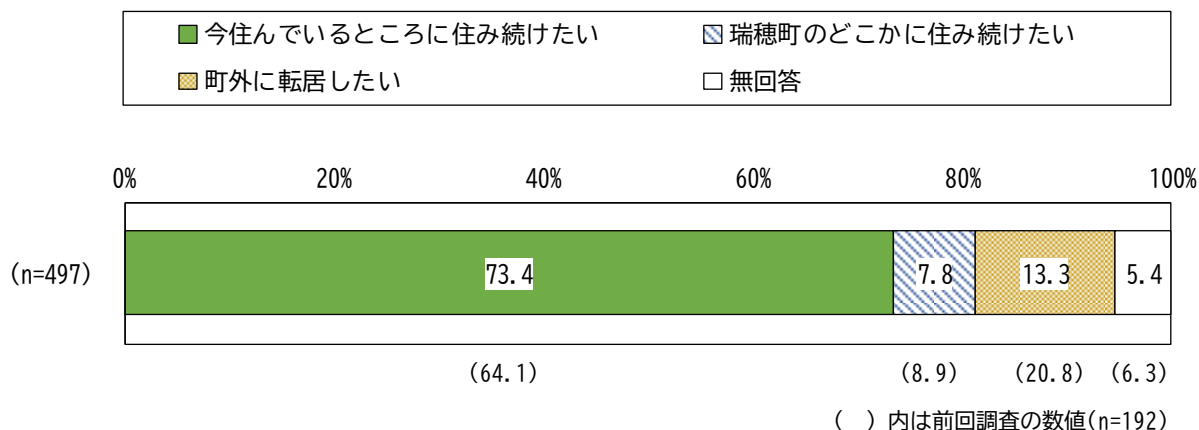
(8) 定住意向

回答者の定住意向は、「今住んでいるところに住み続けたい」が73.4%で最も多く、以下「町外に転居したい」が13.3%、「瑞穂町のどこかに住み続けたい」が7.8%となっています。

年齢でみると、「今住んでいるところに住み続けたい」は年齢が高いほど多くなる傾向がみられます。一方、「町外に転居したい」は年齢が低いほど多くなる傾向がみられます。

同居家族でみると、小・中学生の子どもがいる世帯では「町外に転居したい」が22.9%で他の世帯より多くなっています。

問65 今後も瑞穂町に住み続けたいと思いますか。(1つに○)



◇クロス集計表

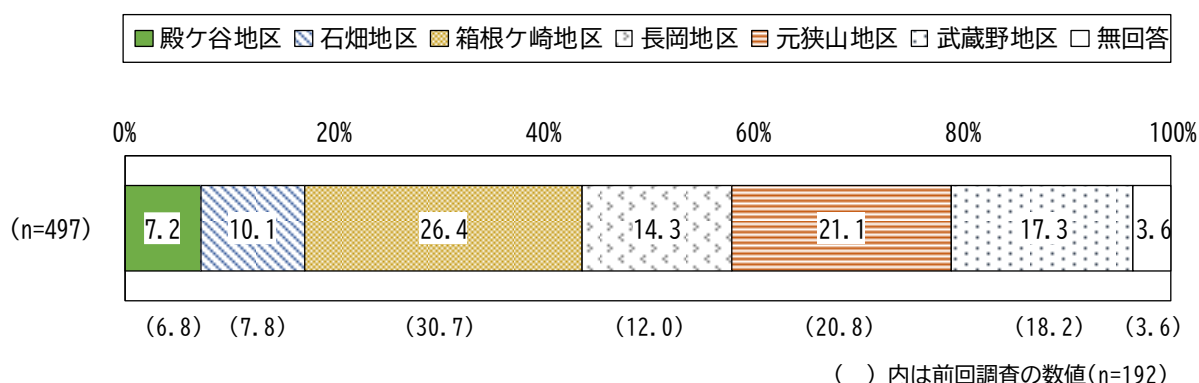
単位：％

		合計(n)	今住んでいるところに住み続けたい	瑞穂町のどこかに住み続けたい	町外に転居したい	無回答
全体		497	73.4	7.8	13.3	5.4
年齢	18～29歳	35	34.3	22.9	40.0	2.9
	30～39歳	31	67.7	6.5	22.6	3.2
	40～49歳	60	65.0	11.7	16.7	6.7
	50～59歳	89	67.4	11.2	18.0	3.4
	60～64歳	42	71.4	2.4	11.9	14.3
	65～74歳	115	80.0	6.1	10.4	3.5
	75歳以上	117	90.6	3.4	1.7	4.3
同居家族	小学校入学前の子ども	28	78.6	10.7	7.1	3.6
	小・中学生の子ども	48	62.5	12.5	22.9	2.1
	介護を必要とする家族	35	74.3	11.4	8.6	5.7
	65歳以上の家族	197	77.7	4.6	12.2	5.6
	どれもあてはまらない	150	70.0	9.3	17.3	3.3

(9) 居住地区

回答者の居住地区は、「箱根ヶ崎地区」が26.4%で最も多く、以下「元狭山地区」が21.1%、「武蔵野地区」が17.3%、「長岡地区」が14.3%、「石畑地区」が10.1%、「殿ヶ谷地区」が7.2%となっています。

問66 あなたは現在、どちらにお住まいですか。(1つに○)



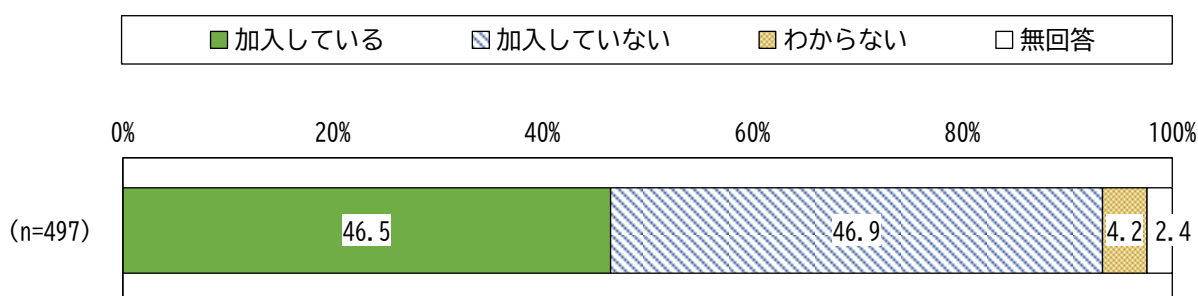
(10) 町内会・自治会への加入状況

回答者の町内会・自治会への加入状況は、「加入していない」が46.9%で最も多く、以下「加入している」が46.5%、「わからない」が4.2%となっています。

居住地区でみると、「加入している」は、石畑地区では64.0%、殿ヶ谷地区では61.1%を占めていますが、長岡地区では33.8%にとどまるなど、地区による差がみられます。

問67 あなたは町内会・自治会に加入していますか。(1つに○)

※今回新設した設問



◇クロス集計表

単位：%

		合計(n)	加入している	加入していない	わからない	無回答
全体		497	46.5	46.9	4.2	2.4
年齢	18～29歳	35	14.3	57.1	25.7	2.9
	30～39歳	31	9.7	77.4	12.9	0.0
	40～49歳	60	33.3	58.3	5.0	3.3
	50～59歳	89	46.1	52.8	1.1	0.0
	60～64歳	42	50.0	40.5	4.8	4.8
	65～74歳	115	58.3	40.0	0.0	1.7
	75歳以上	117	58.1	37.6	1.7	2.6
居住地区	殿ヶ谷地区	36	61.1	38.9	0.0	0.0
	石畑地区	50	64.0	34.0	2.0	0.0
	箱根ヶ崎地区	131	47.3	45.0	6.1	1.5
	長岡地区	71	33.8	63.4	1.4	1.4
	元狭山地区	105	41.0	53.3	5.7	0.0
	武蔵野地区	86	52.3	43.0	4.7	0.0

2 安心して暮らしやすいまちづくりについて

(1) 瑞穂町は安心して暮らしやすい町だと思うか

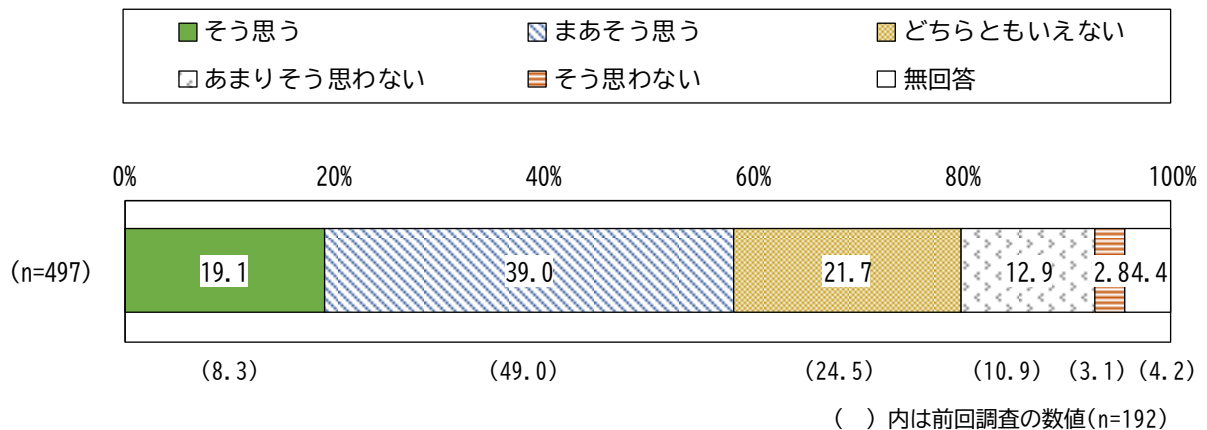
瑞穂町は安心して暮らしやすい町だと思うかは、「まあそう思う」が39.0%で最も多く、以下「どちらともいえない」が21.7%、「そう思う」が19.1%、「あまりそう思わない」が12.9%、「そう思わない」が2.8%となっています。

年齢で見ると、いずれも『そう思う』が過半数を占めていますが、40～49歳と50～59歳では『そう思わない』が比較的多く、それぞれ23.3%、23.6%となっています。

居住地区で見ると、武蔵野地区では『そう思う』が47.7%で半数に満たず、元狭山地区では『そう思わない』が比較的多く25.7%となっています。

前回調査と比較すると「そう思う」との回答が多くなっています。

問1 瑞穂町は安心して、暮らしやすい町と思いますか。(1つに○)



◇クロス集計表

単位：%

	合計(n)	そう思う①	まあそう思う②	どちらともいえない	あまりそう思わない③	そう思わない④	無回答	『そう思う』①+②	『そう思わない』③+④	
全体	497	19.1	39.0	21.7	12.9	2.8	4.4	58.1	15.7	
年齢	18～29歳	35	31.4	34.3	14.3	11.4	2.9	5.7	65.7	14.3
	30～39歳	31	12.9	45.2	19.4	16.1	3.2	3.2	58.1	19.4
	40～49歳	60	15.0	35.0	25.0	20.0	3.3	1.7	50.0	23.3
	50～59歳	89	18.0	43.8	13.5	19.1	4.5	1.1	61.8	23.6
	60～64歳	42	16.7	35.7	31.0	14.3	0.0	2.4	52.4	14.3
	65～74歳	115	20.0	37.4	22.6	13.0	3.5	3.5	57.4	16.5
	75歳以上	117	18.8	41.0	25.6	3.4	1.7	9.4	59.8	5.1
居住地区	殿ヶ谷地区	36	27.8	30.6	19.4	11.1	5.6	5.6	58.3	16.7
	石畑地区	50	22.0	54.0	14.0	8.0	0.0	2.0	76.0	8.0
	箱根ヶ崎地区	131	23.7	38.9	20.6	11.5	1.5	3.8	62.6	13.0
	長岡地区	71	19.7	42.3	22.5	8.5	1.4	5.6	62.0	9.9
	元狭山地区	105	14.3	37.1	20.0	20.0	5.7	2.9	51.4	25.7
	武蔵野地区	86	15.1	32.6	27.9	14.0	2.3	8.1	47.7	16.3

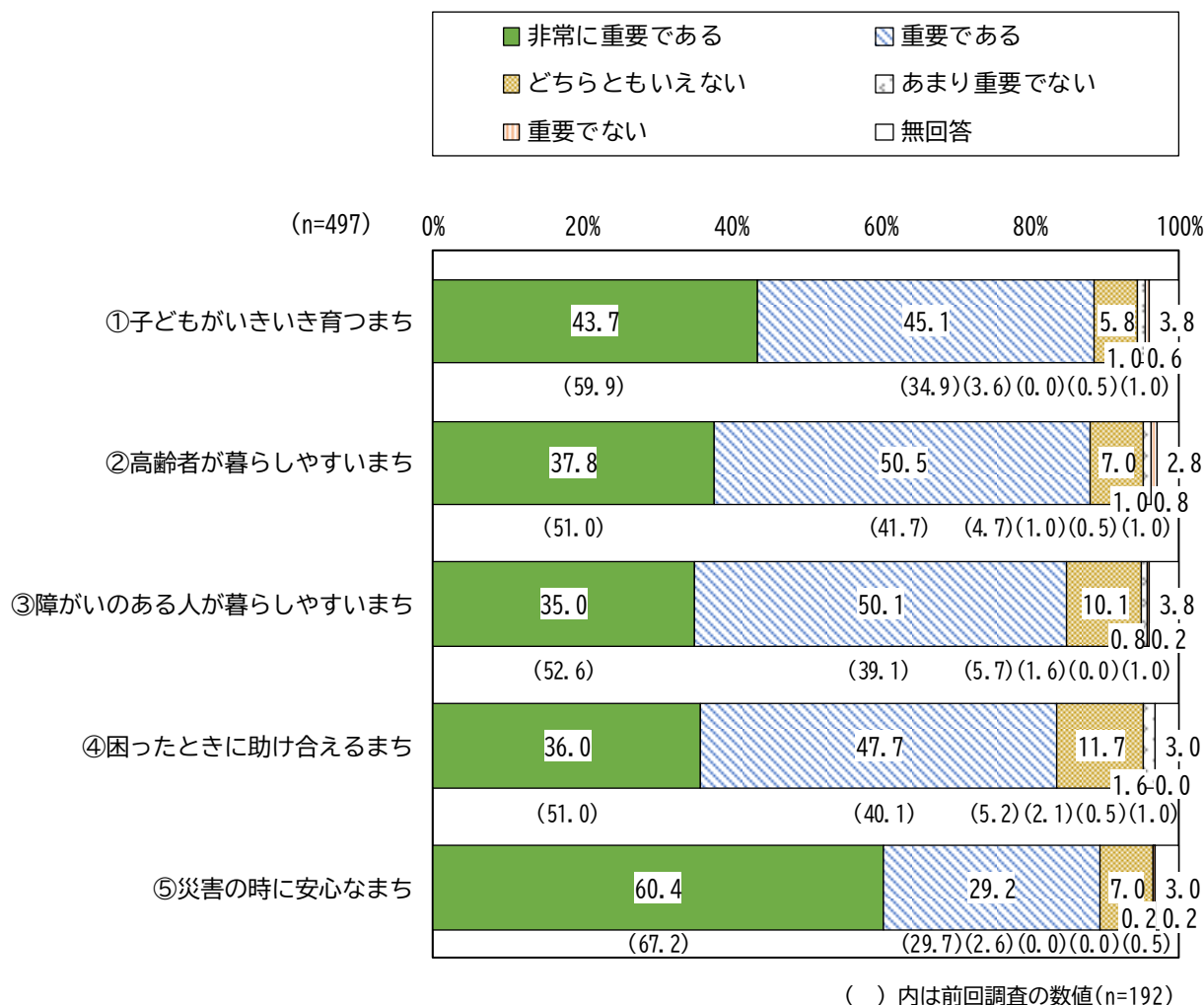
(2) 暮らしやすいと思うまちの姿の重要度

暮らしやすいと思うまちの姿の重要度について、「非常に重要である」が最も多い項目は、『⑤災害の時に安心なまち』で60.4%となっています。以下『①子どもがいきいき育つまち』が43.7%、『②高齢者が暮らしやすいまち』が37.8%、『④困った時に助け合えるまち』が36.0%、『③障がいのある人が暮らしやすいまち』が35.0%となっています。

「非常に重要である」と「重要である」と合わせると、いずれの項目も過半数を占めており、なかでも『⑤災害の時に安心なまち』は89.6%を占め、重要度が最も高くなっています。

前回調査との比較においても、『⑤災害の時に安心なまち』の重要度が最も高いことがわかります。

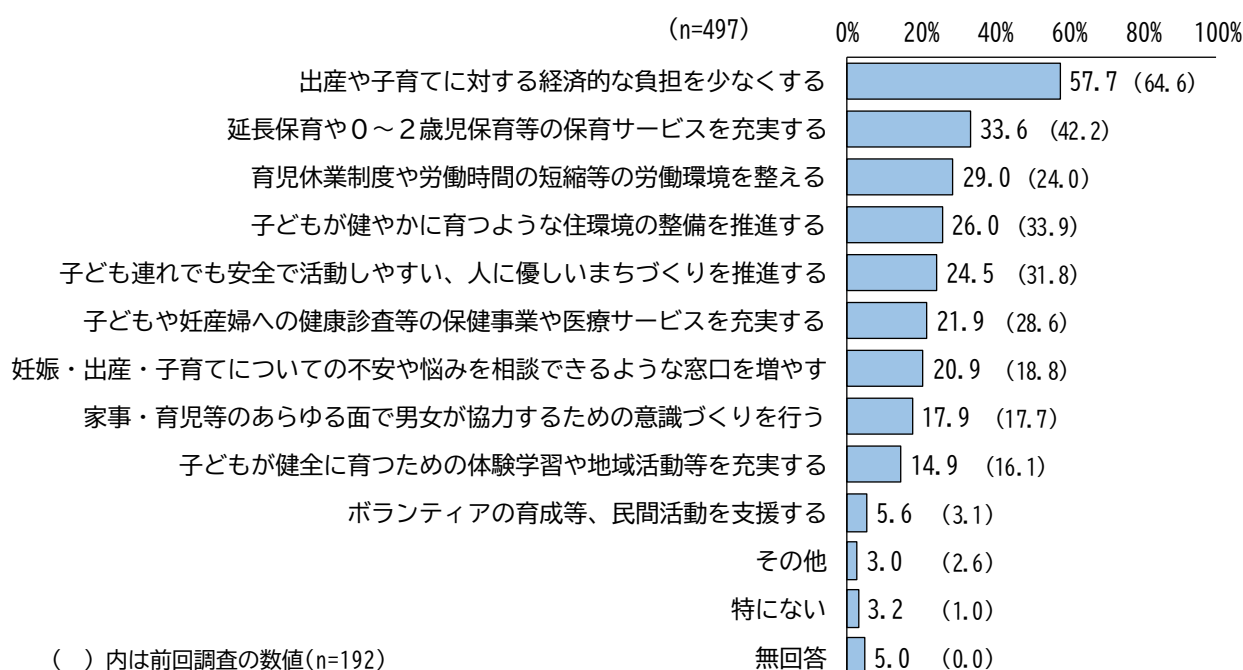
問2 あなたにとって暮らしやすいと思うまちの姿を重要度でお答えください。(それぞれ1つに○)



(3) 子どもを健やかに産み育てていくために必要なこと

子どもを健やかに産み育てていくために必要なことは、「出産や子育てに対する経済的な負担を少なくする」が57.7%で最も多く、以下「延長保育や0～2歳児保育等の保育サービスを充実する」が33.6%、「育児休業制度や労働時間の短縮等の労働環境を整える」が29.0%、「子どもが健やかに育つような住環境の整備を推進する」が26.0%などとなっています。

問3 安心して子どもを健やかに産み育てていくためには、あなたはどのようなことが必要だと思いますか。(3つまでに○)

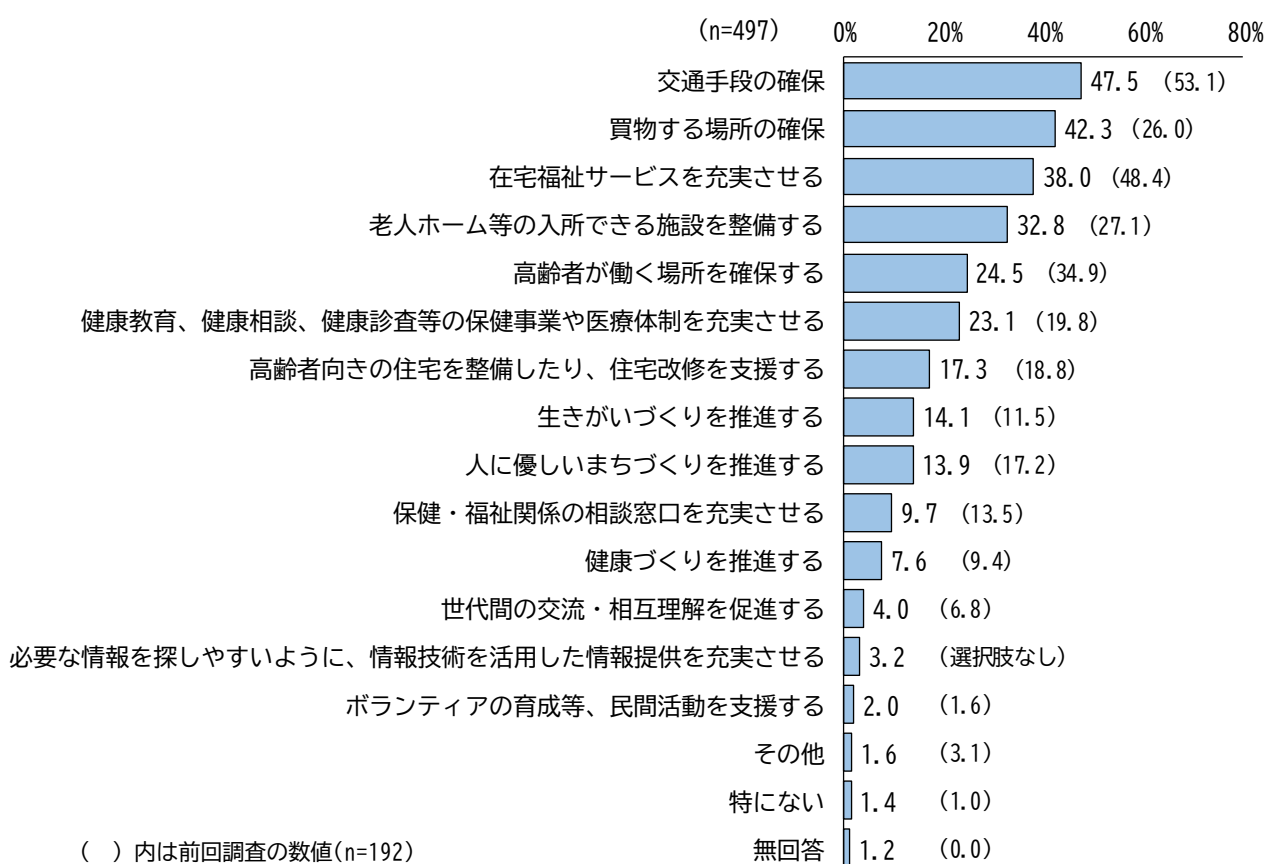


(4) 高齢者が暮らしやすい社会とするために必要なこと

高齢者が暮らしやすい社会とするために必要なことは、「交通手段の確保」が47.5%で最も多く、以下「買物する場所の確保」が42.3%、「在宅福祉サービスを充実させる（ホームヘルパーの派遣やデイサービスの拡充など）」が38.0%、「老人ホーム等の入所できる施設を整備する」が32.8%などとなっています。

前回調査と比較すると、「買物する場所の確保」が多くなっています。

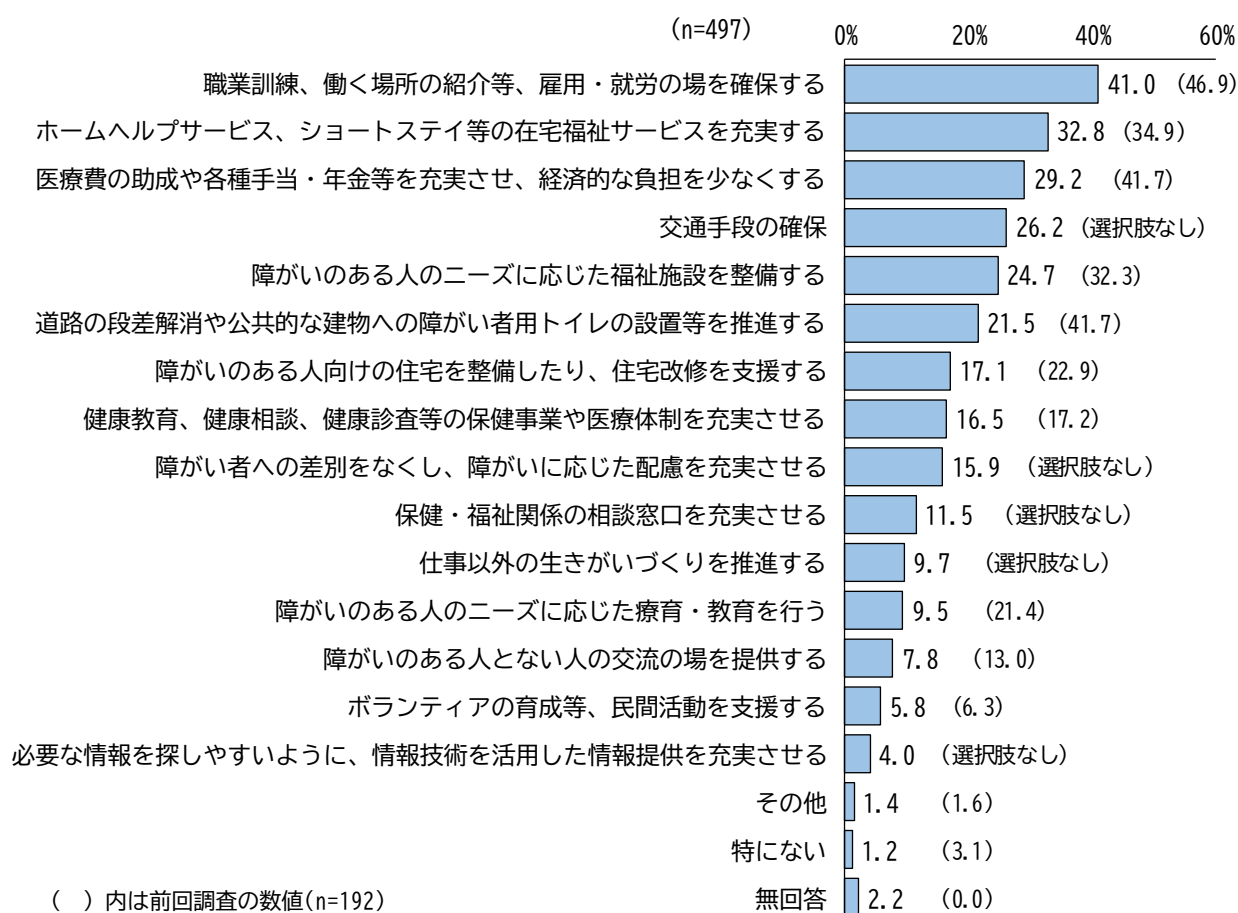
問4 高齢者が暮らしやすい社会とするために、あなたは、どのようなことが必要だと思いますか。
(3つまでに○)



(5) 障がいのある人にも優しい社会をつくるために大切なこと

障がいのある人にも優しい社会をつくるために大切なことは、「職業訓練、働く場所の紹介等、雇用・就労の場を確保する」が41.0%で最も多く、以下「ホームヘルプサービス、ショートステイ等の在宅福祉サービスを充実する」が32.8%、「医療費の助成や各種手当・年金等を充実させ、経済的な負担を少なくする」が29.2%、「交通手段の確保」が26.2%などとなっています。

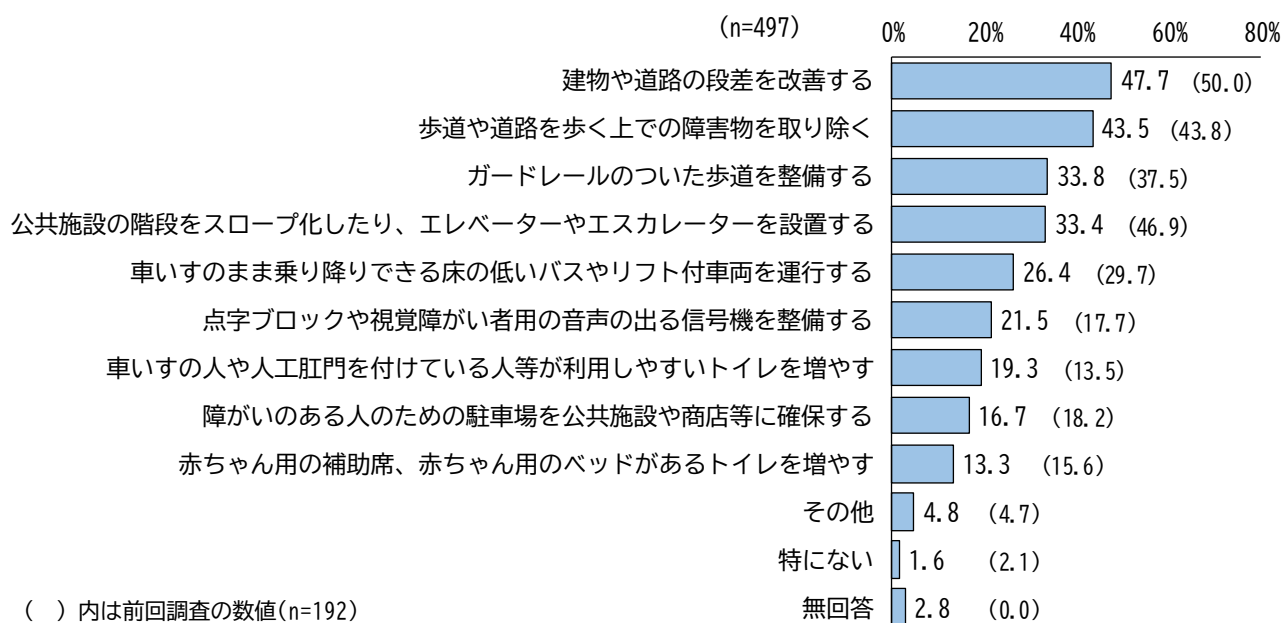
問5 障がいのある人にも優しい社会をつくるためには、あなたはどのようなことが大切だと思いますか。(3つまでに○)



(6) 外出しやすいまちづくりを進めるために必要なこと

外出しやすいまちづくりを進めるために必要なことは、「建物や道路の段差を改善する」が47.7%で最も多く、以下「歩道や道路を歩く上での障害物を取り除く」が43.5%、「ガードレールのついた歩道を整備する」が33.8%、「公共施設の階段をスロープ化したり、エレベーターやエスカレーターを設置する」が33.4%などとなっています。

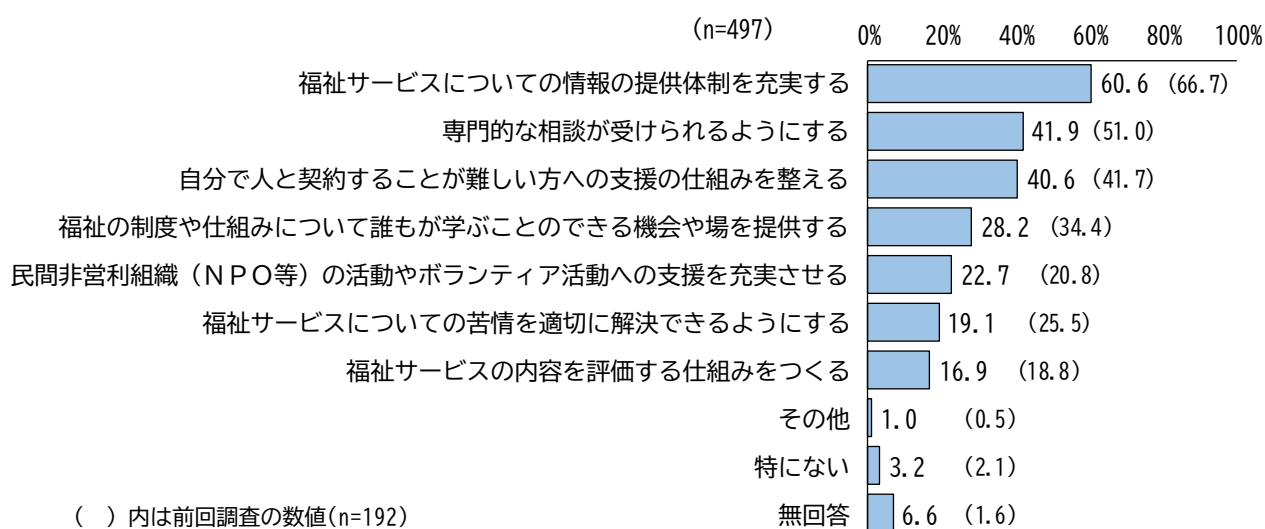
問6 あなたは、障がいのある人や妊婦、子ども連れ、高齢者等が外出しやすいまちづくりを進めるためには、どのようなことが必要だと思いますか。(3つまでに○)



(7) 利用者本位の福祉を実現するために必要なこと

利用者本位の福祉を実現するために必要なことは、「福祉サービスについての情報の提供体制を充実する」が60.6%で最も多く、以下「専門的な相談が受けられるようにする」が41.9%、「自分で人と契約することが難しい方への支援の仕組みを整える」が40.6%、「福祉の制度や仕組みについて誰もが学ぶことのできる機会や場を提供する」が28.2%などとなっています。

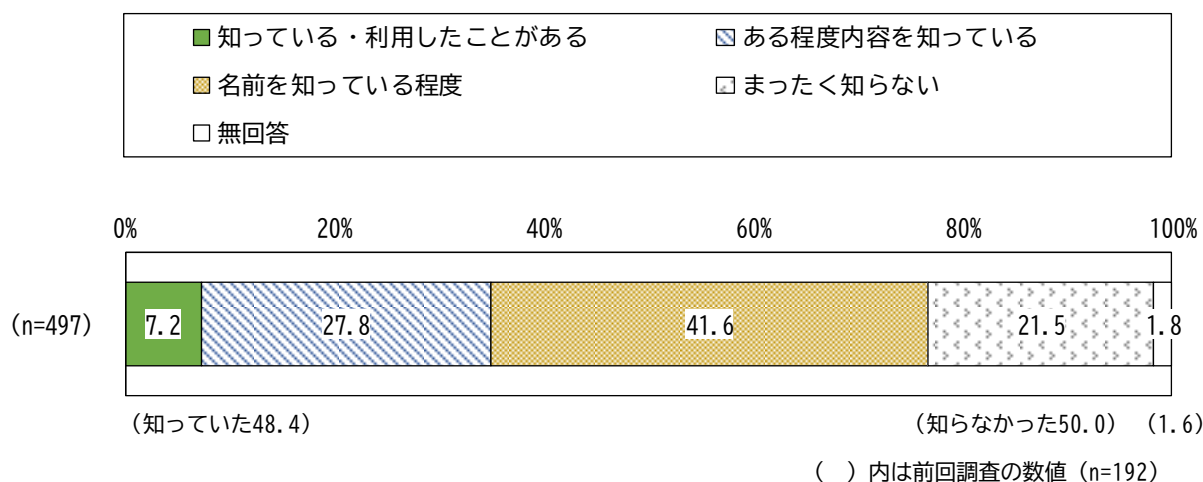
問7 ほとんどの福祉サービスを利用者が選択（利用者自身が必要とする福祉サービスを自ら選択）できるようになりましたが、あなたは、こうした利用者本位の福祉を実現するために、どのようなことが必要になると思いますか。（3つまでに○）



(8) 成年後見制度の認知度

成年後見制度の認知度は、「名前を知っている程度」が41.6%で最も多く、以下「ある程度内容を知っている」が27.8%、「まったく知らない」が21.5%、「知っている・利用したことがある」が7.2%となっています。

問8 成年後見制度を知っていますか。(1つに○)



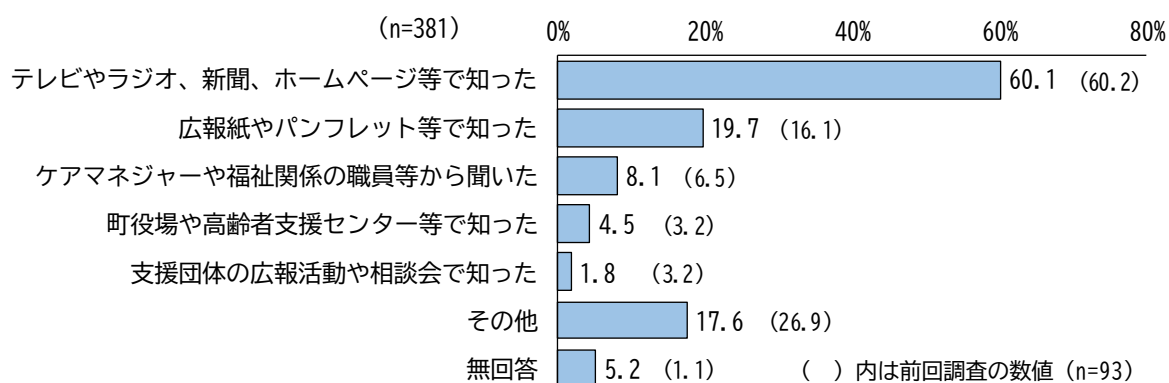
(9) 成年後見制度を知ったきっかけ

成年後見制度を知ったきっかけは、「テレビやラジオ、新聞、ホームページ等で知った」が60.1%で最も多く、以下「広報誌やパンフレット等で知った」が19.7%、「ケアマネジャーや福祉関係の職員等から聞いた」が8.1%、「町役場や高齢者支援センター等で知った」が4.5%などとなっています。

なお、「その他」のきっかけとして、学校や職場、知人などが多く挙げられています。

問8で「1. 知っている・利用したことがある」～「3. 名前を知っている程度」と回答された方

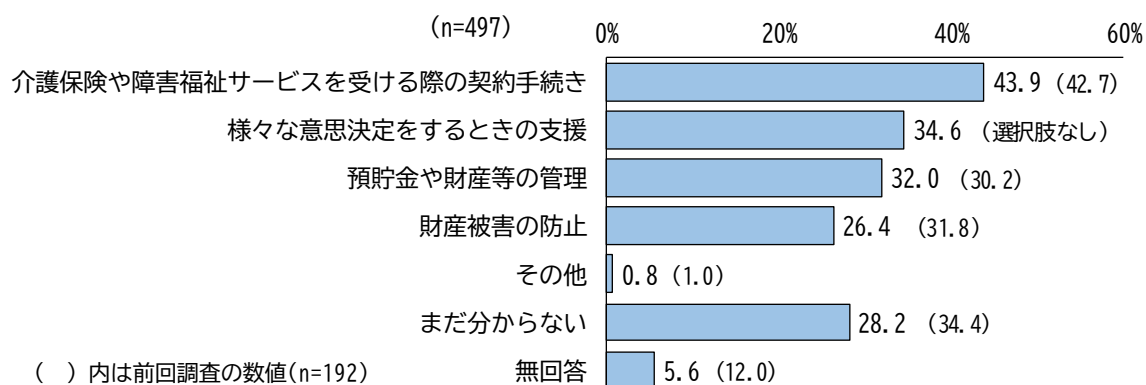
問8-1 成年後見制度をどのように知りましたか。(あてはまるものすべてに○)



(10) 成年後見制度をどのように利用したいか

成年後見制度をどのように利用したいかは、「介護保険や障害福祉サービスを受ける際の契約手続き」が43.9%で最も多く、以下「様々な意思決定をするときの支援」が34.6%、「預貯金や財産等の管理」が32.0%、「財産被害の防止」が26.4%となっています。一方、「まだ分からない」は28.2%となっています。

問9 成年後見制度を利用するとしたら、どのように利用したいですか。(あてはまるものすべてに○)



3 地域で行う福祉ボランティア活動や助け合い活動について

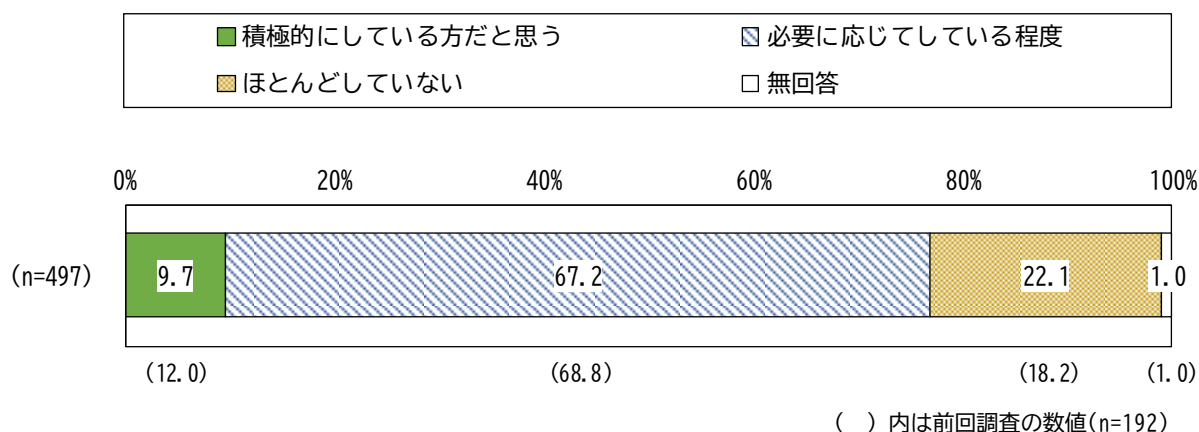
(1) 近所づきあいの程度

近所づきあいの程度は、「必要に応じてしている程度」が67.2%で最も多く、以下「ほとんどしていない」が22.1%、「積極的にしている方だと思ふ」が9.7%となっています。

年齢でみると、いずれも「必要に応じてしている程度」が過半数を占めていますが、30～59歳の年齢層では「ほとんどしていない」が3割を超えています。

家族構成でみると、単身世帯では「ほとんどしていない」が最も多く50.0%となっています。

問10 あなたの家と近所とのつきあいはどの程度ですか。(1つに○)



◇クロス集計表

単位：%

		合計(n)	積極的にしている方だと思ふ	必要に応じてしている程度	ほとんどしていない	無回答
全体		497	9.7	67.2	22.1	1.0
年齢	18～29歳	35	25.7	60.0	14.3	0.0
	30～39歳	31	6.5	61.3	32.3	0.0
	40～49歳	60	5.0	65.0	30.0	0.0
	50～59歳	89	7.9	58.4	33.7	0.0
	60～64歳	42	9.5	61.9	28.6	0.0
	65～74歳	115	8.7	72.2	19.1	0.0
	75歳以上	117	11.1	74.4	11.1	3.4
家族構成	単身世帯	56	7.1	42.9	50.0	0.0
	夫婦のみの世帯	158	5.7	75.9	17.1	1.3
	親子2世代	217	11.5	67.3	20.3	0.9
	親・子・孫3世代	36	22.2	63.9	11.1	2.8
	その他	19	10.5	63.2	26.3	0.0

(2) 近所づきあいをしていない理由

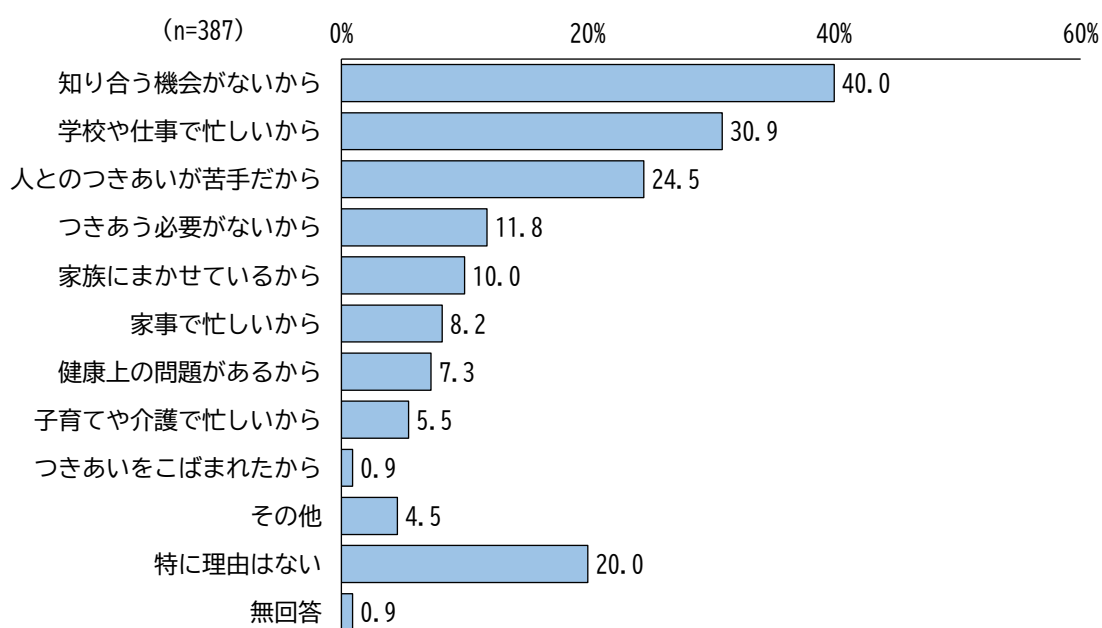
近所づきあいをしていない理由は、「知り合う機会がないから」が40.0%で最も多く、以下「学校や仕事で忙しいから」が30.9%、「人とのつきあいが苦手だから」が24.5%、「つきあう必要がないから」が11.8%などとなっています。

一方、「特に理由はない」は20.0%となっています。

問10で「3. ほとんどしていない」と回答された方

問10-1 その理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

※今回新設した設問



(3) 居住地域における助け合い支え合うつながりの有無

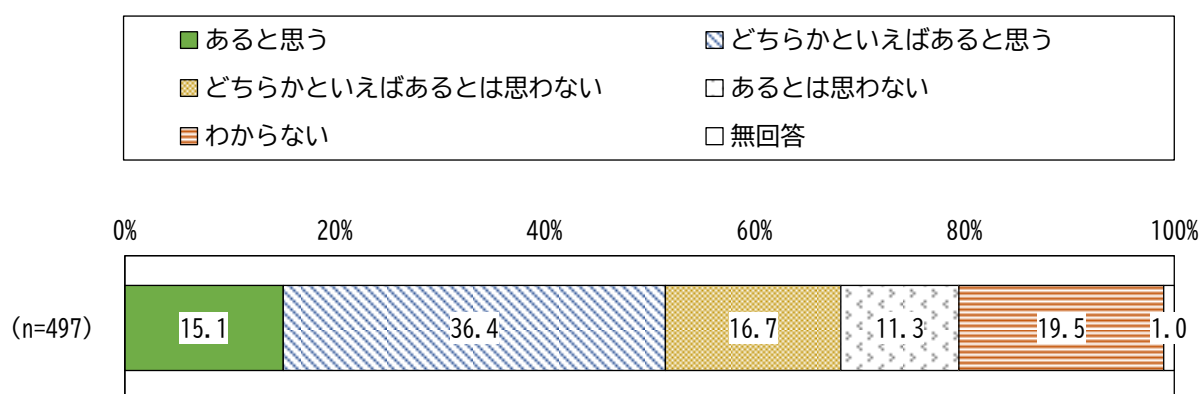
居住地域における助け合い支え合うつながりの有無は、「どちらかといえばあると思う」が36.4%で最も多く、以下「わからない」が19.5%、「どちらかといえばあるとは思わない」が16.7%、「あると思う」が15.1%、「あるとは思わない」が11.3%となっています。

居住地区でみると、全体と同様に、殿ヶ谷地区、石畑地区、元狭山地区では『ある』が過半数を占めています。一方、箱根ヶ崎地区、長岡地区、武蔵野地区では『ある』が半数を下回っており、『ない』が3割を超えています。また、各地区で「わからない」との回答が一定数あり、殿ヶ谷地区、石畑地区、武蔵野地区では2割を超えています。

町内会等への加入状況でみると、加入している人では『ある』が66.7%を占めていますが、加入していない人や加入状況がわからない人では半数を下回っており、「わからない」との回答も多くなっています。

問11 あなたがお住まいの地域には、困ったときに助け合い、支え合うつながりがあると思いますか。
(1つに○)

※今回新設した設問



◇クロス集計表

単位：%

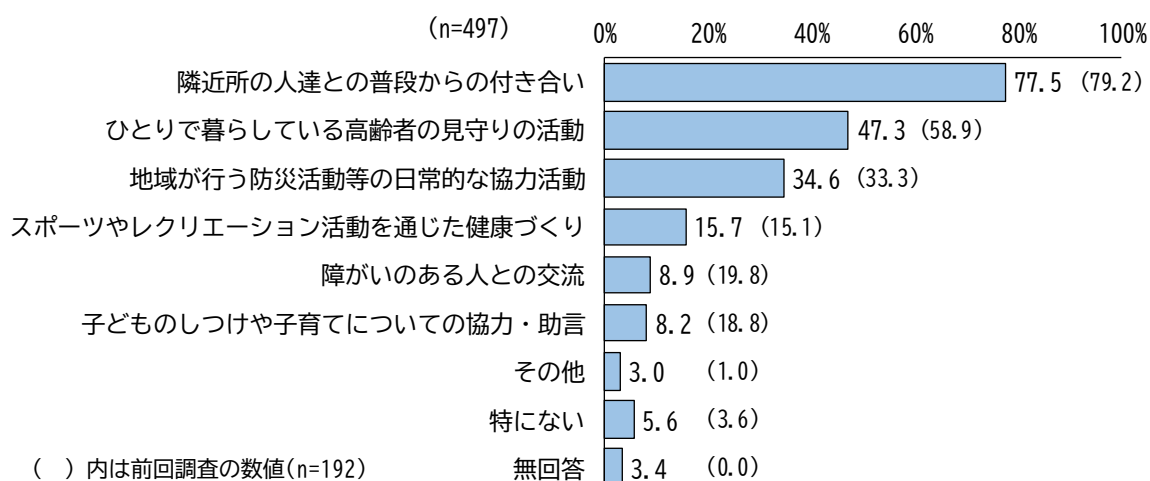
	合計(n)	回答						集計		
		あると思う①	どちらかといえばあると思う②	どちらかといえばあるとは思わない③	あるとは思わない④	わからない	無回答	『ある』①+②	『ない』③+④	
全体	497	15.1	36.4	16.7	11.3	19.5	1.0	51.5	28.0	
居住地区	殿ヶ谷地区	36	11.1	41.7	13.9	5.6	27.8	0.0	52.8	19.4
	石畑地区	50	28.0	38.0	10.0	0.0	22.0	2.0	66.0	10.0
	箱根ヶ崎地区	131	16.0	33.6	18.3	13.0	18.3	0.8	49.6	31.3
	長岡地区	71	9.9	39.4	12.7	18.3	19.7	0.0	49.3	31.0
	元狭山地区	105	17.1	40.0	20.0	7.6	14.3	1.0	57.1	27.6
	武蔵野地区	86	12.8	27.9	18.6	16.3	22.1	2.3	40.7	34.9
	町内会	加入している	231	22.9	43.7	12.1	7.4	12.6	1.3	66.7
加入していない		233	7.7	29.6	21.0	14.6	26.2	0.9	37.3	35.6
わからない		21	19.0	23.8	9.5	14.3	33.3	0.0	42.9	23.8

(4) 地域で支え合っていく上で大切なこと

地域で支え合っていく上で大切なことは、「隣近所の人達との普段からの付き合い」が77.5%で最も多く、以下「ひとりで暮らしている高齢者の見守りの活動」が47.3%、「地域が行う防災活動等の日常的な協力活動」が34.6%、「スポーツやレクリエーション活動を通じた健康づくり」が15.7%などとなっています。

年齢でみると、いずれの年齢でも「隣近所の人達との普段からの付き合い」が最も多くなっています。また、「ひとりで暮らしている高齢者の見守りの活動」と「地域が行う防災活動等の日常的な協力活動」は年齢が高いほど多くなる傾向があり、特に65～74歳で多くなっています。「障がいのある人との交流」は60～64歳で多く、「子どものしつけや子育てについての協力・助言」は50歳未満の層で多くなっています。

問12 あなたは、地域の人達がお互いに支え合っていく上で大切なことは、どのようなことだと思いますか。(3つまでに○)



◇クロス集計表

単位：%

	合計(n)	隣近所の人達との普段からの付き合い	ひとりで暮らしている高齢者の見守りの活動	地域が行う防災活動等の日常的な協力活動	スポーツやレクリエーション活動を通じた健康づくり	障がいのある人との交流	子どものしつけや子育てについての協力・助言	その他	特にない	無回答	
全体	497	77.5	47.3	34.6	15.7	8.9	8.2	3.0	5.6	3.4	
年齢	18～29歳	35	71.4	28.6	25.7	20.0	8.6	17.1	0.0	8.6	0.0
	30～39歳	31	77.4	35.5	29.0	12.9	9.7	19.4	0.0	9.7	0.0
	40～49歳	60	68.3	46.7	23.3	8.3	13.3	20.0	5.0	11.7	0.0
	50～59歳	89	78.7	51.7	28.1	12.4	9.0	6.7	4.5	3.4	1.1
	60～64歳	42	73.8	52.4	42.9	11.9	21.4	4.8	4.8	7.1	0.0
	65～74歳	115	80.0	55.7	45.2	18.3	5.2	4.3	1.7	3.5	2.6
	75歳以上	117	82.9	45.3	35.0	19.7	5.1	2.6	1.7	4.3	9.4

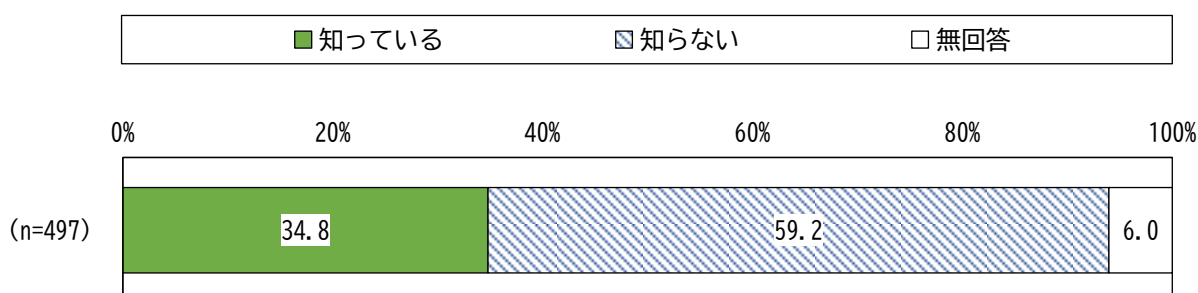
(5) 地域の人が困っているときの相談先を知っているか

地域の人困っているときの相談先を知っているかは、「知らない」が59.2%、「知っている」が34.8%となっています。

年齢で見ると、年齢が低いほど「知らない」が高くなる傾向があり、50歳未満の層では8割を超えています。

問13 あなたは、地域の人困っているとき、どこに相談すればよいか知っていますか。(1つに○)

※今回新設した設問



◇クロス集計表

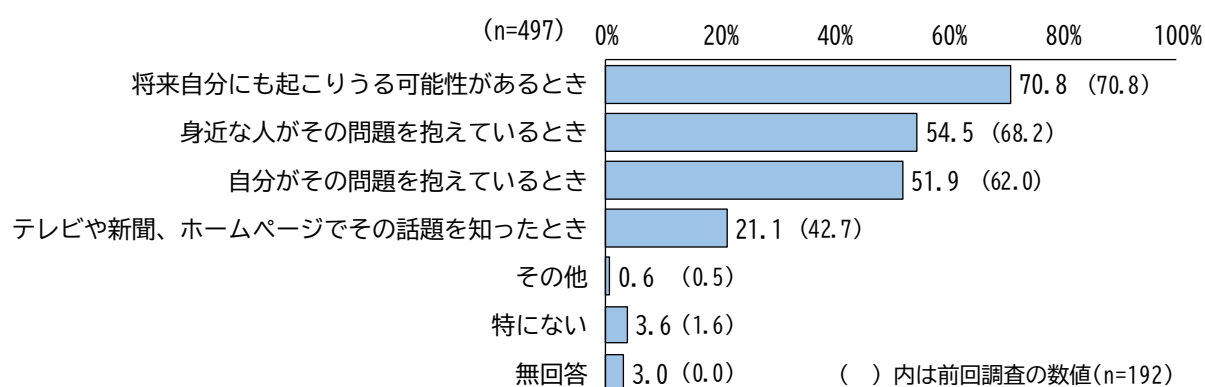
単位：%

		合計(n)	知っている	知らない	無回答
全体		497	34.8	59.2	6.0
年齢	18～29歳	35	14.3	85.7	0.0
	30～39歳	31	16.1	83.9	0.0
	40～49歳	60	20.0	80.0	0.0
	50～59歳	89	29.2	69.7	1.1
	60～64歳	42	45.2	52.4	2.4
	65～74歳	115	47.0	43.5	9.6
	75歳以上	117	41.9	46.2	12.0
居住地区	殿ヶ谷地区	36	38.9	55.6	5.6
	石畑地区	50	44.0	48.0	8.0
	箱根ヶ崎地区	131	31.3	61.8	6.9
	長岡地区	71	26.8	70.4	2.8
	元狭山地区	105	39.0	55.2	5.7
	武蔵野地区	86	33.7	59.3	7.0

(6) 地域の問題を自分のこととしてとらえるとき

地域の問題を自分のこととしてとらえるときは、「将来自分にも起こりうる可能性があるとき」が70.8%で最も多く、以下「身近な人がその問題を抱えているとき」が54.5%、「自分がその問題を抱えているとき」が51.9%、「テレビや新聞、ホームページでその話題を知ったとき」が21.1%となっています。

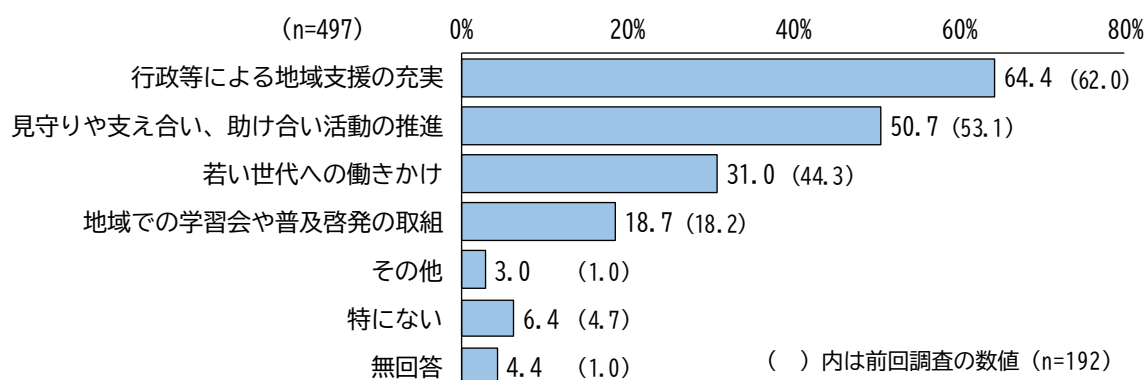
問14 「地域で困っている人や世帯の問題」を「我が事＝自分のこと」として、とらえるのはどんなときですか。(あてはまるものすべてに○)



(7) 地域の課題に主体的に取り組むために有効な手段

地域の課題に主体的に取り組むために有効な手段は、「行政等による地域支援の充実」が64.4%で最も多く、以下「見守りや支え合い、助け合い活動の推進」が50.7%、「若い世代への働きかけ」が31.0%、「地域での学習会や普及啓発の取組」が18.7%となっています。

問15 地域の活動において、地域課題を住民が「我が事＝自分のこと」として主体的に取り組んでもらえるための有効な手段は何だと思えますか。(あてはまるものすべてに○)



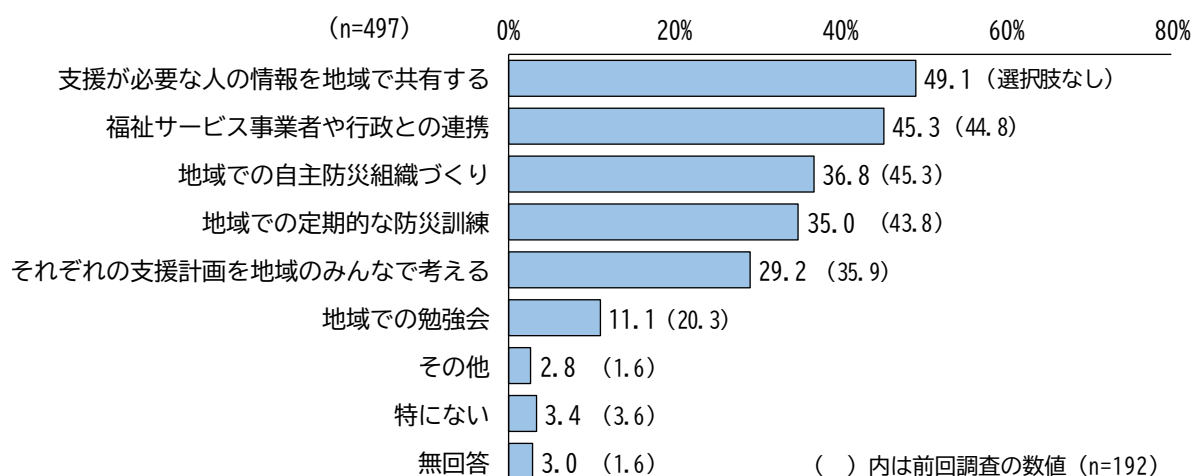
(8) 地震や災害時に住民同士が協力し合うために必要なこと

地震や災害時に住民同士が協力し合うために必要なことは、「支援が必要な人の情報を地域で共有する」が49.1%で最も多く、以下「福祉サービス事業者や行政との連携」が45.3%、「地域での自主防災組織づくり」が36.8%、「地域での定期的な防災訓練」が35.0%などとなっています。

居住地区でみると、いずれの地区においても「支援が必要な人の情報を地域で共有する」が最も多く、殿ヶ谷地区、石畑地区、箱根ヶ崎地区では過半数を占めています。

前回調査と比較すると、今回選択肢として設定した「支援が必要な人の情報を地域で共有する」が最も多くなっています。

問16 地震や災害時に住民同士が協力し合えるためには、どのようなことが必要だと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)



◇クロス集計表

単位：%

		合計(n)	支援が必要な人の情報を地域で共有する	福祉サービス事業者や行政との連携	地域での自主防災組織づくり	地域での定期的な防災訓練	それぞれの支援計画を地域のみみんなで考える
全体		497	49.1	45.3	36.8	35.0	29.2
居住地区	殿ヶ谷地区	36	55.6	47.2	38.9	44.4	36.1
	石畑地区	50	54.0	40.0	38.0	48.0	30.0
	箱根ヶ崎地区	131	51.9	51.1	43.5	38.2	35.1
	長岡地区	71	38.0	36.6	35.2	31.0	22.5
	元狭山地区	105	49.5	45.7	33.3	22.9	25.7
	武蔵野地区	86	50.0	48.8	31.4	36.0	25.6

(9) 日常生活が円滑にいかなくなったときに地域に手助けしてほしいこと

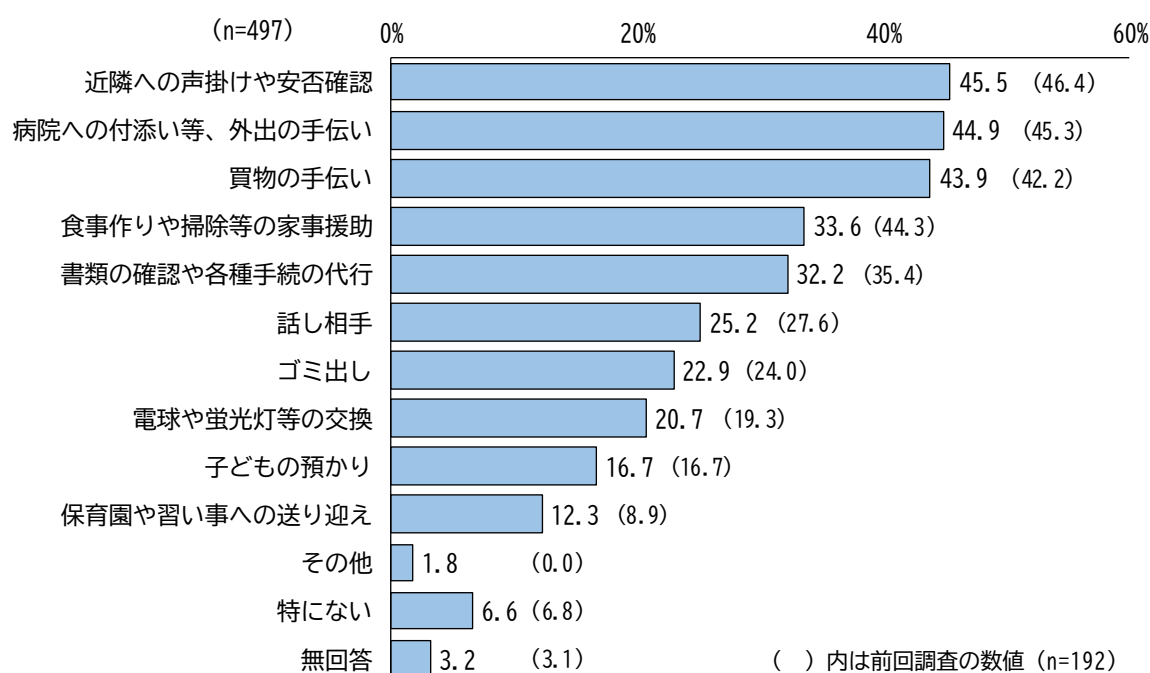
日常生活が円滑にいかなくなったときに地域に手助けしてほしいことは、「近隣への声掛けや安否確認」が45.5%で最も多く、以下「病院への付添い等、外出の手伝い」が44.9%、「買物の手伝い」が43.9%、「食事作りや掃除等の家事援助」が33.6%などとなっています。

年齢でみると、18～29歳では「子どもの預かり」が40.0%で最も多くなっており、50歳未満の層で、「保育園や習い事への送り迎え」など、子どもに関する手助けが50歳以上の層より多くなっています。また、50～59歳の層では上位4項目が、60～64歳の層では上位5項目がいずれも4割を超えています。

同居家族でみると、子どもがいる世帯では「子どもの預かり」、「保育園や習い事への送り迎え」が他の世帯より多くなっています。また、介護を必要とする家族では「病院への付添い等、外出の手伝い」が60.0%で最も多く、次いで「近隣への声掛けや安否確認」が51.4%となっており、いずれも過半数を占めています。

居住地区でみると、石畑地区では「近隣への声掛けや安否確認」が62.0%を占め、他の地区より多くなっています。また、殿ヶ谷地区、石畑地区、箱根ヶ崎地区では、2～4位である「病院への付添い等、外出の手伝い」、「買物の手伝い」、「食事作りや掃除等の家事援助」が他の地区より多くなっています。

問17 あなたやご家族が、高齢や病気、もしくは子育てなどで日常生活が円滑にいかなくなったとき、地域でどのような手助けをしてほしいと思いますか。公的なサービスは除きます。(あてはまるものすべてに○)



◇クロス集計表

単位：%

		合計 (n)	近隣への声掛けや安否確認	病院への付添い等、外出の手伝い	買物の手伝い	食事作りや掃除等の家事援助	書類の確認や各種手続の代行	話し相手	ゴミ出し	電球や蛍光灯等の交換	子どもの預かり	保育園や習い事への送り迎え	その他	特にない	無回答
全体		497	45.5	44.9	43.9	33.6	32.2	25.2	22.9	20.7	16.7	12.3	1.8	6.6	3.2
年齢	18～29歳	35	37.1	31.4	31.4	31.4	25.7	31.4	20.0	20.0	40.0	31.4	0.0	11.4	0.0
	30～39歳	31	38.7	41.9	38.7	45.2	48.4	29.0	16.1	25.8	35.5	32.3	0.0	6.5	0.0
	40～49歳	60	38.3	48.3	51.7	30.0	35.0	21.7	23.3	16.7	30.0	21.7	3.3	3.3	0.0
	50～59歳	89	50.6	50.6	43.8	43.8	38.2	29.2	20.2	23.6	16.9	10.1	2.2	2.2	1.1
	60～64歳	42	47.6	50.0	47.6	45.2	47.6	26.2	26.2	28.6	11.9	4.8	2.4	9.5	0.0
	65～74歳	115	44.3	43.5	44.3	27.0	24.3	16.5	21.7	20.0	8.7	7.8	1.7	10.4	4.3
	75歳以上	117	50.4	43.6	44.4	29.1	26.5	28.2	26.5	17.9	7.7	5.1	1.7	6.0	6.0
同居家族	小学校入学前の子ども	28	28.6	39.3	32.1	35.7	42.9	21.4	14.3	14.3	60.7	50.0	0.0	3.6	0.0
	小・中学生の子ども	48	37.5	41.7	52.1	31.3	22.9	29.2	20.8	16.7	56.3	31.3	0.0	2.1	0.0
	介護を必要とする家族	35	51.4	60.0	34.3	34.3	34.3	22.9	20.0	25.7	14.3	14.3	2.9	5.7	0.0
	65歳以上の家族	197	45.2	46.7	46.2	34.0	32.0	21.3	24.9	22.3	11.2	8.6	2.0	7.6	5.6
	どれもあてはまらない	150	48.7	43.3	46.0	34.7	38.7	26.0	24.7	19.3	13.3	10.7	1.3	5.3	2.7
居住地区	殿ヶ谷地区	36	50.0	47.2	47.2	38.9	27.8	25.0	22.2	19.4	25.0	13.9	0.0	5.6	0.0
	石畑地区	50	62.0	50.0	48.0	36.0	26.0	40.0	18.0	22.0	12.0	6.0	0.0	4.0	8.0
	箱根ヶ崎地区	131	43.5	48.1	50.4	42.7	34.4	20.6	31.3	22.9	21.4	16.8	2.3	4.6	1.5
	長岡地区	71	40.8	35.2	40.8	26.8	26.8	16.9	23.9	15.5	5.6	5.6	4.2	7.0	2.8
	元狭山地区	105	42.9	43.8	41.0	24.8	25.7	28.6	14.3	16.2	13.3	11.4	2.9	11.4	3.8
	武蔵野地区	86	41.9	44.2	32.6	27.9	45.3	20.9	23.3	25.6	17.4	11.6	0.0	5.8	3.5

(10) 近所で困っている家庭があった場合に手助けできること

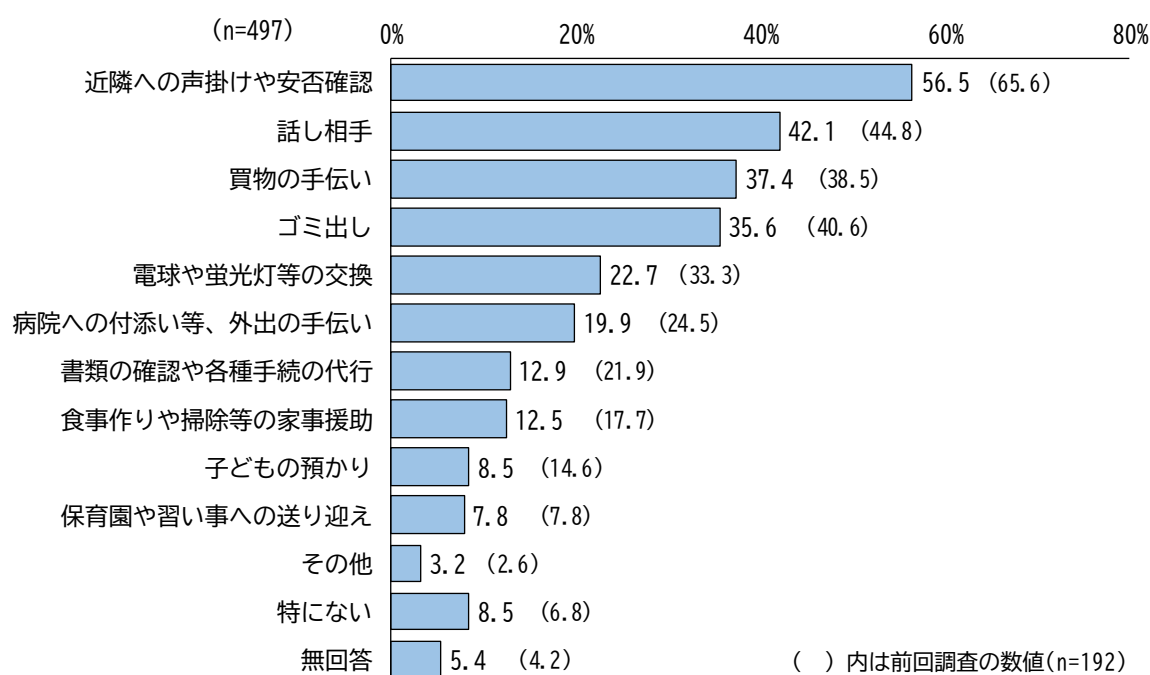
近所で困っている家庭があった場合に手助けできることは、「近隣への声掛けや安否確認」が56.5%で最も多く、以下「話し相手」が42.1%、「買物の手伝い」が37.4%、「ゴミ出し」が35.6%などとなっています。

年齢で見ると、いずれの年齢においても「近隣への声掛けや安否確認」が最も多く、60～64歳では78.6%を占めています。また、60～64歳では全体的に割合が高くなっています。

同居家族で見ると、小学校入学前の子どもがいる世帯では「買物の手伝い」が60.7%で最も多く、「子どもの預かり」が28.6%で他の世帯より多くなっています。

居住地区で見ると、いずれも地区においても「近隣への声掛けや安否確認」が最も多く、殿ヶ谷地区、石畑地区、箱根ヶ崎地区では6割を超えています。

問18 近隣に高齢者や障がいのある人の介助・介護、子育て等で困っている家庭があった場合、あなたはどのような手助けができると思いますか。(あてはまるものすべてに○)



◇クロス集計表

単位：％

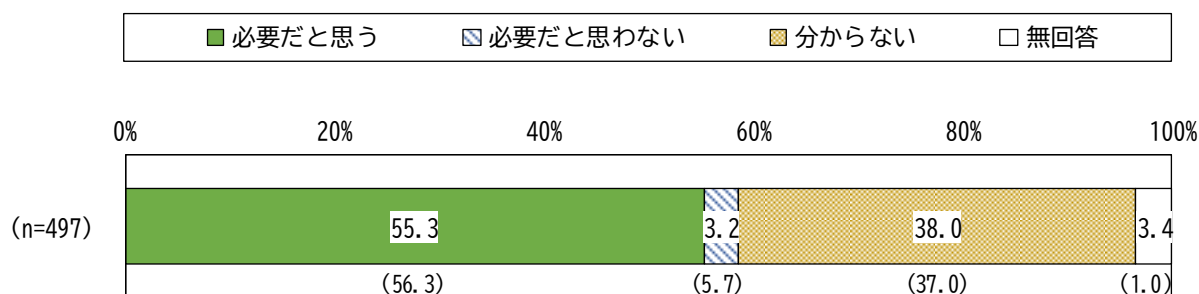
		合計 (n)	近隣への声掛けや安否確認	話し相手	買物の手伝い	ゴミ出し	電球や蛍光灯等の交換	病院への付添い等、外出の手伝い	書類の確認や各種手続の代行	食事作りや掃除等の家事援助	子どもの預かり	保育園や習い事への送り迎え	その他	特にない	無回答
全体		497	56.5	42.1	37.4	35.6	22.7	19.9	12.9	12.5	8.5	7.8	3.2	8.5	5.4
年齢	18～29歳	35	54.3	37.1	42.9	28.6	22.9	25.7	8.6	11.4	11.4	14.3	2.9	14.3	0.0
	30～39歳	31	48.4	48.4	35.5	25.8	25.8	19.4	16.1	12.9	16.1	9.7	0.0	9.7	6.5
	40～49歳	60	43.3	36.7	36.7	31.7	31.7	16.7	15.0	15.0	15.0	11.7	3.3	11.7	0.0
	50～59歳	89	55.1	46.1	40.4	28.1	25.8	18.0	12.4	11.2	7.9	5.6	3.4	9.0	3.4
	60～64歳	42	78.6	52.4	57.1	52.4	28.6	23.8	19.0	7.1	9.5	9.5	0.0	2.4	0.0
	65～74歳	115	57.4	35.7	34.8	40.9	18.3	20.0	11.3	14.8	4.3	7.0	4.3	10.4	6.1
	75歳以上	117	59.8	43.6	30.8	36.8	17.9	20.5	12.0	11.1	6.0	4.3	4.3	5.1	9.4
同居家族	小学校入学前の子ども	28	50.0	46.4	60.7	35.7	32.1	14.3	10.7	17.9	28.6	14.3	0.0	0.0	3.6
	小・中学生の子ども	48	47.9	47.9	37.5	35.4	29.2	14.6	10.4	12.5	16.7	10.4	4.2	10.4	0.0
	介護を必要とする家族	35	60.0	48.6	42.9	37.1	25.7	20.0	14.3	11.4	8.6	14.3	5.7	2.9	2.9
	65歳以上の家族	197	56.3	42.1	37.6	37.6	20.3	20.8	11.2	12.7	7.6	7.1	4.1	8.6	7.6
	どれもあてはまらない	150	60.0	41.3	37.3	35.3	22.0	22.0	18.7	12.7	6.7	7.3	1.3	10.0	3.3
居住地区	殿ヶ谷地区	36	66.7	52.8	41.7	38.9	27.8	13.9	8.3	16.7	16.7	5.6	5.6	2.8	5.6
	石畑地区	50	60.0	48.0	44.0	38.0	12.0	28.0	8.0	4.0	12.0	14.0	2.0	6.0	10.0
	箱根ヶ崎地区	131	64.1	40.5	45.0	41.2	27.5	19.8	13.7	13.0	10.7	10.7	2.3	3.8	5.3
	長岡地区	71	50.7	35.2	31.0	25.4	14.1	16.9	9.9	9.9	4.2	4.2	2.8	11.3	5.6
	元狭山地区	105	54.3	46.7	32.4	28.6	24.8	23.8	12.4	12.4	4.8	6.7	4.8	12.4	3.8
	武蔵野地区	86	51.2	33.7	30.2	40.7	24.4	17.4	19.8	15.1	7.0	4.7	3.5	11.6	4.7

(11) 地域の問題に対して住民間の自主的な協力関係が必要だと思うか

地域の問題に対して住民間の自主的な協力関係が必要だと思うかは、「必要だと思う」が55.3%で最も多く、以下「分からない」が38.0%、「必要だと思わない」が3.2%となっています。

年齢で見ると、60歳以上の層では「必要だと思う」が6割を超えていますが、30～39歳では32.3%にとどまっておられ、「わからない」が54.8%を占めています。また、60歳未満の層では「わからない」が4割を超えています。「必要だと思わない」との回答は、全体的に少ないものの、40歳未満の層は他の年齢層より多くなっています。

問19 あなたは、地域社会での生活で起きる問題に対して、住民の間での自主的な協力関係が必要だと思いますか。(1つに○)



() 内は前回調査の数値(n=192)

◇クロス集計表

単位：%

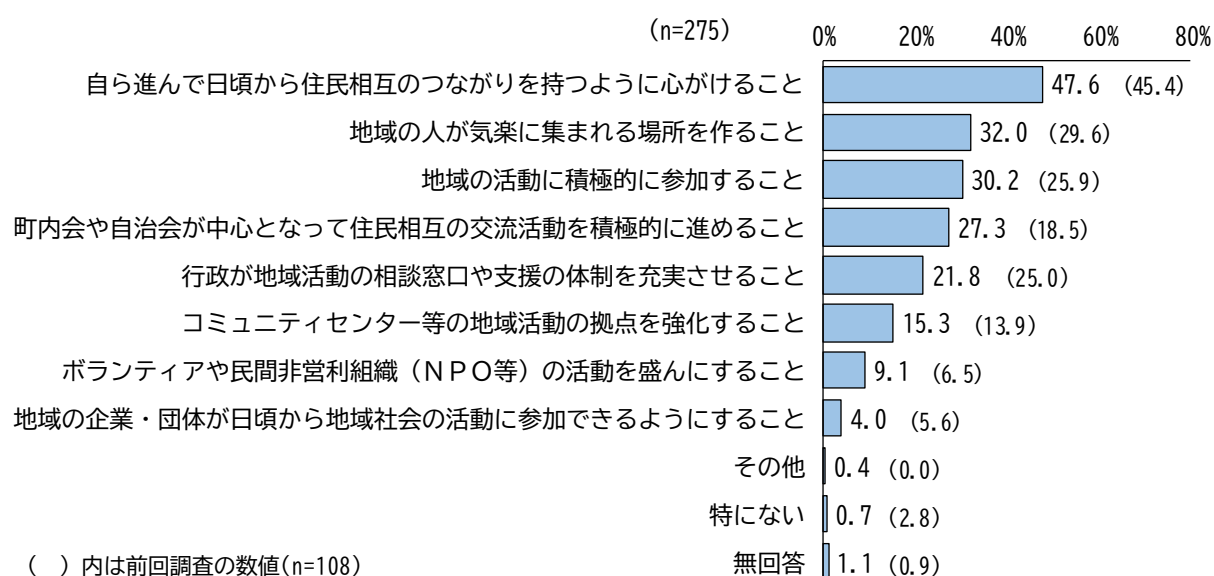
		合計(n)	必要だと思う	必要だと思わない	分からない	無回答
全体		497	55.3	3.2	38.0	3.4
年齢	18～29歳	35	45.7	8.6	45.7	0.0
	30～39歳	31	32.3	12.9	54.8	0.0
	40～49歳	60	53.3	5.0	41.7	0.0
	50～59歳	89	47.2	2.2	48.3	2.2
	60～64歳	42	64.3	0.0	35.7	0.0
	65～74歳	115	63.5	2.6	33.0	0.9
	75歳以上	117	60.7	0.9	29.1	9.4
居住地区	殿ヶ谷地区	36	69.4	0.0	27.8	2.8
	石畑地区	50	60.0	4.0	30.0	6.0
	箱根ヶ崎地区	131	58.8	2.3	34.4	4.6
	長岡地区	71	49.3	5.6	43.7	1.4
	元狭山地区	105	56.2	4.8	36.2	2.9
	武蔵野地区	86	46.5	2.3	47.7	3.5

(12) 地域の問題に対して住民がお互いに協力するために必要なこと

地域の問題に対して住民がお互いに協力するために必要なことは、「自ら進んで日頃から住民相互のつながりを持つように心がけること」が47.6%で最も多く、以下「地域の人気が集まれる場所を作ること」が32.0%、「地域の活動に積極的に参加すること」が30.2%、「町内会や自治会が中心となって住民相互の交流活動を積極的に進めること」が27.3%などとなっています。

問19で「1. 必要だと思う」と回答された方

問19-1 地域社会の問題に対して住民がお互いに協力するためには、どんなことが必要だと考えますか。(2つまでに○)

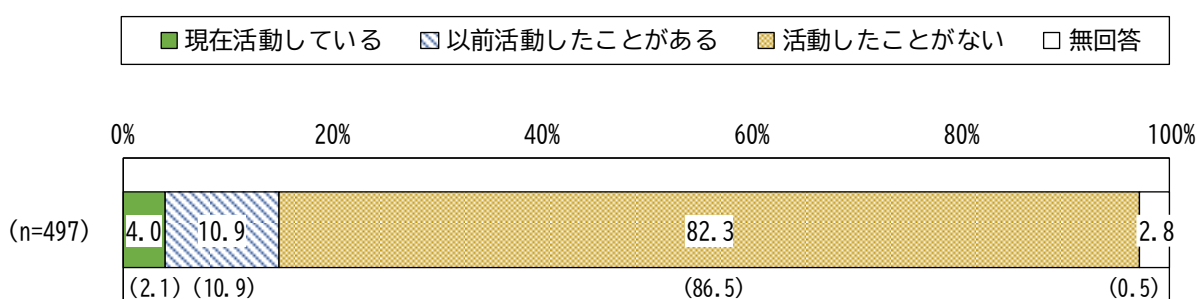


(13) 瑞穂町内における福祉ボランティア活動や助け合い活動

瑞穂町内における福祉ボランティア活動や助け合い活動は、「活動したことがない」が82.3%で最も多く、以下「以前活動したことがある」が10.9%、「現在活動している」が4.0%となっています。

年齢で見ると、年齢が高いほど「現在活動している」、「以前活動したことがある」が多くなっています。30～59歳の層では「現在活動している」との回答がありませんでした。

問20 あなたは主に瑞穂町内において、福祉ボランティア活動や助け合い活動を行ったことがありますか。(1つに○)



() 内は前回調査の数値(n=192)

◇クロス集計表

単位：%

		合計(n)	現在活動している	以前活動したことがある	活動したことがない	無回答
全体		497	4.0	10.9	82.3	2.8
年齢	18～29歳	35	2.9	11.4	85.7	0.0
	30～39歳	31	0.0	6.5	93.5	0.0
	40～49歳	60	0.0	8.3	91.7	0.0
	50～59歳	89	0.0	7.9	91.0	1.1
	60～64歳	42	4.8	9.5	85.7	0.0
	65～74歳	115	5.2	11.3	82.6	0.9
	75歳以上	117	9.4	14.5	67.5	8.5

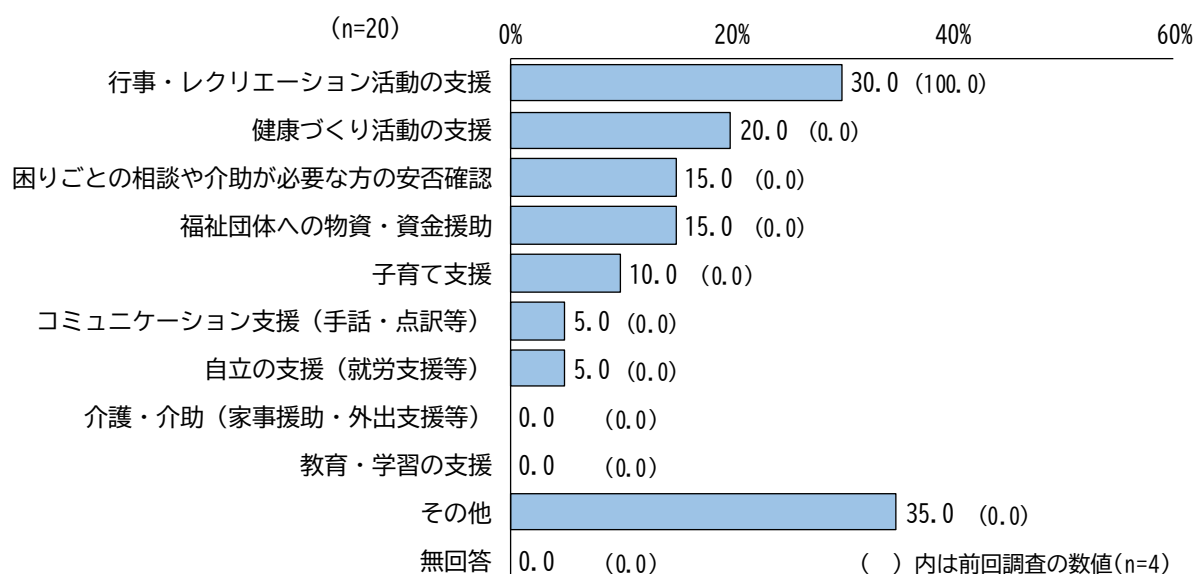
(14) 現在取り組んでいる福祉ボランティア活動や助け合い活動

現在取り組んでいる福祉ボランティア活動や助け合い活動は、「行事・レクリエーション活動の支援」が30.0%で最も多く、次いで「健康づくり活動の支援」が20.0%となっています。

なお、「その他」として、社協の活動や保護猫活動など、具体的な活動が挙げられています。

問20で「1. 現在活動している」と回答された方

問20-1 あなたが現在取り組んでいる福祉ボランティア活動や助け合い活動の具体的な内容は次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)



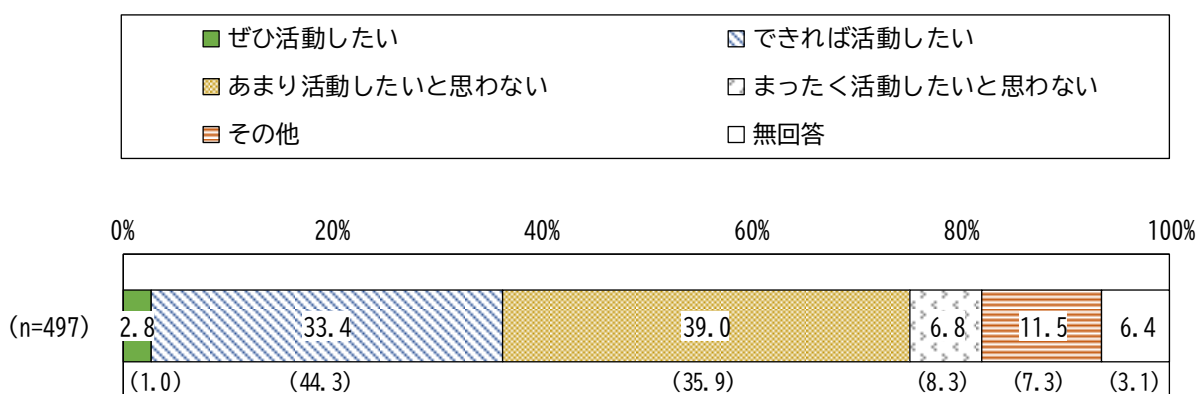
(15) 瑞穂町内での福祉ボランティア活動や助け合い活動への活動意向

瑞穂町内での福祉ボランティア活動や助け合い活動への活動意向は、「あまり活動したいと思わない」が39.0%で最も多く、以下「できれば活動したい」が33.4%、「まったく活動したいと思わない」が6.8%、「ぜひ活動したい」が2.8%となっています。

年齢でみると、30～39歳、60～64歳では『活動したい』が『活動したいと思わない』を上回っていますが、その他の年齢層では『活動したいと思わない』の方が多くなっています。

居住地区でみると、いずれの地区においても『活動したいと思わない』が『活動したい』を上回っており、長岡地区、元狭山地区では過半数を占めています。

問21 今後、瑞穂町内で福祉ボランティア活動や助け合い活動を行いたいとお考えですか。現在活動している場合もお答えください。(1つに○)



() 内は前回調査の数値(n=192)

◇クロス集計表

単位：%

	合計(n)	ぜひ活動	できれば	あまり活	まったく	その他	無回答	『活動し	『活動し	
		したい①	活動した	動したい	活動した			たい』	たいと思	
			い②	い③	い④			①+②	③+④	
全体	497	2.8	33.4	39.0	6.8	11.5	6.4	36.2	45.9	
年齢	18～29歳	35	11.4	25.7	54.3	8.6	0.0	0.0	37.1	62.9
	30～39歳	31	0.0	48.4	35.5	3.2	3.2	9.7	48.4	38.7
	40～49歳	60	1.7	31.7	38.3	13.3	15.0	0.0	33.3	51.7
	50～59歳	89	0.0	36.0	44.9	5.6	9.0	4.5	36.0	50.6
	60～64歳	42	2.4	42.9	35.7	4.8	11.9	2.4	45.2	40.5
	65～74歳	115	2.6	33.0	40.9	4.3	13.9	5.2	35.7	45.2
	75歳以上	117	3.4	29.1	31.6	8.5	14.5	12.8	32.5	40.2
居住地区	殿ヶ谷地区	36	5.6	27.8	36.1	2.8	22.2	5.6	33.3	38.9
	石畑地区	50	8.0	24.0	34.0	10.0	14.0	10.0	32.0	44.0
	箱根ヶ崎地区	131	2.3	35.1	38.9	4.6	13.0	6.1	37.4	43.5
	長岡地区	71	1.4	32.4	46.5	9.9	7.0	2.8	33.8	56.3
	元狭山地区	105	2.9	32.4	42.9	7.6	8.6	5.7	35.2	50.5
	武蔵野地区	86	0.0	39.5	34.9	5.8	10.5	9.3	39.5	40.7

(16) 福祉ボランティア活動や助け合い活動に参加したいと思わない理由

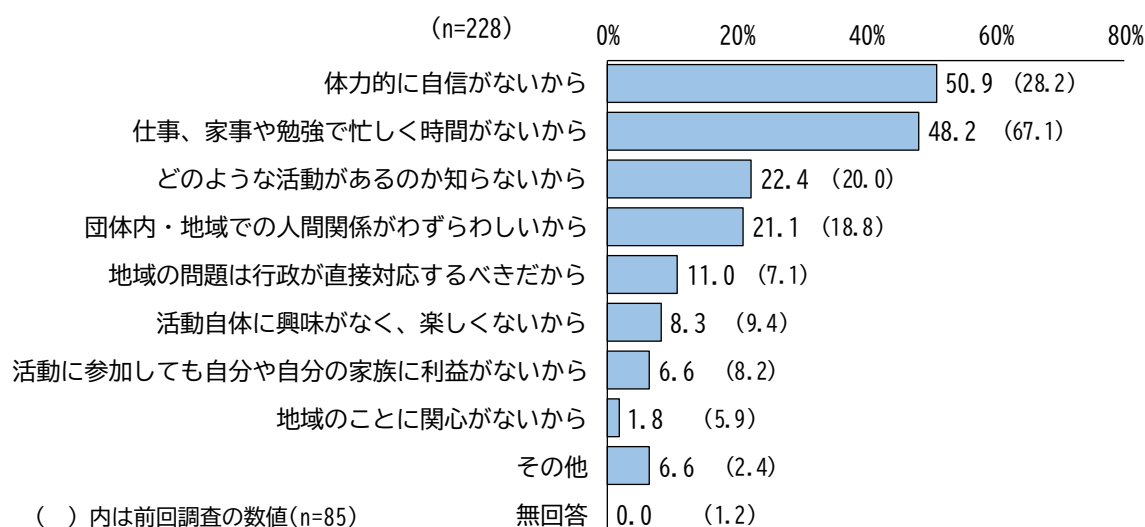
福祉ボランティア活動や助け合い活動に参加したいと思わない理由は、「体力的に自信がないから」が50.9%で最も多く、以下「仕事、家事や勉強で忙しく時間がないから」が48.2%、「どのような活動があるのか知らないから」が22.4%、「団体内・地域での人間関係がわずらわしいから」が21.1%などとなっています。

前回調査と比較すると「体力に自信がないから」が多くなっています。

問21で「3. あまり活動したいと思わない」「4. まったく活動したいと思わない」と回答された方

問21-1 あなたが福祉ボランティア活動や助け合い活動に参加したいと思わない理由は何ですか。

(3つまでに○)



◇クロス集計表

単位：%

	合計(n)	体力的に自信がないから	仕事、家事や勉強で忙しく時間がないから	どのような活動があるのか知らないから	団体内・地域での人間関係がわずらわしいから	地域の問題は行政が直接対応すべきだから	
全体	228	50.9	48.2	22.4	21.1	11.0	
年齢	18～29歳	22	18.2	68.2	31.8	9.1	9.1
	30～39歳	12	33.3	83.3	33.3	16.7	8.3
	40～49歳	31	29.0	80.6	19.4	12.9	9.7
	50～59歳	45	40.0	66.7	22.2	31.1	4.4
	60～64歳	17	52.9	52.9	23.5	29.4	17.6
	65～74歳	52	55.8	30.8	23.1	21.2	19.2
	75歳以上	47	89.4	8.5	17.0	21.3	8.5
居住地区	殿ヶ谷地区	14	57.1	64.3	14.3	0.0	7.1
	石畑地区	22	50.0	54.5	9.1	22.7	9.1
	箱根ヶ崎地区	57	57.9	45.6	24.6	15.8	14.0
	長岡地区	40	45.0	45.0	25.0	25.0	12.5
	元狭山地区	53	35.8	56.6	17.0	32.1	5.7
	武蔵野地区	35	62.9	34.3	37.1	17.1	14.3

※限定された問かつサンプル数にばらつきがあるため参考値とします。

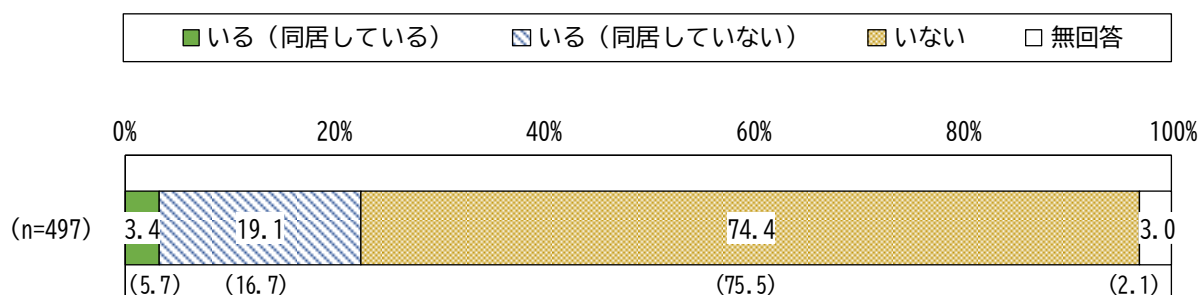
(17) 身近な認知症の人の有無

身近な認知症の人の有無は、「いない」が74.4%で最も多く、以下「いる（同居していない）」が19.1%、「いる（同居している）」が3.4%となっています。

年齢別でみると、60～64歳では『いる』が38.1%で他の年齢層より多くなっています。

居住地区でみると、殿ヶ谷地区、石畑地区では『いる』が3割を超え、他の地区より多くなっています。

問22 あなたの家族や知り合いなど身近な方に認知症の人はいますか。(1つに○)



() 内は前回調査の数値(n=192)

◇クロス集計表

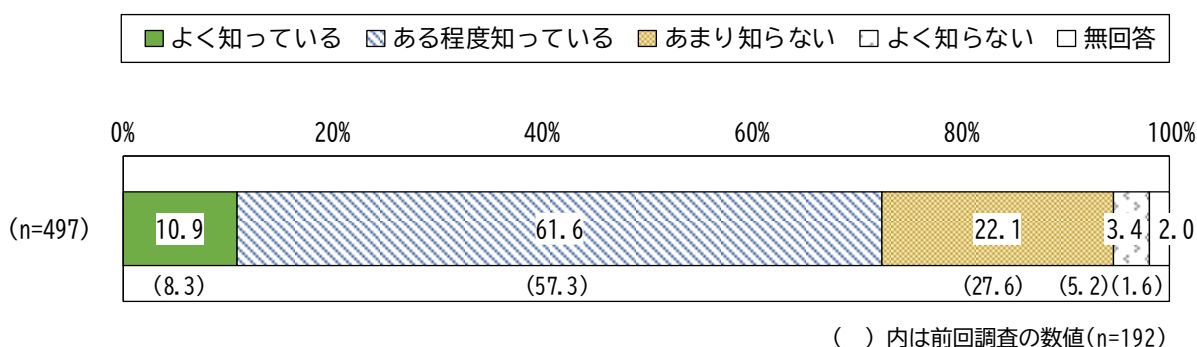
単位：%

		合計(n)	いる（同居している）①	いる（同居していない）②	いない	無回答	『いる』①+②
全体		497	3.4	19.1	74.4	3.0	22.5
年齢	18～29歳	35	0.0	14.3	85.7	0.0	14.3
	30～39歳	31	3.2	12.9	83.9	0.0	16.1
	40～49歳	60	3.3	13.3	83.3	0.0	16.7
	50～59歳	89	5.6	24.7	69.7	0.0	30.3
	60～64歳	42	0.0	38.1	59.5	2.4	38.1
	65～74歳	115	1.7	21.7	75.7	0.9	23.5
	75歳以上	117	6.0	12.8	71.8	9.4	18.8
居住地区	殿ヶ谷地区	36	11.1	27.8	58.3	2.8	38.9
	石畑地区	50	4.0	28.0	64.0	4.0	32.0
	箱根ヶ崎地区	131	3.1	14.5	80.2	2.3	17.6
	長岡地区	71	2.8	22.5	73.2	1.4	25.4
	元狭山地区	105	2.9	18.1	74.3	4.8	21.0
	武蔵野地区	86	2.3	16.3	79.1	2.3	18.6

(18) 認知症についてどの程度知っているか

認知症についてどの程度知っているかは、「ある程度知っている」が61.6%で最も多く、以下「あまり知らない」が22.1%、「よく知っている」が10.9%、「よく知らない」が3.4%となっています。

問23 あなたは認知症についてどの程度知っていますか。(1つに○)

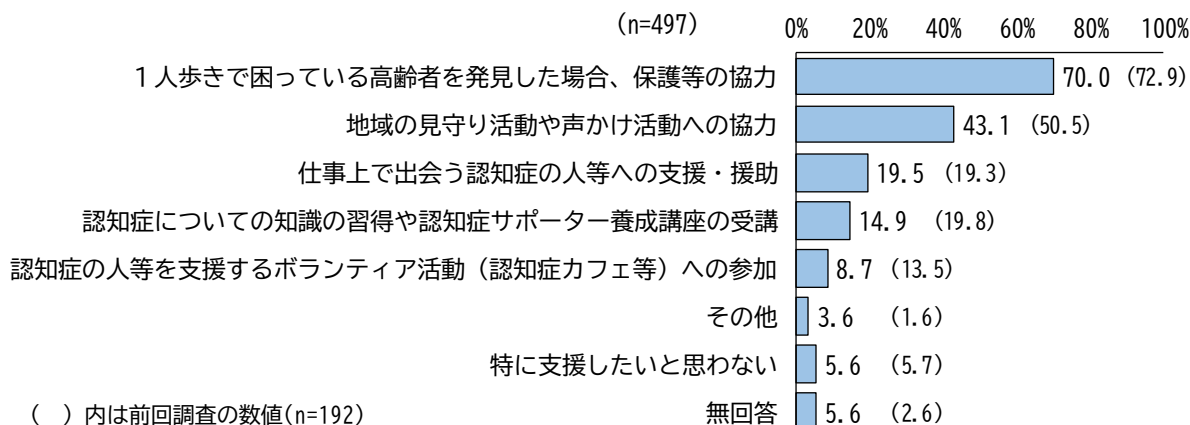


(19) 認知症の人やその家族を支援するためにしたいこと

認知症の人やその家族を支援するためにしたいことは、「1人歩きで困っている高齢者を発見した場合、保護等の協力」が70.0%で最も多く、以下「地域の見守り活動や声かけ活動への協力」が43.1%、「仕事上で出会う認知症の人等への支援・援助」が19.5%、「認知症についての知識の習得や認知症サポーター養成講座の受講」が14.9%などとなっています。

一方、「特に支援したいと思わない」が5.6%となっています。

問24 あなたは認知症の人やその家族を支援するためどのようなことをしたいと思いますか。(3つまでに○)

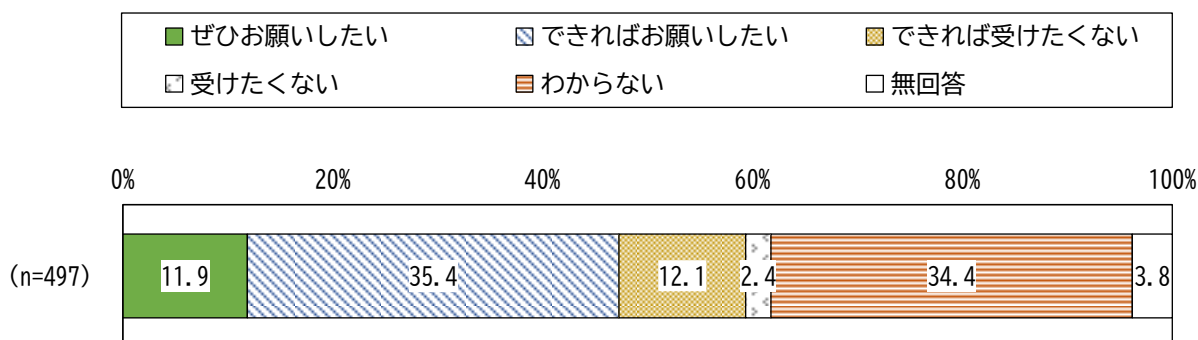


(20) 自分が地域住民による見守りが必要になった場合の考え

自分が地域住民による見守りが必要になった場合の考えは、「できればお願いしたい」が35.4%で最も多く、以下「わからない」が34.4%、「できれば受けたくない」が12.1%、「ぜひお願いしたい」が11.9%、「受けたくない」が2.4%となっています。

問25 あなた自身が、地域住民による見守りが必要な状態になった場合、どのように思いますか。現在見守りを受けている場合は、今の思いをお答えください。(1つに○)

※今回新設した設問



(21) 孤独・孤立の状況

孤独・孤立の状況について、『①人との付き合いがないと感じること』は、「ほとんどない」が40.2%で最も多く、以下「時々ある」が31.8%、「決してない」が15.1%、「常にある」が9.3%となっています。「常にある」と「時々ある」を合わせると41.1%となっています。

『②取り残されていると感じること』は、「ほとんどない」が55.7%で最も多く、以下「決してない」が19.7%、「時々ある」が16.3%、「常にある」が3.8%となっています。「常にある」と「時々ある」を合わせると20.1%となっています。

『③他の人たちから孤立していると感じること』は、「ほとんどない」が54.7%で最も多く、以下「時々ある」が18.7%、「決してない」が18.5%、「常にある」が3.4%となっています。「常にある」と「時々ある」を合わせると22.1%となっています。

なお、「UCLA孤独感尺度^{*}」による孤独感の評価をみると、「4～6点(ほとんどない)」が42.7%で最も多く、以下「7～9点(時々ない)」35.4%、「3点(決してない)」が11.7%、「10～12点(常にある)」が5.6%となっています。

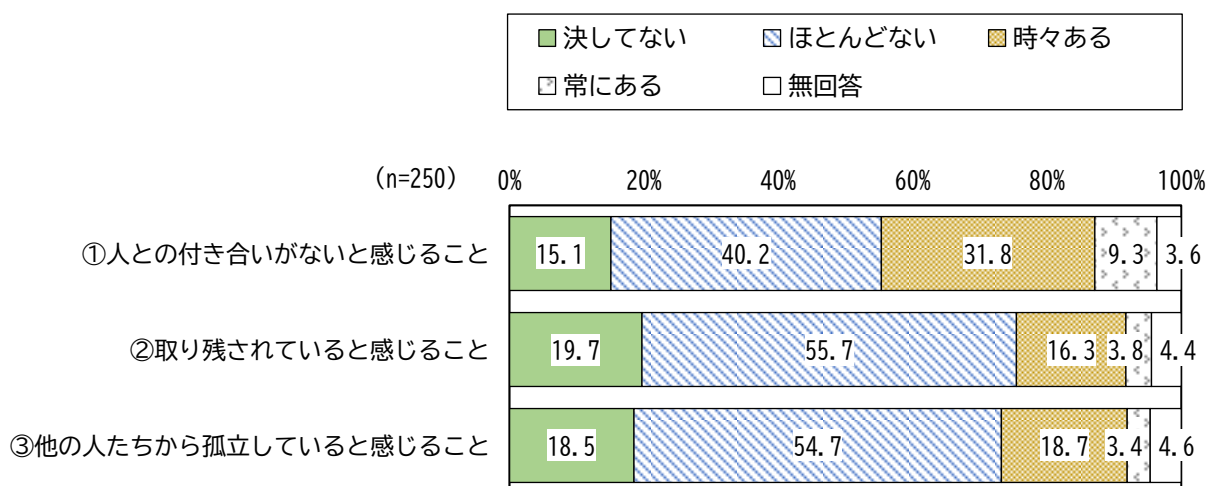
年齢でみると、「10～12点(常にある)」は、50～59歳では12.4%(平均7.1点)となっており、他の年齢層より多くなっています。

家族構成でみると、「10～12点(常にある)」は、単身世帯では16.1%(平均7.2点)となっており、他の世帯より多くなっています。

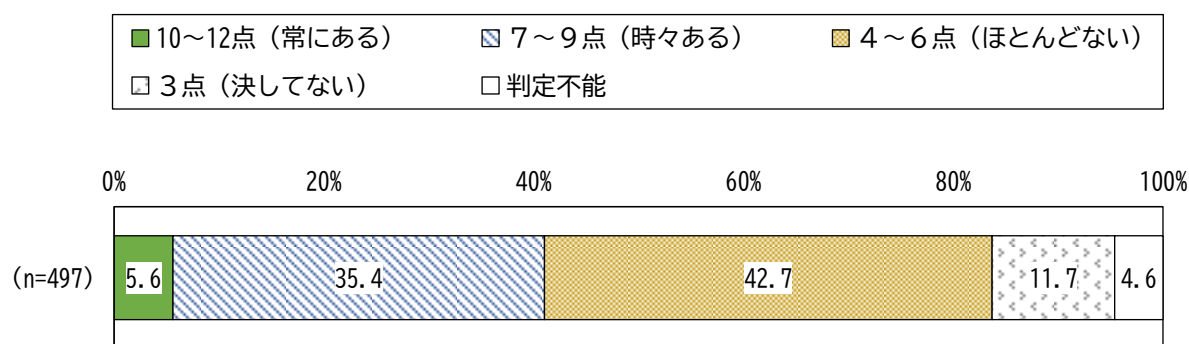
居住地区でみると、「10～12点(常にある)」は、武蔵野地区では10.5%(平均6.9点)となっており、他の地区より多くなっています。

問26 次の①～③のことについて、あなたはどのように感じますか。(それぞれ1つに○)

※今回新設した設問



◇孤独感の評価



※カリフォルニア大学ロサンゼルス校 (UCLA) のラッセルが、孤独という主観的な感情を間接的な質問により数値的に測定するために考案したもので、「UCLA孤独感尺度」の日本語版の3項目短縮版に基づき、「決してない」を1点、「ほとんどない」を2点、「時々ある」を3点、「常にある」を4点としてスコア化し、合計スコアが高いほど孤独感が高いと評価したものの。

◇クロス集計表

単位：%

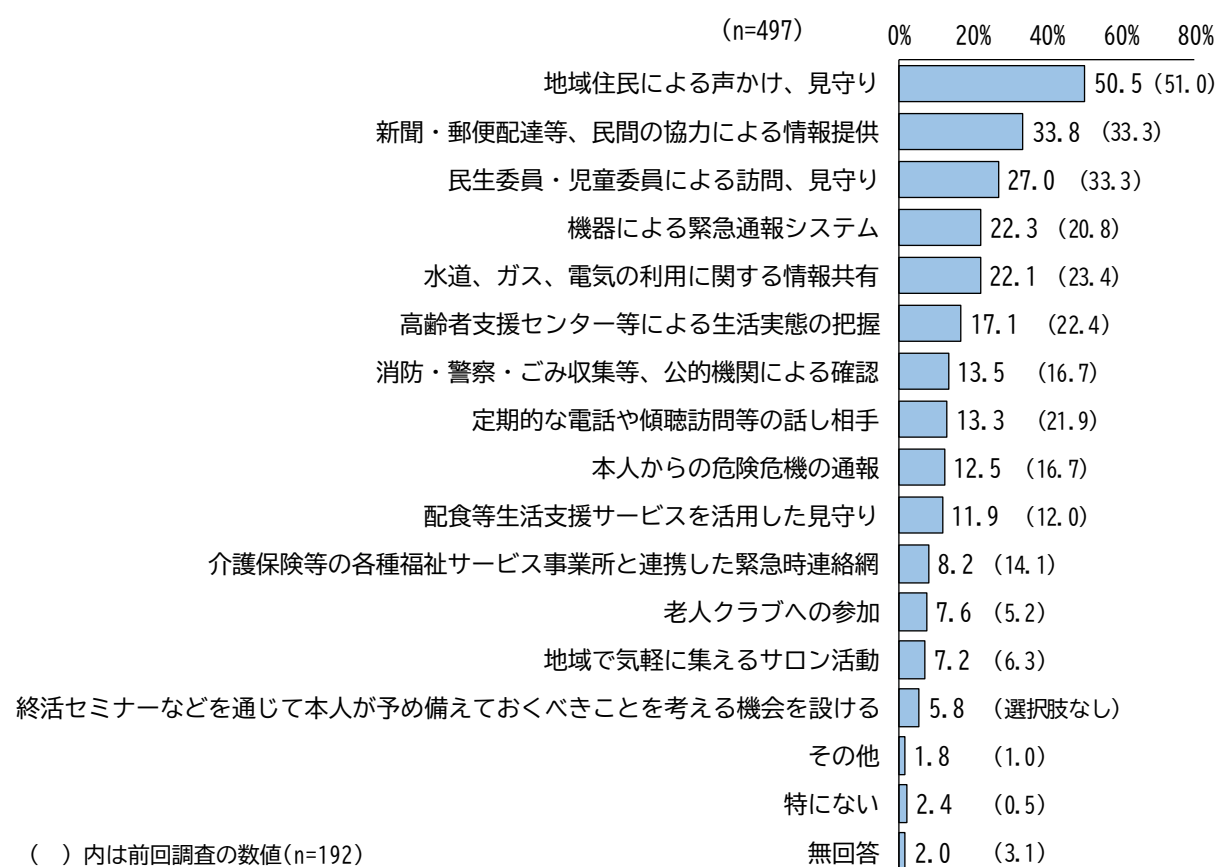
		合計	3点 (決してない)	4～6点 (ほとんどない)	7～9点 (時々ある)	10～12点 (常にある)	無回答	平均
全体		497	11.7	42.7	35.4	5.6	4.6	6.5
年齢	18～29歳	35	17.1	34.3	42.9	5.7	0.0	6.3
	30～39歳	31	6.5	48.4	25.8	9.7	9.7	6.7
	40～49歳	60	13.3	38.3	43.3	5.0	0.0	6.7
	50～59歳	89	9.0	34.8	40.4	12.4	3.4	7.1
	60～64歳	42	14.3	52.4	31.0	2.4	0.0	6.4
	65～74歳	115	12.2	42.6	37.4	3.5	4.3	6.3
	75歳以上	117	11.1	47.9	29.1	3.4	8.5	6.2
家族構成	単身世帯	56	7.1	39.3	30.4	16.1	7.1	7.2
	夫婦のみの世帯	158	12.0	47.5	32.3	3.8	4.4	6.3
	親子2世代	217	11.5	40.6	39.2	5.5	3.2	6.5
	親・子・孫3世代	36	19.4	44.4	30.6	0.0	5.6	6.0
	その他	19	15.8	31.6	31.6	5.3	15.8	6.3
居住地区	殿ヶ谷地区	36	2.8	52.8	36.1	5.6	2.8	6.8
	石畑地区	50	14.0	48.0	26.0	6.0	6.0	6.3
	箱根ヶ崎地区	131	14.5	38.9	38.2	4.6	3.8	6.3
	長岡地区	71	7.0	50.7	32.4	5.6	4.2	6.7
	元狭山地区	105	17.1	41.0	33.3	2.9	5.7	6.1
	武蔵野地区	86	8.1	38.4	37.2	10.5	5.8	6.9

(22) 孤立死（孤独死）を防ぐために有効だと思うこと

孤立死（孤独死）を防ぐために有効だと思うことは、「地域住民による声かけ、見守り」が50.5%で最も多く、以下「新聞・郵便配達等、民間の協力による情報提供」が33.8%、「民生委員・児童委員による訪問、見守り」が27.0%、「機器による緊急通報システム」が22.3%などとなっています。

孤独感の評価結果でみると、「10～12点（常にある）」では、上位3項目が他の区分より少なくなっています。一方、「本人からの危険危機の通報」、「介護保険等の各種福祉サービス事業所と連携した緊急時連絡網」などは他の区分より多くなっています。

問27 誰にも気づかれずに死亡し、しばらくして発見されるという孤立死（孤独死）を防ぐために、どのようなことが有効だと思いますか。（3つまでに○）



◇クロス集計（上段：上位項目 下段：下位項目等）

単位：%

		合計(n)	地域住民による声かけ、見守り	新聞・郵便配達等、民間の協力による情報提供	民生委員・児童委員による訪問、見守り	機器による緊急通報システム	水道、ガス、電気の利用に関する情報共有	高齢者支援センター等による生活実態の把握	消防・警察・ごみ収集等、公的機関による確認	定期的な電話や傾聴訪問等の話し相手	本人からの危険危機の通報
全体		497	50.5	33.8	27.0	22.3	22.1	17.1	13.5	13.3	12.5
孤独感	3点 (決してない)	58	55.2	43.1	39.7	22.4	19.0	17.2	8.6	13.8	8.6
	4～6点 (ほとんどない)	212	58.5	32.5	33.5	21.7	17.0	15.6	14.2	14.2	12.3
	7～9点 (時々ある)	176	45.5	36.9	20.5	25.6	31.3	19.3	14.8	12.5	13.1
	10～12点 (常にある)	28	28.6	17.9	7.1	21.4	25.0	21.4	17.9	3.6	21.4

		合計(n)	配食等生活支援サービスを活用した見守り	介護保険等の各種福祉サービス事業所と連携した緊急時連絡網	老人クラブへの参加	地域で気軽に集えるサロン活動	終活セミナーなどを通じて本人が予め備えておくべきことを考える機会を設ける	その他	特になし	無回答
全体		497	11.9	8.2	7.6	7.2	5.8	1.8	2.4	2.0
孤独感	3点 (決してない)	58	12.1	8.6	13.8	6.9	3.4	0.0	0.0	0.0
	4～6点 (ほとんどない)	212	10.4	8.0	8.5	8.5	5.2	2.4	1.4	0.5
	7～9点 (時々ある)	176	14.2	7.4	4.5	5.1	8.0	0.6	2.8	0.6
	10～12点 (常にある)	28	14.3	21.4	10.7	10.7	3.6	3.6	7.1	3.6

4 健康意識・健康行動について

(1) 健康面で気を付けていること

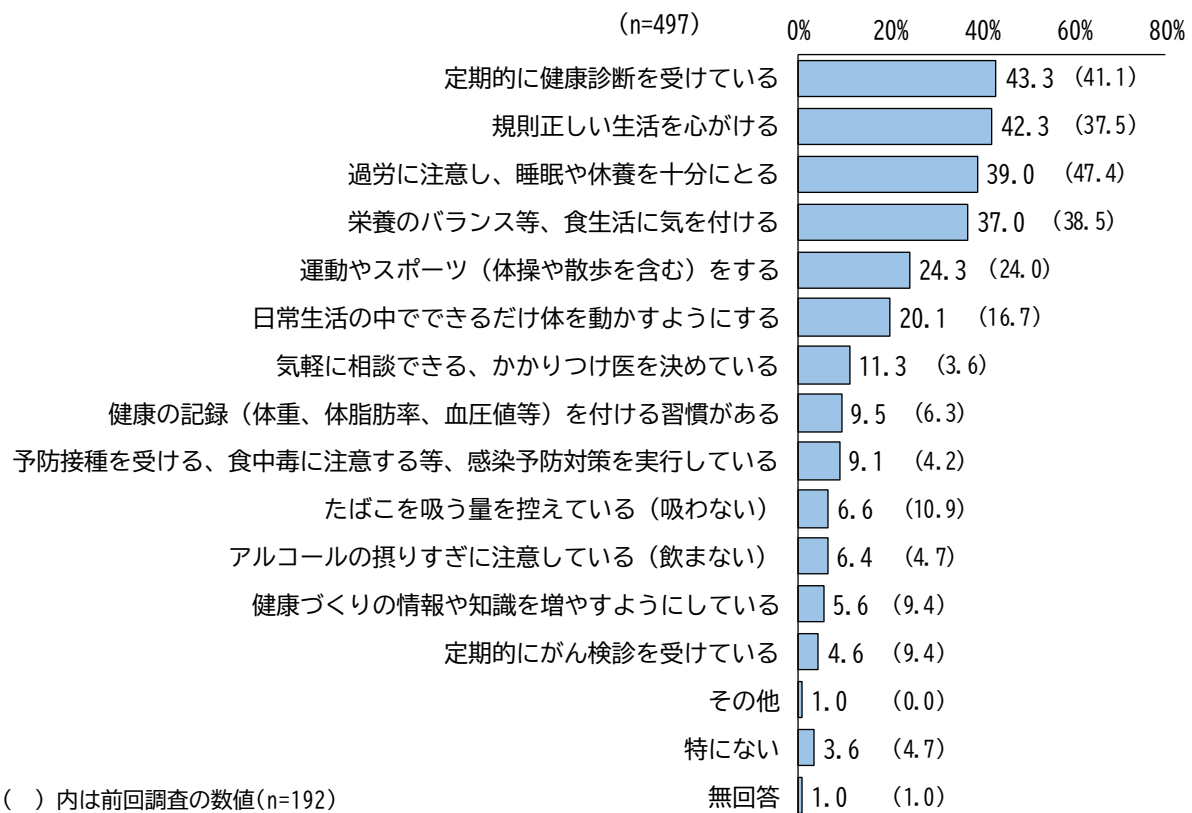
健康面で気を付けていることは、「定期的に健康診断を受けている」が43.3%で最も多く、以下「規則正しい生活を心がける」が42.3%、「過労に注意し、睡眠や休養を十分にとる」が39.0%、「栄養のバランス等、食生活に気を付ける」が37.0%などとなっています。

年齢別でみると、40歳未満の層では「過労に注意し、睡眠や休養を十分にとる」が最も多く、「定期的に健康診断を受けている」、「規則正しい生活を心がける」は他の年齢層より少なくなっています。

性別でみると、女性では「栄養のバランス等、食生活に気を付ける」と「栄養のバランス等、食生活に気を付ける」が43.8%で最も多くなっています。

前回調査と比較すると「過労に注意し、睡眠や休養を十分にとる」が少なくなっています。

問28 あなたは、日頃、健康についてどのようなことに気を付けていますか。(3つまでに○)



◇クロス集計（上段：上位項目 下段：下位項目等）

単位：％

		合計(n)	定期的に健康診断を受けている	規則正しい生活を心がける	過労に注意し、睡眠や休養を十分にとる	栄養のバランス等、食生活に気を付ける	運動やスポーツ（体操や散歩を含む）をする	日常生活の中でできるだけ体を動かすようにする	気軽に相談できる、かかりつけ医を決めている	健康の記録（体重、体脂肪率、血圧値等）を付ける習慣がある
全体		497	43.3	42.3	39.0	37.0	24.3	20.1	11.3	9.5
年齢	18～29歳	35	22.9	31.4	54.3	45.7	28.6	22.9	17.1	0.0
	30～39歳	31	35.5	29.0	51.6	25.8	19.4	6.5	0.0	9.7
	40～49歳	60	48.3	35.0	43.3	33.3	16.7	16.7	8.3	1.7
	50～59歳	89	42.7	43.8	42.7	25.8	16.9	22.5	5.6	4.5
	60～64歳	42	45.2	42.9	35.7	38.1	26.2	16.7	7.1	7.1
	65～74歳	115	49.6	49.6	36.5	44.3	27.0	18.3	14.8	13.0
	75歳以上	117	43.6	44.4	30.8	41.0	31.6	25.6	16.2	17.9
性別	男性	215	47.0	41.4	37.2	29.3	28.8	16.3	12.6	12.6
	女性	272	40.4	43.8	40.8	43.8	21.7	23.2	9.9	7.4

		合計(n)	予防接種を受ける、食中毒に注意する等、感染予防対策を実行している	たばこを吸う量を控えている（吸わない）	アルコールの摂りすぎに注意している（飲まない）	健康づくりの情報や知識を増やすようにしている	定期的にかん検診を受けている	その他	特にない	無回答
全体		497	9.1	6.6	6.4	5.6	4.6	1.0	3.6	1.0
年齢	18～29歳	35	5.7	14.3	17.1	2.9	0.0	0.0	0.0	0.0
	30～39歳	31	6.5	12.9	16.1	6.5	9.7	3.2	9.7	3.2
	40～49歳	60	11.7	3.3	6.7	5.0	5.0	1.7	11.7	0.0
	50～59歳	89	9.0	7.9	4.5	5.6	5.6	1.1	4.5	0.0
	60～64歳	42	4.8	4.8	7.1	11.9	7.1	4.8	2.4	0.0
	65～74歳	115	13.0	6.1	5.2	6.1	3.5	0.0	0.9	0.0
	75歳以上	117	7.7	4.3	3.4	3.4	4.3	0.0	1.7	1.7
性別	男性	215	5.6	8.8	8.8	3.7	2.3	0.5	4.2	0.5
	女性	272	11.4	4.4	4.8	6.6	6.6	1.5	3.3	0.7

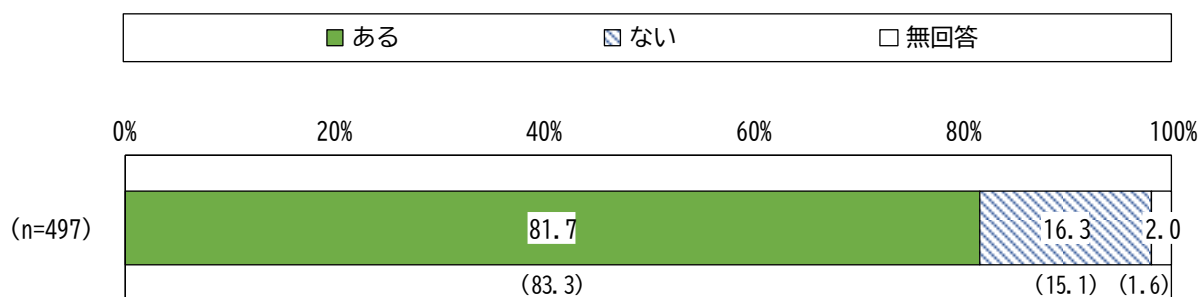
(2) 過去1年間の健診等の受診状況

過去1年間の健診等の受診状況は、「ある」が81.7%、「ない」が16.3%となっています。

年齢で見ると、18～29歳では「ない」が31.4%で他の年齢層より多くなっています。

性別で見ると、いずれも「ある」が8割以上を占めており、男性の方が多くなっています。

問29 あなたは過去1年間に、健診（健康診断や健康診査）や人間ドックを受けたことがありますか。（1つに○）



() 内は前回調査の数値(n=192)

◇クロス集計

単位：%

		合計(n)	ある	ない	無回答
全体		497	81.7	16.3	2.0
年齢	18～29歳	35	68.6	31.4	0.0
	30～39歳	31	77.4	22.6	0.0
	40～49歳	60	86.7	11.7	1.7
	50～59歳	89	82.0	15.7	2.2
	60～64歳	42	76.2	23.8	0.0
	65～74歳	115	87.0	13.0	0.0
	75歳以上	117	82.9	13.7	3.4
性別	男性	215	85.1	14.4	0.5
	女性	272	80.1	17.6	2.2

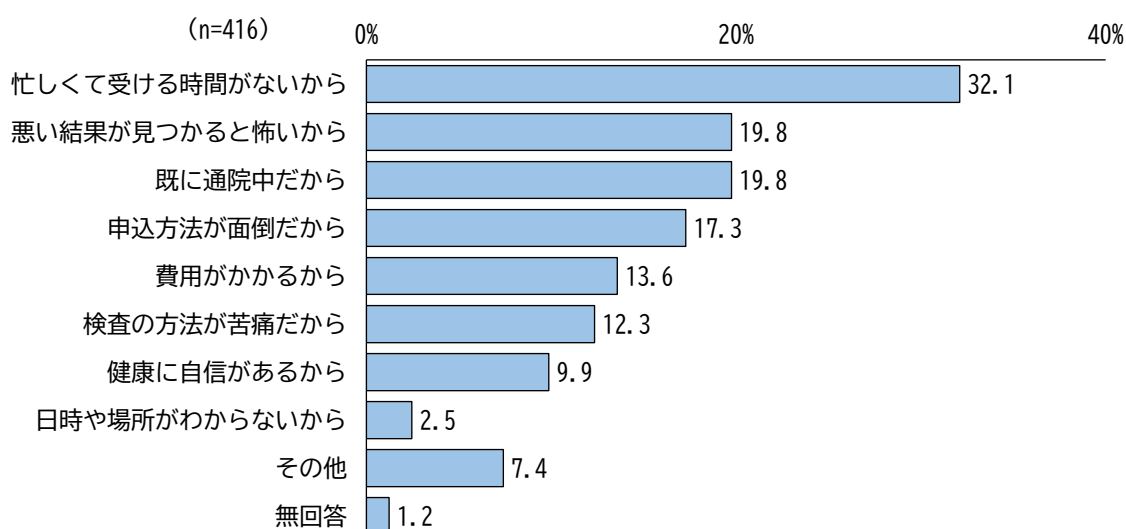
(3) 健診等を受けていない理由

健診等を受けていない理由は、「忙しくて受ける時間がないから」が32.1%で最も多く、以下「悪い結果が見つかるのが怖いから」と「既に通院中だから」が19.8%、「申込方法が面倒だから」が17.3%などとなっています。

問29で「1. ない」と回答された方

問29-1 健診等を受けていない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

※今回新設した設問



◇クロス集計

単位：%

		合計(n)	忙しくて受ける時間がないから	悪い結果が見つかるのが怖いから	既に通院中だから	申込方法が面倒だから	費用がかかるから	検査の方法が苦痛だから	健康に自信があるから	日時や場所がわからないから	その他	無回答
全体		81	32.1	19.8	19.8	17.3	13.6	12.3	9.9	2.5	7.4	1.2
年齢	18～29歳	11	72.7	9.1	0.0	9.1	9.1	9.1	18.2	9.1	0.0	0.0
	30～39歳	7	28.6	14.3	0.0	28.6	28.6	0.0	0.0	14.3	14.3	0.0
	40～49歳	7	42.9	0.0	42.9	0.0	14.3	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0
	50～59歳	14	28.6	21.4	21.4	14.3	28.6	14.3	0.0	0.0	14.3	0.0
	60～64歳	10	30.0	40.0	10.0	20.0	10.0	20.0	20.0	0.0	10.0	0.0
	65～74歳	15	20.0	20.0	20.0	26.7	6.7	13.3	13.3	0.0	13.3	0.0
	75歳以上	16	18.8	25.0	37.5	12.5	6.3	6.3	12.5	0.0	0.0	6.3
性別	男性	31	22.6	9.7	22.6	16.1	16.1	22.6	16.1	3.2	6.5	3.2
	女性	48	37.5	27.1	18.8	16.7	12.5	4.2	6.3	2.1	8.3	0.0

※限定された問かつサンプル数が少ないため参考値とします。

(4) 睡眠時間

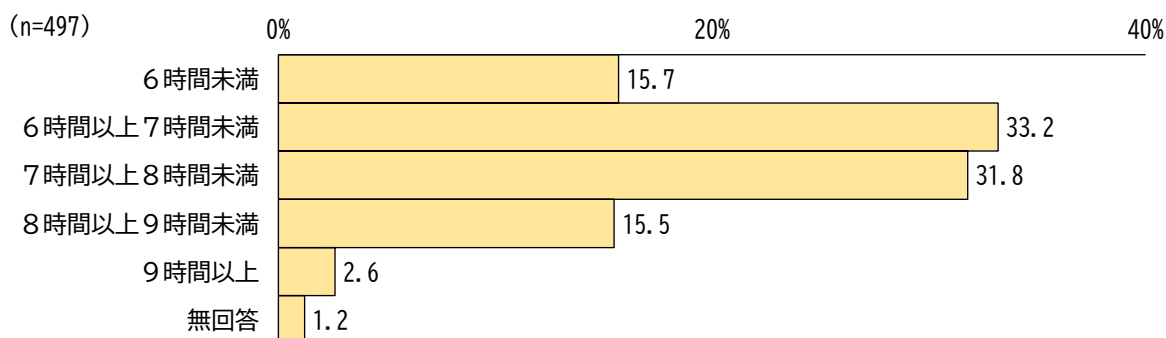
睡眠時間は、「6時間以上7時間未満」が33.2%で最も多く、以下「7時間以上8時間未満」が31.8%、「6時間未満」が15.7%、「8時間以上9時間未満」が15.5%、「9時間以上」が2.6%となっています。また、平均睡眠時間は6.6時間となっています。

年齢でみると、40～59歳の層では「6時間未満」が2割を超え、他の年齢層より多く、平均睡眠時間は50～59歳で6.1時間、40～49歳で6.3時間となっています。

性別でみると、女性では「6時間以上7時間未満」、「7時間以上8時間未満」が男性より多く、男性では「8時間以上9時間未満」が女性より多くなっています。平均睡眠時間は、男性が6.7時間、女性が6.5時間となっています。

問30 あなたの睡眠時間は平均何時間くらいですか。(おおよその数値を記入)

※今回新設した質問



◇クロス集計

単位：%

		合計(n)	6時間未満	6時間以上7時間未満	7時間以上8時間未満	8時間以上9時間未満	9時間以上	無回答	平均
全体		497	15.7	33.2	31.8	15.5	2.6	1.2	6.6
年齢	18～29歳	35	8.6	48.6	31.4	5.7	2.9	2.9	6.5
	30～39歳	31	12.9	35.5	35.5	16.1	0.0	0.0	6.5
	40～49歳	60	21.7	35.0	35.0	6.7	0.0	1.7	6.3
	50～59歳	89	24.7	41.6	27.0	5.6	1.1	0.0	6.1
	60～64歳	42	16.7	35.7	33.3	14.3	0.0	0.0	6.4
	65～74歳	115	15.7	32.2	30.4	17.4	4.3	0.0	6.6
	75歳以上	117	7.7	22.2	33.3	29.9	5.1	1.7	7.0
性別	男性	215	16.7	30.2	27.0	21.9	3.7	0.5	6.7
	女性	272	14.7	35.7	35.7	11.0	1.8	1.1	6.5

(5) 睡眠による休養が十分にとれているか

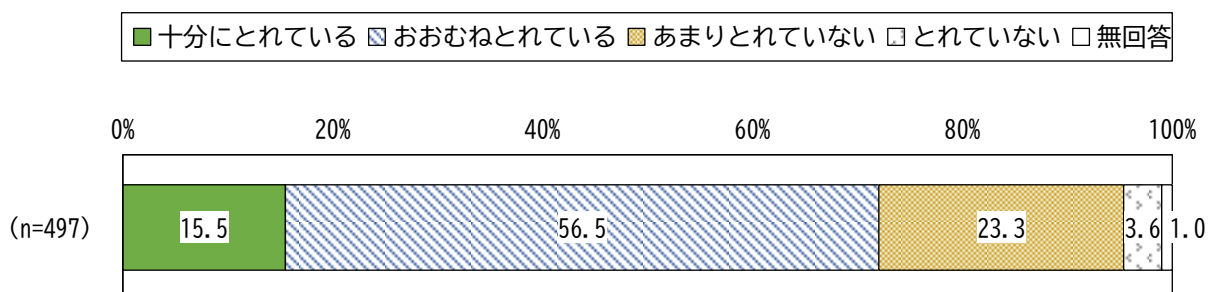
睡眠による休養が十分にとれているかは、「おおむねとれている」が56.5%で最も多く、以下「あまりとれていない」が23.3%、「十分にとれている」が15.5%、「とれていない」が3.6%となっています。

年齢別でみると、いずれの年齢においても『とれている』との回答が過半数を占めていますが、40～59歳は他の年齢層より少なく、『とれていない』との回答が50～59歳では48.3%、40～49歳では40.0%で他の年齢層より多くなっています。

性別による大きな差はみられません。

問31 あなたは、睡眠による休養が十分にとれていますか。(1つに○)

※今回新設した質問



◇クロス集計

単位：%

		合計(n)	十分にとれている①	おおむねとれている②	あまりとれていない③	とれていない④	無回答	『とれている』 ①+②	『とれていない』 ③+④
全体		497	15.5	56.5	23.3	3.6	1.0	72.0	27.0
年齢	18～29歳	35	22.9	51.4	20.0	5.7	0.0	74.3	25.7
	30～39歳	31	12.9	61.3	22.6	3.2	0.0	74.2	25.8
	40～49歳	60	11.7	46.7	33.3	6.7	1.7	58.3	40.0
	50～59歳	89	6.7	44.9	42.7	5.6	0.0	51.7	48.3
	60～64歳	42	9.5	69.0	11.9	9.5	0.0	78.6	21.4
	65～74歳	115	20.9	60.9	16.5	1.7	0.0	81.7	18.3
	75歳以上	117	18.8	63.2	16.2	0.0	1.7	82.1	16.2
性別	男性	215	14.9	57.2	23.7	3.7	0.5	72.1	27.4
	女性	272	15.8	56.6	23.2	3.7	0.7	72.4	26.8

(6) 自分の歯の本数を知っているか

自分の歯の本数を知っているかは、「知らない」が49.1%、「知っている」が44.5%となっています。

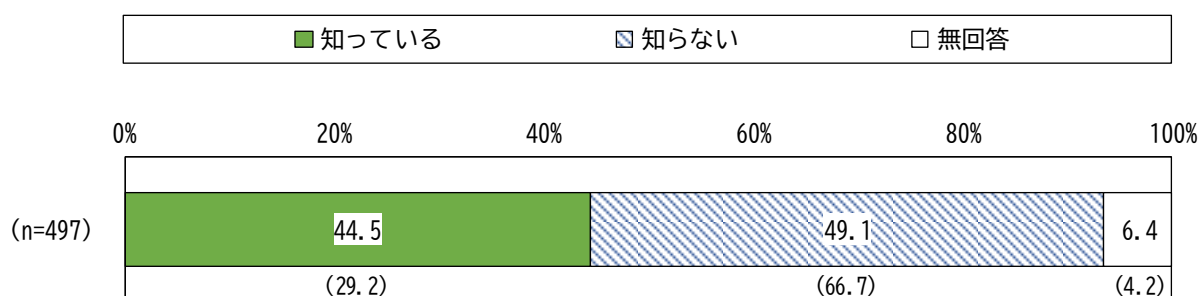
自分の歯の本数を「知っている」と回答した人について、歯の本数は、「28～32本」が25.8%で最も多く、以下「24～27本」が22.2%、「10～19本」が16.3%、「20～23本」が10.0%などとなっています。また、平均本数は20.7本となっています。

年齢でみると、65歳以上では「知っている」が過半数を占めていますが、65歳未満では過半数が「知らない」と回答しています。また、年齢が高いほど平均本数が少なくなり、65歳～74歳では20本、75歳以上では15本となっています。

性別でみると、男性では「知らない」が55.3%を占めています。また、平均本数は男性が19本、女性が22本となっています。

前回調査と比較すると「知っている」が多くなっています。

問32 あなたは、自分の歯の本数が何本あるか知っていますか。親知らず、入れ歯、ブリッジ、インプラントは含みません。さし歯も含めて数えます。(1つに○、数値を記入)



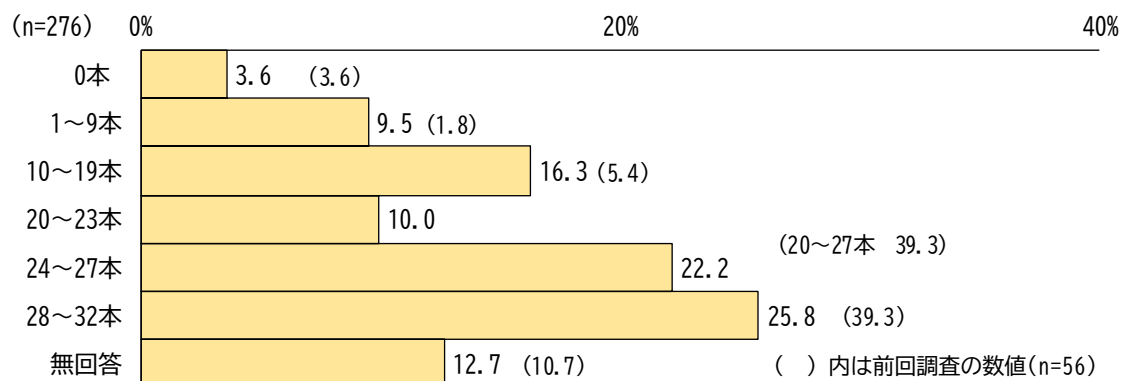
() 内は前回調査の数値(n=192)

◇クロス集計

単位：%

		合計(n)	知っている	知らない	無回答
全体		497	44.5	49.1	6.4
年齢	18～29歳	35	25.7	74.3	0.0
	30～39歳	31	35.5	61.3	3.2
	40～49歳	60	31.7	65.0	3.3
	50～59歳	89	21.3	75.3	3.4
	60～64歳	42	38.1	57.1	4.8
	65～74歳	115	62.6	33.0	4.3
	75歳以上	117	59.0	25.6	15.4
性別	男性	215	39.5	55.3	5.1
	女性	272	46.7	46.0	7.4

◇歯の本数



◇クロス集計

単位：%

		合計(n)	0本	1~9本	10~19本	20~23本	24~27本	28~32本	無回答	平均
全体		221	3.6	9.5	16.3	10.0	22.2	25.8	12.7	21
年齢	18~29歳	9	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	66.7	0.0	27
	30~39歳	11	0.0	0.0	9.1	9.1	0.0	81.8	0.0	27
	40~49歳	19	0.0	0.0	5.3	5.3	26.3	63.2	0.0	27
	50~59歳	19	0.0	0.0	10.5	10.5	36.8	36.8	5.3	25
	60~64歳	16	0.0	0.0	6.3	6.3	31.3	37.5	18.8	26
	65~74歳	72	4.2	9.7	12.5	11.1	26.4	19.4	16.7	20
	75歳以上	69	7.2	18.8	30.4	10.1	14.5	4.3	14.5	15
性別	男性	85	7.1	15.3	14.1	11.8	16.5	23.5	11.8	19
	女性	127	0.8	5.5	18.1	7.9	26.8	28.3	12.6	22

(7) 食べる時の状態

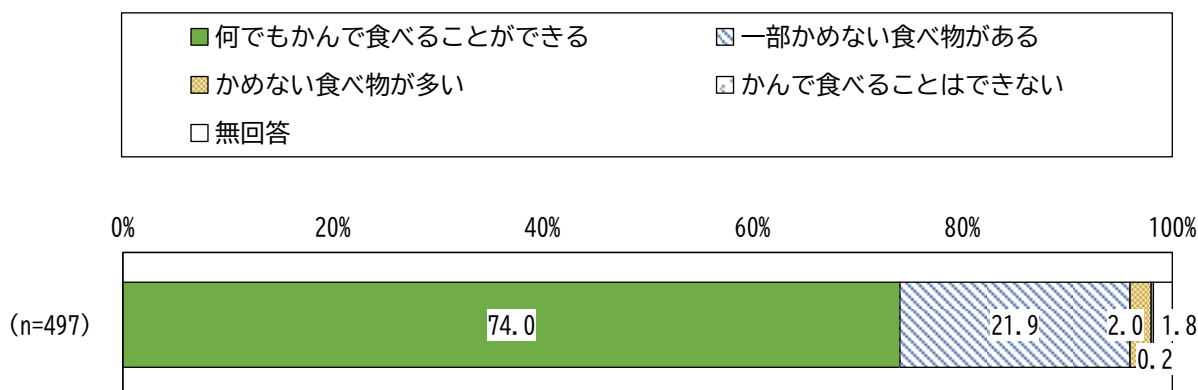
食べる時の状態は、「何でもかんで食べることができる」が74.0%で最も多く、以下「一部かめない食べ物がある」が21.9%、「かめない食べ物が多い」が2.0%、「かんで食べることはできない」が0.2%となっています。

年齢でみると、年齢が低いほど「何でもかんで食べることができる」が多く、年齢が高いほど「一部かめない食べ物がある」が多くなる傾向がみられます。

性別でみると、「何でもかんで食べることができる」は女性の方が多く、「一部かめない食べ物がある」は男性の方が多くなっています。

問33 食べる時の状態について、最もあてはまるものを選んでください。(1つに○)

※今回新設した質問



◇クロス集計

単位：%

		合計(n)	何でもかんで食べることができる	一部かめない食べ物がある	かめない食べ物が多い	かんで食べることはできない	無回答
全体		497	74.0	21.9	2.0	0.2	1.8
年齢	18～29歳	35	94.3	5.7	0.0	0.0	0.0
	30～39歳	31	80.6	19.4	0.0	0.0	0.0
	40～49歳	60	88.3	10.0	0.0	0.0	1.7
	50～59歳	89	83.1	14.6	2.2	0.0	0.0
	60～64歳	42	73.8	21.4	4.8	0.0	0.0
	65～74歳	115	65.2	28.7	1.7	0.9	3.5
	75歳以上	117	60.7	34.2	2.6	0.0	2.6
性別	男性	215	68.4	27.0	2.8	0.5	1.4
	女性	272	78.7	18.4	1.1	0.0	1.8

(8) 普段朝食を食べないことがあるか

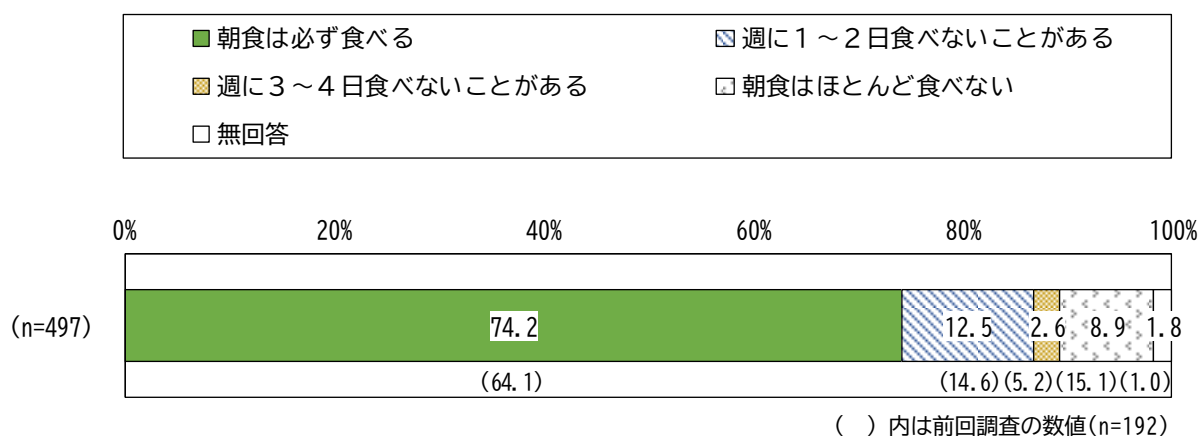
普段朝食を食べないことがあるかは、「朝食は必ず食べる」が74.2%で最も多く、以下「週に1～2日食べないことがある」が12.5%、「朝食はほとんど食べない」が8.9%、「週に3～4日食べないことがある」が2.6%となっています。

年齢でみると、30歳以上では「朝食は必ず食べる」が過半数を占めており、75歳以上では94.0%、65～74歳では85.2%を占めています。一方、18～29歳では「朝食は必ず食べる」は45.7%にとどまっています。また、60歳未満では「朝食はほとんど食べない」が1割を超えています。

性別でみると、いずれも「朝食は必ず食べる」が7割を超えています。「朝食はほとんど食べない」は、男性の方が多くなっています。

前回調査と比較すると「朝食は必ず食べる」が多くなっています。

問34 あなたは普段、朝食を食べない（欠食する）ことがありますか。（1つに○）



◇クロス集計

単位：%

		合計(n)	朝食は必ず食べる	週に1～2日食べないことがある	週に3～4日食べないことがある	朝食はほとんど食べない	無回答
全体		497	74.2	12.5	2.6	8.9	1.8
年齢	18～29歳	35	45.7	37.1	5.7	11.4	0.0
	30～39歳	31	67.7	12.9	6.5	12.9	0.0
	40～49歳	60	58.3	15.0	6.7	16.7	3.3
	50～59歳	89	62.9	18.0	3.4	14.6	1.1
	60～64歳	42	66.7	23.8	2.4	7.1	0.0
	65～74歳	115	85.2	6.1	0.0	6.1	2.6
	75歳以上	117	94.0	0.9	0.9	2.6	1.7
性別	男性	215	76.3	8.8	3.7	10.2	0.9
	女性	272	73.2	15.4	1.8	7.4	2.2

(9) 主食・主菜・副菜のそろった食事を1日2回以上食べているか

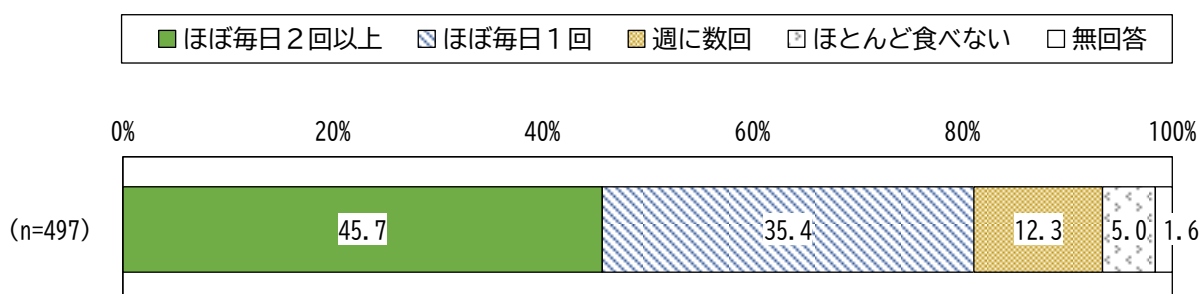
主食・主菜・副菜のそろった食事を1日2回以上食べているかは、「ほぼ毎日2回以上」が45.7%で最も多く、以下「ほぼ毎日1回」が35.4%、「週に数回」が12.3%、「ほとんど食べない」が5.0%となっています。

年齢で見ると、65歳以上では「ほぼ毎日2回以上」が過半数を占めていますが、30～39歳では16.1%にとどまっており、「週に数回」が29.0%、「ほとんど食べない」が12.9%でいずれも他の年齢より多くなっています。

性別による大きな差はみられません。

問35 あなたは、主食・主菜・副菜のそろった食事を1日に2回以上食べていますか。(1つに○)

※今回新設した質問



◇クロス集計

単位：%

		合計(n)	ほぼ毎日2回以上	ほぼ毎日1回	週に数回	ほとんど食べない	無回答
全体		497	45.7	35.4	12.3	5.0	1.6
年齢	18～29歳	35	28.6	42.9	20.0	8.6	0.0
	30～39歳	31	16.1	41.9	29.0	12.9	0.0
	40～49歳	60	33.3	41.7	15.0	8.3	1.7
	50～59歳	89	34.8	39.3	16.9	9.0	0.0
	60～64歳	42	45.2	31.0	16.7	7.1	0.0
	65～74歳	115	58.3	33.0	6.1	0.9	1.7
	75歳以上	117	59.8	30.8	6.0	0.9	2.6
性別	男性	215	47.4	34.4	12.1	5.6	0.5
	女性	272	44.1	36.4	12.9	4.8	1.8

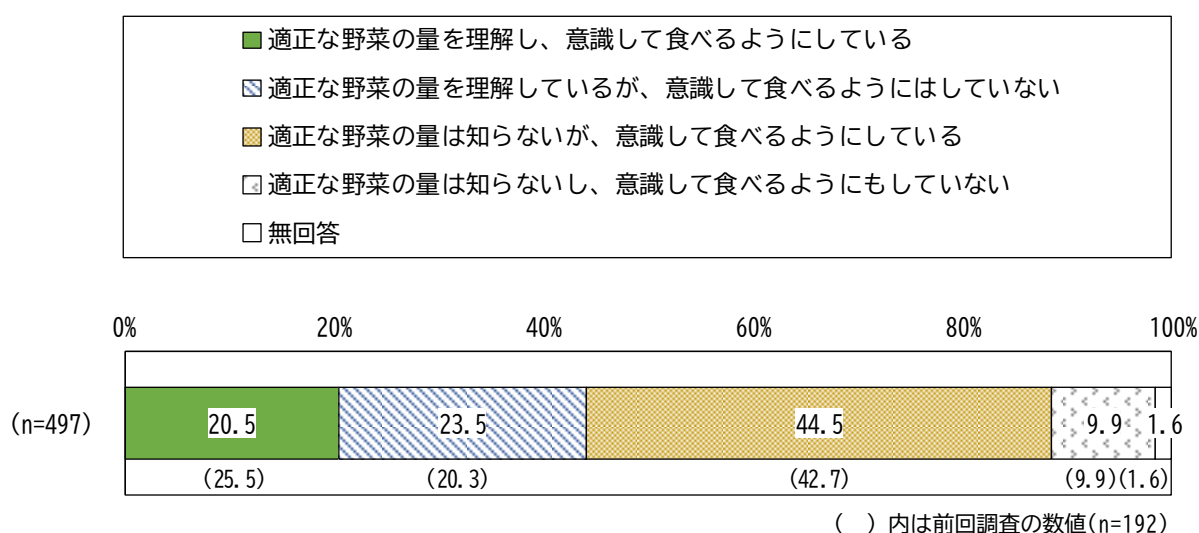
(10) 1日の野菜摂取量の目安を知っているか

1日の野菜摂取量の目安を知っているかは、「適正な野菜の量は知らないが、意識して食べるようにしている」が44.5%で最も多く、以下「適正な野菜の量を理解しているが、意識して食べるようにはしていない」が23.5%、「適正な野菜の量を理解し、意識して食べるようにしている」が20.5%、「適正な野菜の量は知らないし、意識して食べるようにはしていない」が9.9%となっています。

年齢で見ると、いずれの年齢においても「適正な野菜の量は知らないが、意識して食べるようにしている」が最も多くなっています。「適正な野菜の量を理解し、意識して食べるようにしている」は年齢が高いほど多く、「適正な野菜の量は知らないし、意識して食べるようにはしていない」は年齢が低いほど多くなる傾向がみられます。

性別で見ると、「適正な野菜の量は知らないし、意識して食べるようにはしていない」は、男性の方が多くなっています。

問36 あなたは1日に食べることが推奨されている野菜の量（350g以上、目安として両手山盛り1杯ぐらい）を知っていますか。（1つに○）



◇クロス集計

単位：%

		合計(n)	適正な野菜の量を理解し、意識して食べるようにしている	適正な野菜の量を理解しているが、意識して食べるようにはしていない	適正な野菜の量は知らないが、意識して食べるようにしている	適正な野菜の量は知らないし、意識して食べるようにはしていない	無回答
全体		497	20.5	23.5	44.5	9.9	1.6
年齢	18～29歳	35	8.6	34.3	40.0	17.1	0.0
	30～39歳	31	9.7	29.0	41.9	19.4	0.0
	40～49歳	60	8.3	21.7	53.3	15.0	1.7
	50～59歳	89	15.7	25.8	48.3	10.1	0.0
	60～64歳	42	23.8	23.8	42.9	9.5	0.0
	65～74歳	115	28.7	20.0	43.5	6.1	1.7
	75歳以上	117	24.8	23.1	41.9	6.8	3.4
性別	男性	215	18.6	17.2	48.4	14.9	0.9
	女性	272	21.3	28.7	41.9	6.3	1.8

(11) 1日の果物摂取量

1日の果物摂取量は、「100g未満」が44.7%で最も多く、以下「100～200g未満」が27.2%、「200g以上」が5.0%となっています。

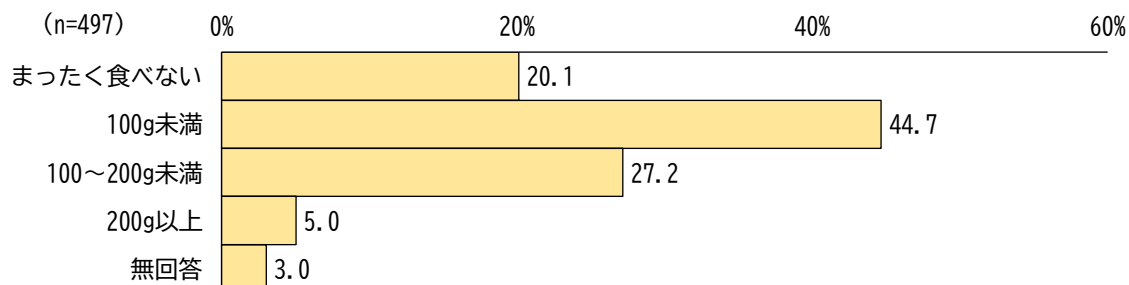
一方、「まったく食べない」は20.1%となっています。

年齢でみると、いずれの年齢においても「100g未満」が最も多くなっています。また、「100～200g未満」は65歳以上で多く、4割弱となっています。一方、「まったく食べない」は60歳未満で多く、3割弱から3割半となっています。

性別による大きな差はみられません。

問37 あなたは、1日に果物をどのくらい食べていますか。(1つに○)

※今回新設した質問



◇クロス集計

単位：%

		合計(n)	まったく食べない	100g未満	100～200g未満	200g以上	無回答
全体		497	20.1	44.7	27.2	5.0	3.0
年齢	18～29歳	35	34.3	45.7	17.1	2.9	0.0
	30～39歳	31	29.0	45.2	19.4	3.2	3.2
	40～49歳	60	35.0	53.3	6.7	3.3	1.7
	50～59歳	89	31.5	46.1	21.3	1.1	0.0
	60～64歳	42	19.0	57.1	23.8	0.0	0.0
	65～74歳	115	10.4	40.9	38.3	7.8	2.6
	75歳以上	117	8.5	40.2	37.6	6.8	6.8
性別	男性	215	21.9	44.7	25.6	4.7	3.3
	女性	272	18.8	46.0	28.7	4.4	2.2

(12) 塩分摂取量に気をつけているか

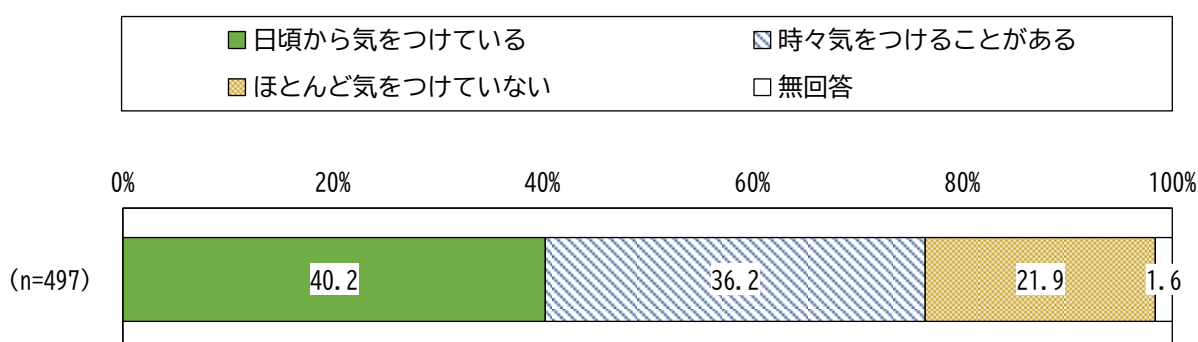
塩分摂取量に気をつけているかは、「日頃から気をつけている」が40.2%で最も多く、以下「時々気をつけることがある」が36.2%、「ほとんど気をつけていない」が21.9%となっています。

年齢で見ると、年齢が高いほど「日頃から気をつけている」が多く、年齢が低いほど「ほとんど気をつけていない」が多くなる傾向がみられます。

性別で見ると、男性では「ほとんど気をつけていない」が女性より多くなっています。

問38 あなたは、日頃から塩分の摂取量に気をつけていますか。(1つに○)

※今回新設した質問



◇クロス集計

単位：%

		合計(n)	日頃から気をつけている	時々気をつけることがある	ほとんど気をつけていない	無回答
全体		497	40.2	36.2	21.9	1.6
年齢	18～29歳	35	14.3	45.7	40.0	0.0
	30～39歳	31	16.1	38.7	45.2	0.0
	40～49歳	60	26.7	38.3	33.3	1.7
	50～59歳	89	32.6	46.1	21.3	0.0
	60～64歳	42	33.3	40.5	26.2	0.0
	65～74歳	115	51.3	30.4	16.5	1.7
	75歳以上	117	58.1	28.2	10.3	3.4
性別	男性	215	39.1	32.1	27.9	0.9
	女性	272	41.2	39.7	17.3	1.8

(13) BMI※

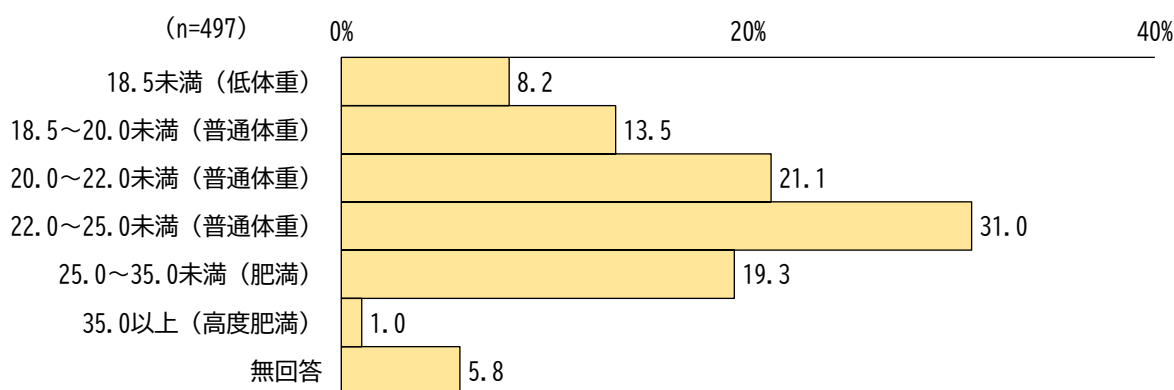
身長と体重から算出したBMIは、「22.0～25.0未満（普通体重）」が31.0%で最も多く、以下「20.0～22.0未満（普通体重）」が21.1%、「25.0～35.0未満（肥満）」が19.3%、「18.5～20.0未満（普通体重）」が13.5%などとなっています。また、BMIの平均は22.7となっています。

年齢で見ると、いずれの年齢においても「18.5～25.0%未満（普通体重）」が過半数を占めています。30～39歳では「18.5未満（低体重）」が他の年齢層より多くなっています。また、40～49歳と50～59歳では「25.0～35.0未満（肥満）」が他の年齢層より多く、40～49歳では30.0%となっています。BMIの平均は30～59歳の層で全体平均より高くなっています。

性別で見ると、男性では「25.0～35.0未満（肥満）」が、女性では「18.5未満（低体重）」が多くなっています。

問39 あなたの身長と体重を教えてください。（数字を記入・小数点以下は四捨五入）

※今回新設した質問



※BMI(Body Mass Index)の計算方法 $BMI = \frac{\text{体重(kg)}}{\text{身長(m)} \times \text{身長(m)}}$
 BMIの指標：日本肥満学会の基準による 18.5未満…低体重 18.5以上25.0未満…普通体重
 25.0以上35.0未満…肥満 35.0以上…高度肥満

◇クロス集計

単位：%

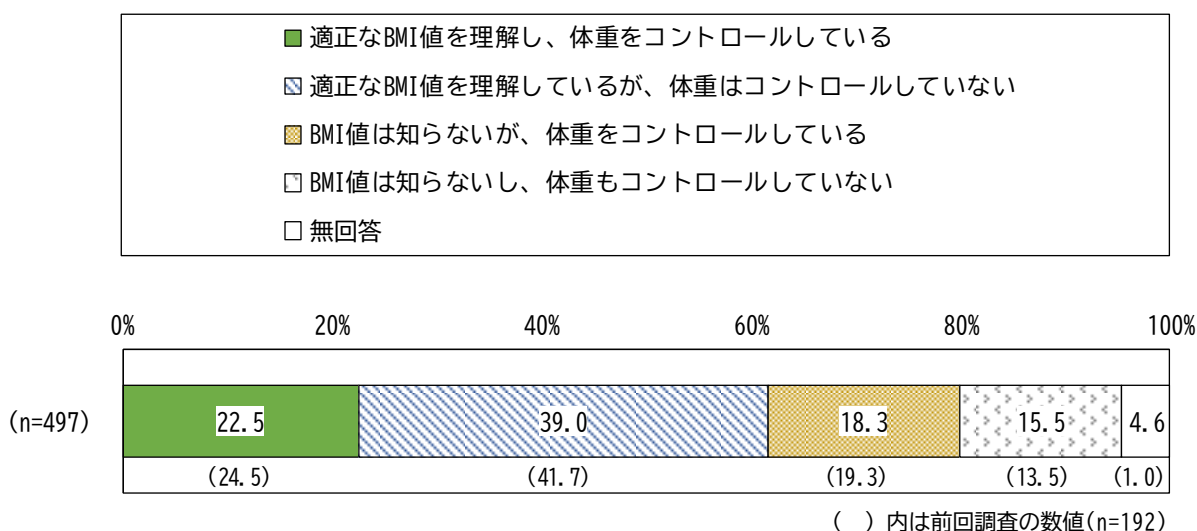
		合計(n)	18.5未満 (低体重)	18.5～ 20.0未満 (普通体重)	20.0～ 22.0未満 (普通体重)	22.0～ 25.0未満 (普通体重)	25.0～ 35.0未満 (肥満)	35.0以上 (高度肥満)	無回答	平均
全体		497	8.2	13.5	21.1	31.0	19.3	1.0	5.8	22.7
年齢	18～29歳	35	8.6	14.3	28.6	25.7	17.1	0.0	5.7	22.5
	30～39歳	31	16.1	12.9	12.9	35.5	9.7	9.7	3.2	23.0
	40～49歳	60	5.0	15.0	16.7	20.0	30.0	1.7	11.7	23.7
	50～59歳	89	6.7	15.7	19.1	27.0	25.8	0.0	5.6	23.0
	60～64歳	42	7.1	11.9	31.0	28.6	19.0	0.0	2.4	22.3
	65～74歳	115	8.7	15.7	20.0	35.7	16.5	0.9	2.6	22.5
	75歳以上	117	9.4	9.4	23.1	38.5	14.5	0.0	5.1	22.3
性別	男性	215	5.1	8.4	22.3	33.5	26.0	1.4	3.3	23.5
	女性	272	11.0	17.6	20.6	29.4	14.0	0.7	6.6	22.0

(14) 自分の適正体重を認識し体重をコントロールしているか

自分の適正体重を認識し体重をコントロールしているかは、「適正なBMI値を理解しているが、体重はコントロールしていない」が39.0%で最も多く、以下「適正なBMI値を理解し、体重をコントロールしている」が22.5%、「BMI値は知らないが、体重をコントロールしている」が18.3%、「BMI値は知らないし、体重もコントロールしていない」が15.5%となっています。

BMIの評価結果でみると、18.5未満（低体重）、25.0～35.0未満（肥満）では、「適正なBMI値を理解しているが、体重はコントロールしていない」が他の区分より多く、25.0～35.0未満（肥満）では62.5%、18.5未満（低体重）では46.3%となっています。

問40 健康的な体重の目安としてBMIという指数があります。あなたは、自分の適正体重を認識し、体重をコントロールしていますか。（1つに○）



◇クロス集計

単位：%

		合計	適正なBMI値を理解し、体重をコントロールしている	適正なBMI値を理解しているが、体重はコントロールしていない	BMI値は知らないが、体重をコントロールしている	BMI値は知らないし、体重もコントロールしていない	無回答
全体		497	22.5	39.0	18.3	15.5	4.6
BMI	18.5未満（低体重）	41	14.6	46.3	9.8	19.5	9.8
	18.5～20.0未満（普通体重）	67	29.9	26.9	26.9	13.4	3.0
	20.0～22.0未満（普通体重）	105	27.6	27.6	25.7	16.2	2.9
	22.0～25.0未満（普通体重）	154	26.0	36.4	18.8	16.2	2.6
	25.0～35.0未満（肥満）	96	14.6	62.5	9.4	11.5	2.1
	35.0以上（高度肥満）	5	0.0	60.0	0.0	40.0	0.0

(15) 喫煙の状況

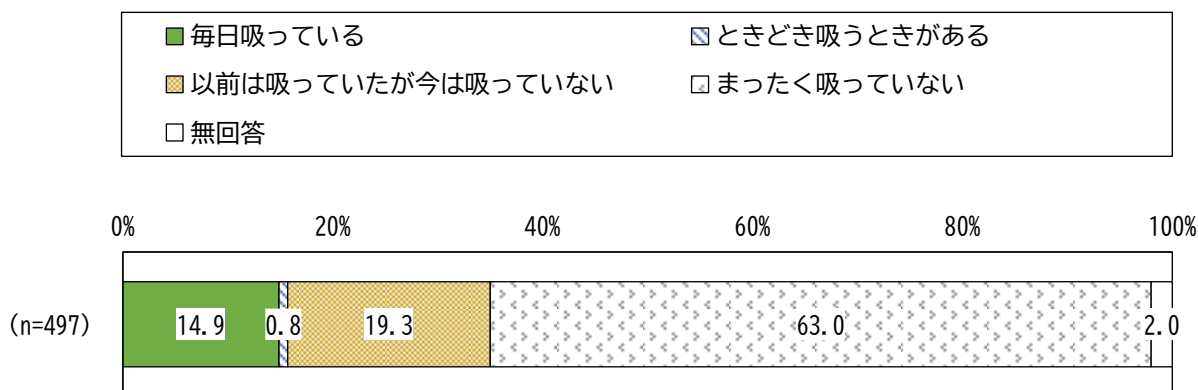
喫煙の状況は、「まったく吸っていない」が63.0%で最も多く、以下「以前は吸っていたが今は吸っていない」が19.3%、「毎日吸っている」が14.9%、「ときどき吸うときがある」が0.8%となっています。

年齢で見ると、いずれの年齢においても「まったく吸っていない」が過半数を占めています。一方、60歳未満では「毎日吸っている」が60歳以上より多く、30～59歳の層では2割を超えています。また、60～64歳では「以前は吸っていたが今は吸っていない」が35.7%で他の年齢層より多くなっています。

性別で見ると、女性では「まったく吸っていない」が74.6%を占めているのに対し、男性では48.4%にとどまっており、「毎日吸っている」が21.9%となっています。

問41 あなたは、たばこを吸っていますか。(〇は1つ)

※今回新設した質問



◇クロス集計

単位：%

		合計(n)	毎日吸っている	ときどき吸うときがある	以前は吸っていたが今は吸っていない	まったく吸っていない	無回答
全体		497	14.9	0.8	19.3	63.0	2.0
年齢	18～29歳	35	17.1	2.9	2.9	77.1	0.0
	30～39歳	31	22.6	3.2	12.9	61.3	0.0
	40～49歳	60	25.0	0.0	20.0	51.7	3.3
	50～59歳	89	21.3	1.1	18.0	58.4	1.1
	60～64歳	42	9.5	0.0	35.7	54.8	0.0
	65～74歳	115	12.2	0.9	20.0	65.2	1.7
	75歳以上	117	6.8	0.0	21.4	68.4	3.4
性別	男性	215	21.9	0.5	28.4	48.4	0.9
	女性	272	8.8	1.1	12.9	74.6	2.6

(16) 受動喫煙が低体重児出産の原因になることを知っているか

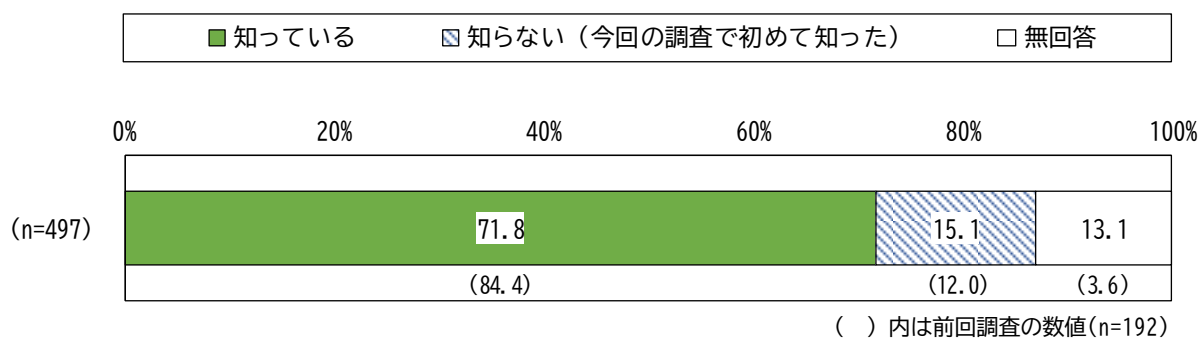
受動喫煙が低体重児出産の原因になることを知っているかは、「知っている」が71.8%、「知らない（今回の調査で初めて知った）」が15.1%となっています。

年齢で見ると、75歳未満の層では、「知っている」が7割を超えています。一方、75歳以上では「知っている」が49.6%にとどまっており、「知らない（今回の調査で初めて知った）」、「無回答」が他の年齢より多くなっています。

性別で見ると、女性では「知っている」が83.5%を占めています。一方、男性では「知っている」が58.6%にとどまっています。

前回調査と比較すると「知っている」が少なくなっています。

問42 あなたは、妊娠中に喫煙したり受動喫煙にさらされることが低体重児出産の原因になることを知っていましたか。（1つに○）



◇クロス集計

単位：%

		合計(n)	知っている	知らない（今回の調査で初めて知った）」	無回答
全体		497	71.8	15.1	13.1
年齢	18～29歳	35	88.6	11.4	0.0
	30～39歳	31	87.1	6.5	6.5
	40～49歳	60	81.7	16.7	1.7
	50～59歳	89	77.5	15.7	6.7
	60～64歳	42	88.1	9.5	2.4
	65～74歳	115	72.2	13.0	14.8
	75歳以上	117	49.6	21.4	29.1
性別	男性	215	58.6	20.0	21.4
	女性	272	83.5	11.8	4.8

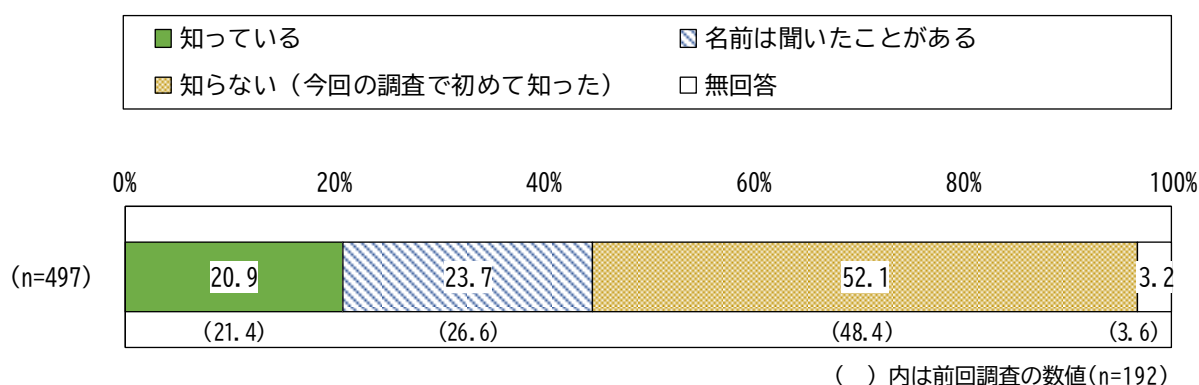
(17) COPD（慢性閉塞性肺疾患）の認知度

COPD（慢性閉塞性肺疾患）の認知度は、「知らない（今回の調査で初めて知った）」が52.1%で最も多く、以下「名前は聞いたことがある」が23.7%、「知っている」が20.9%となっています。

年齢で見ると、18～29歳、40～49歳、50～59歳、75歳以上では「知らない（今回の調査で初めて知った）」が過半数を占めています。30～39歳では「知っている」が38.7%で他の年齢層より多くなっています。

性別で見ると、「知らない（今回の調査で初めて知った）」は、男性では58.1%を占め、女性より多くなっています。

問43 あなたはCOPD（慢性閉塞性肺疾患）という病気を知っていますか。（1つに○）



◇クロス集計

単位：%

		合計(n)	知っている	名前は聞いたことがある	知らない（今回の調査で初めて知った）	無回答
全体		497	20.9	23.7	52.1	3.2
年齢	18～29歳	35	25.7	14.3	57.1	2.9
	30～39歳	31	38.7	22.6	38.7	0.0
	40～49歳	60	21.7	15.0	61.7	1.7
	50～59歳	89	23.6	20.2	56.2	0.0
	60～64歳	42	23.8	31.0	45.2	0.0
	65～74歳	115	20.9	30.4	47.0	1.7
	75歳以上	117	12.8	25.6	54.7	6.8
性別	男性	215	17.7	22.3	58.1	1.9
	女性	272	23.9	25.4	47.8	2.9

(18) 日頃から身体活動を意識して行っているか

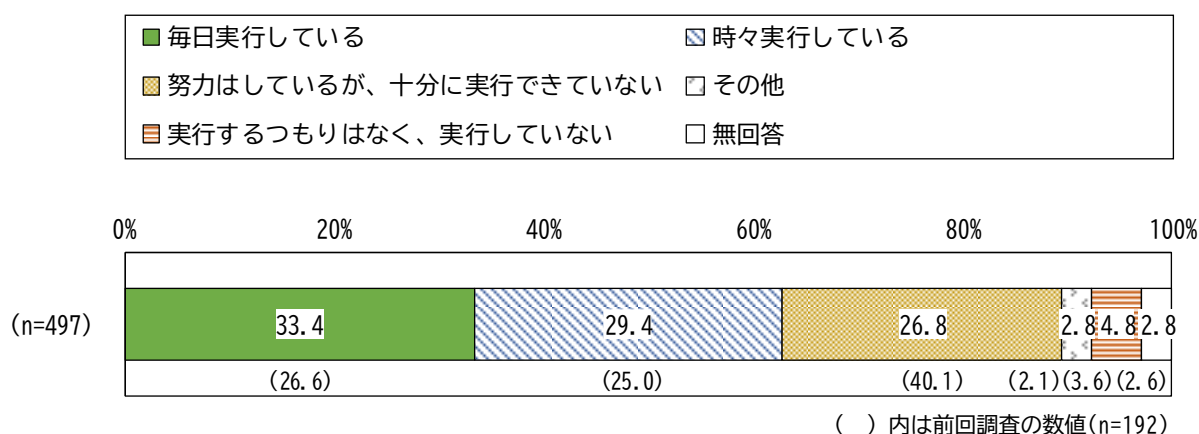
日頃から身体活動を意識して行っているかは、「毎日実行している」が33.4%で最も多く、以下「時々実行している」が29.4%、「努力はしているが、十分に実行できていない」が26.8%、「実行するつもりはなく、実行していない」が4.8%となっています。

年齢で見ると、18～29歳では「毎日実行している」が57.1%を占め、他の年齢層より多くなっています。一方、40～49歳では「実行するつもりはなく、実行していない」が15.0%で他の年齢より多くなっています。また、30～39歳、50～59歳では「努力はしているが、十分に実行できていない」が4割を超えています。

性別による大きな差はみられません。

前回調査と比較すると「毎日実行している」と「時々実行している」が多くなっています。

問44 日頃から通勤・買物で歩く、自転車に乗る、体を動かす作業をする等の身体活動を意識して行っていますか。(1つに〇)



◇クロス集計

単位：%

		合計(n)	毎日実行している	時々実行している	努力はしているが、十分に実行できていない	その他	実行するつもりはなく、実行していない	無回答
全体		497	33.4	29.4	26.8	2.8	4.8	2.8
年齢	18～29歳	35	57.1	28.6	5.7	2.9	5.7	0.0
	30～39歳	31	35.5	12.9	48.4	0.0	3.2	0.0
	40～49歳	60	31.7	20.0	28.3	3.3	15.0	1.7
	50～59歳	89	30.3	23.6	40.4	1.1	4.5	0.0
	60～64歳	42	40.5	26.2	28.6	0.0	4.8	0.0
	65～74歳	115	26.1	43.5	23.5	4.3	1.7	0.9
	75歳以上	117	33.3	29.9	20.5	4.3	3.4	8.5
性別	男性	215	34.0	30.2	24.2	3.3	6.5	1.9
	女性	272	32.7	28.7	29.8	2.6	3.3	2.9

(19) 1回30分程度、週2回以上の運動を行っているか

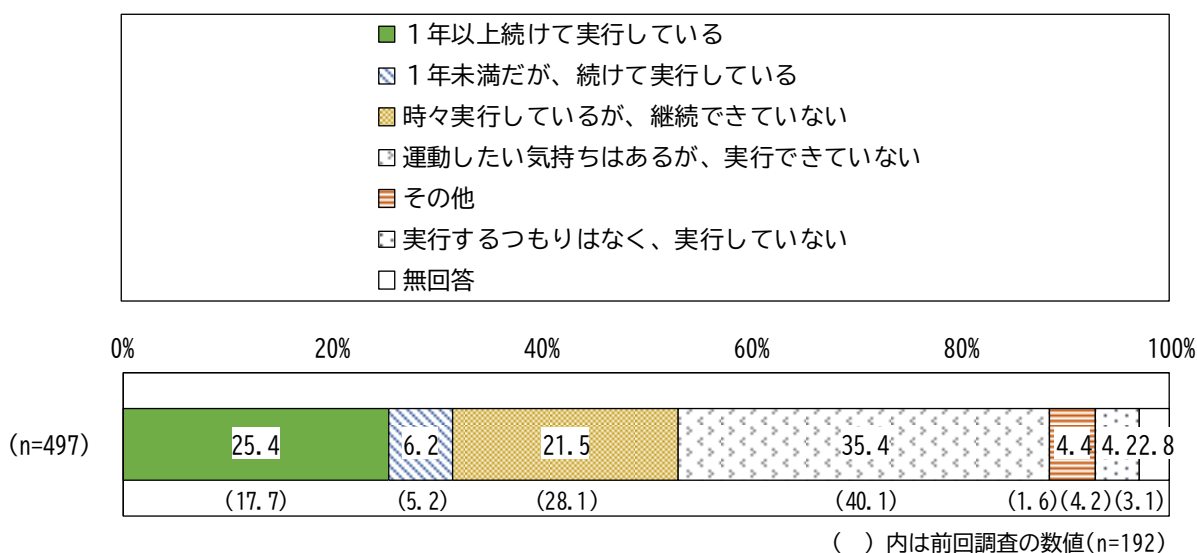
1回30分程度、週2回以上の運動を行っているかは、「運動したい気持ちはあるが、実行できていない」が35.4%で最も多く、以下「1年以上続けて実行している」が25.4%、「時々実行しているが、継続できていない」が21.5%、「1年未満だが、続けて実行している」が6.2%となっています。一方、「実行するつもりはなく、実行していない」は4.2%となっています。

年齢で見ると、65歳未満の層では「運動したい気持ちはあるが、実行できていない」が4割台でいずれも最も多くなっています。一方、75歳以上では「1年以上続けて実行している」が37.6%で最も多くなっています。

性別で見ると、男性では「1年以上続けて実行している」が32.1%で最も多くなっているのに対し、女性では「運動したい気持ちはあるが、実行できていない」が42.3%で最も多くなっています。

前回調査と比較すると「1年以上続けて実行している」が多くなっています。

問45 1回30分程度、週2回以上の運動を行っていますか。(1つに〇)



◇クロス集計

単位：%

		合計(n)	1年以上続けて実行している	1年未満だが、続けて実行している	時々実行しているが、継続できていない	運動したい気持ちはあるが、実行できていない	その他	実行するつもりはなく、実行していない	無回答
全体		497	25.4	6.2	21.5	35.4	4.4	4.2	2.8
年齢	18~29歳	35	28.6	11.4	14.3	40.0	5.7	0.0	0.0
	30~39歳	31	19.4	3.2	29.0	45.2	3.2	0.0	0.0
	40~49歳	60	10.0	5.0	26.7	45.0	3.3	8.3	1.7
	50~59歳	89	13.5	4.5	22.5	49.4	4.5	5.6	0.0
	60~64歳	42	23.8	9.5	16.7	40.5	4.8	4.8	0.0
	65~74歳	115	29.6	8.7	20.9	30.4	4.3	4.3	1.7
	75歳以上	117	37.6	3.4	21.4	21.4	5.1	3.4	7.7
性別	男性	215	32.1	6.0	22.8	27.4	4.2	5.6	1.9
	女性	272	19.9	6.3	21.0	42.3	4.8	2.9	2.9

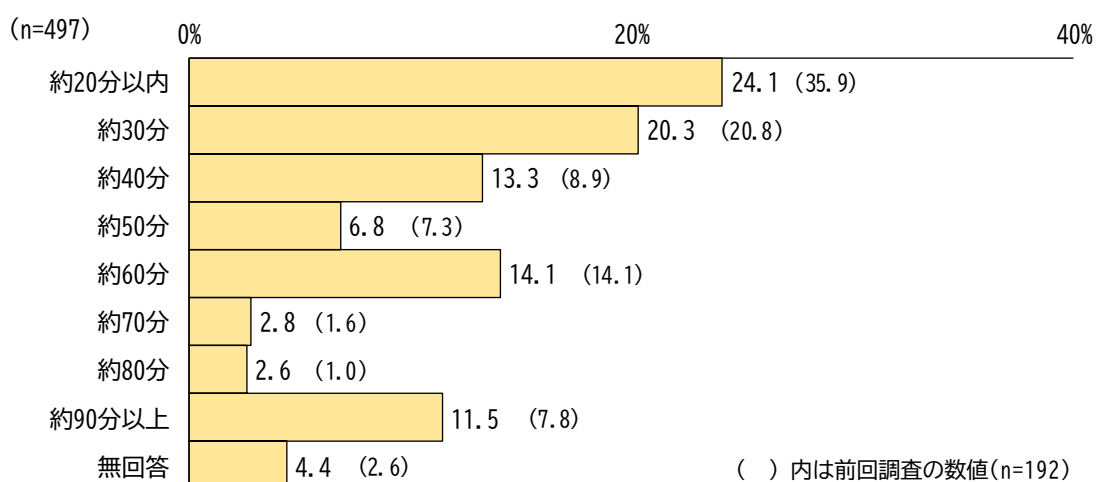
(20) 1日に歩いている時間

1日に歩いている時間は、「約20分以内」が24.1%で最も多く、以下「約30分」が20.3%、「約60分」が14.1%、「約40分」が13.3%などとなっています。

年齢で見ると、18～29歳では「約90分以上」が最も多く、30～49歳の層では「約60分」が最も多くなっています。一方、50～74歳の層では「約20分以内」が最も多く、75歳以上では「約30分」が最も多くなっています。

性別による大きな差はみられません。

問46 毎日の生活の中であなたは、一日に合計でどのくらいの時間歩いていますか。(1つに○)



◇クロス集計

単位：%

		合計(n)	約20分以内	約30分	約40分	約50分	約60分	約70分	約80分	約90分以上	無回答
全体		497	24.1	20.3	13.3	6.8	14.1	2.8	2.6	11.5	4.4
年齢	18～29歳	35	17.1	20.0	11.4	8.6	5.7	5.7	5.7	22.9	2.9
	30～39歳	31	12.9	9.7	6.5	12.9	35.5	6.5	3.2	12.9	0.0
	40～49歳	60	20.0	15.0	15.0	6.7	21.7	1.7	1.7	16.7	1.7
	50～59歳	89	30.3	15.7	11.2	4.5	9.0	6.7	2.2	19.1	1.1
	60～64歳	42	31.0	16.7	21.4	4.8	11.9	2.4	2.4	9.5	0.0
	65～74歳	115	27.0	25.2	10.4	6.1	13.9	1.7	3.5	7.0	5.2
	75歳以上	117	22.2	26.5	15.4	8.5	12.0	0.0	0.9	5.1	9.4
性別	男性	215	26.5	20.0	12.6	6.5	14.4	3.3	2.8	10.7	3.3
	女性	272	23.2	20.2	13.6	7.4	14.0	2.6	2.2	12.1	4.8

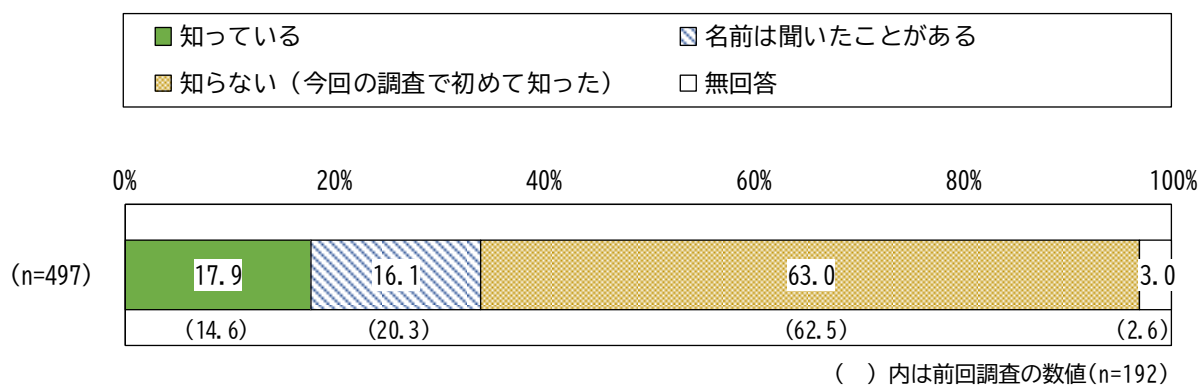
(21) ロコモティブシンドローム（運動器症候群）の認知度

ロコモティブシンドローム（運動器症候群）の認知度は、「知らない（今回の調査で初めて知った）」が63.0%で最も多く、以下「知っている」が17.9%、「名前は聞いたことがある」が16.1%となっています。

年齢で見ると、いずれの年齢においても「知らない（今回の調査で初めて知った）」が最も多く、60歳未満の層では7割を超えています。60～64歳では「知っている」が31.0%で他の年齢より多くなっています。

性別で見ると、いずれも「知らない（今回の調査で初めて知った）」が過半数を占め、男性では69.3%で女性より多くなっています。

問47 あなたはロコモティブシンドローム（運動器症候群）について知っていますか。（1つに○）



◇クロス集計

単位：%

		合計(n)	知っている	名前は聞いたことがある	知らない（今回の調査で初めて知った）	無回答
全体		497	17.9	16.1	63.0	3.0
年齢	18～29歳	35	20.0	8.6	71.4	0.0
	30～39歳	31	19.4	9.7	71.0	0.0
	40～49歳	60	15.0	8.3	73.3	3.3
	50～59歳	89	15.7	11.2	73.0	0.0
	60～64歳	42	31.0	23.8	45.2	0.0
	65～74歳	115	22.6	23.5	52.2	1.7
	75歳以上	117	12.0	16.2	64.1	7.7
性別	男性	215	12.1	15.3	69.3	3.3
	女性	272	22.8	16.2	58.8	2.2

(22) 健康ポイントアプリの利用状況

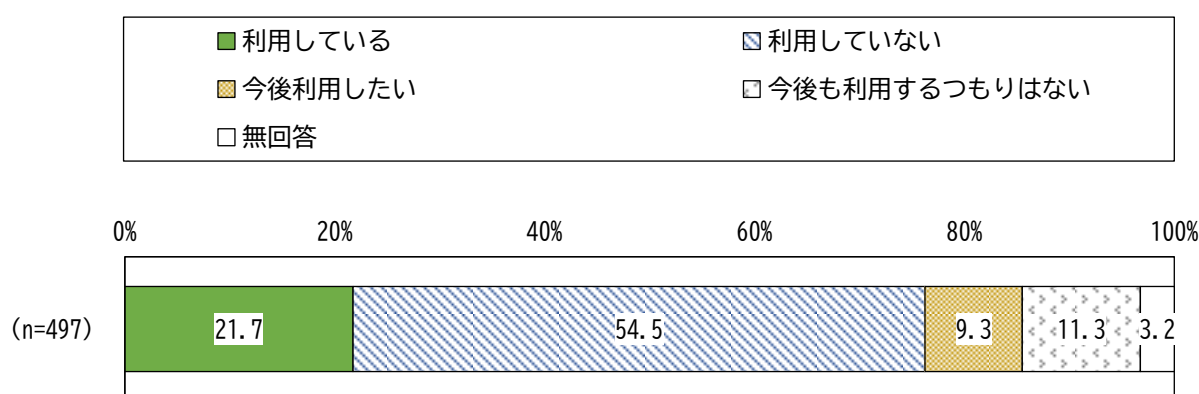
健康ポイントアプリの利用状況は、「利用していない」が54.5%で最も多く、以下「利用している」が21.7%、「今後も利用するつもりはない」が11.3%、「今後利用したい」が9.3%となっています。

年齢で見ると、いずれの年齢においても「利用していない」が最も多く、50歳以上の層では過半数を占めています。また、40～49歳では「今後も利用するつもりはない」が23.3%で他の年齢より多くなっています。

性別で見ると、いずれも「利用していない」が過半数を占めており、男性では「今後も利用するつもりはない」が14.0%で女性より多くなっています。

問48 あなたは、お持ちのスマートフォンで、日々の歩数や身長、体重、血圧等の記録などを一元管理ができる「健康ポイントアプリ」を利用していますか。(民間企業や公共機関が提供しているアプリを含みます。)(1つに○)

※今回新設した質問



◇クロス集計

単位：%

		合計(n)	利用している	利用していない	今後利用したい	今後利用するつもりはない	無回答
全体		497	21.7	54.5	9.3	11.3	3.2
年齢	18～29歳	35	31.4	48.6	8.6	11.4	0.0
	30～39歳	31	25.8	38.7	19.4	16.1	0.0
	40～49歳	60	21.7	45.0	8.3	23.3	1.7
	50～59歳	89	22.5	60.7	5.6	10.1	1.1
	60～64歳	42	16.7	57.1	16.7	9.5	0.0
	65～74歳	115	26.1	56.5	9.6	6.1	1.7
	75歳以上	117	15.4	57.3	7.7	11.1	8.5
性別	男性	215	20.9	52.6	7.9	14.0	4.7
	女性	272	22.4	55.9	10.7	9.6	1.5

(23) 町の健康ポイントアプリ「みずほ健康ポイント あるってこ」の認知度

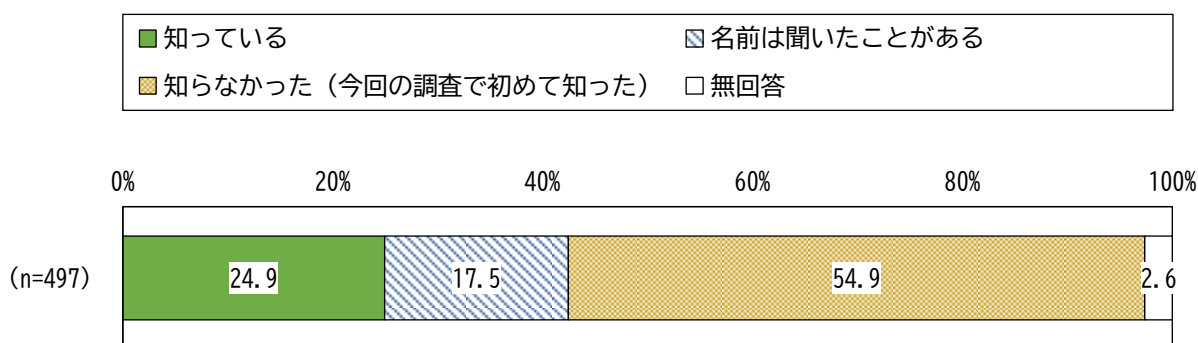
町の健康ポイントアプリ「みずほ健康ポイント あるってこ」の認知度は、「知らなかった(今回の調査で初めて知った)」が54.9%で最も多く、以下「知っている」が24.9%、「名前は聞いたことがある」が17.5%となっています。

年齢で見ると、いずれの年齢においても「知らなかった(今回の調査で初めて知った)」が最も多く、60～74歳を除いた層では過半数を占めています。

性別で見ると、いずれも「知らなかった(今回の調査で初めて知った)」が最も多く、男性では63.7%を占めています。

問49 あなたは、町で実施している健康ポイントアプリ「みずほ健康ポイント あるってこ」があることを知っていますか。(1つに○)

※今回新設した質問



◇クロス集計

単位：%

		合計(n)	知っている	名前は聞いたことがある	知らなかった(今回の調査で初めて知った)	無回答
全体		497	24.9	17.5	54.9	2.6
年齢	18～29歳	35	11.4	5.7	82.9	0.0
	30～39歳	31	9.7	16.1	74.2	0.0
	40～49歳	60	30.0	11.7	58.3	0.0
	50～59歳	89	28.1	14.6	57.3	0.0
	60～64歳	42	31.0	31.0	38.1	0.0
	65～74歳	115	27.0	22.6	48.7	1.7
	75歳以上	117	23.9	17.1	51.3	7.7
性別	男性	215	18.6	14.4	63.7	3.3
	女性	272	30.1	20.2	48.2	1.5

(24) 飲酒の状況

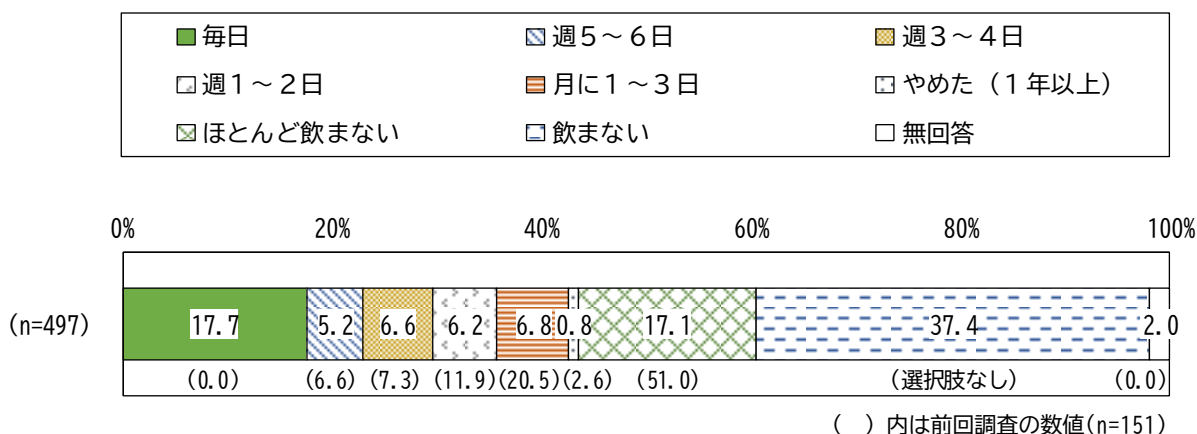
飲酒の状況は、「飲まない」が37.4%で最も多く、以下「毎日」が17.7%、「ほとんど飲まない」が17.1%、「月に1～3日」が6.8%などとなっています。

年齢で見ると、いずれも「飲まない」が最も多く、60歳以上の層では4割を超えています。一方、65～74歳では「毎日」が25.2%で他の年齢より多く、「週5～6日」と合わせると30.4%となっています。

性別で見ると、いずれも「飲まない」が最も多く、女性では45.2%で男性より多くなっています。一方、男性では「毎日」が27.0%で女性より多くなっています。

前回調査と比較すると「毎日」が多くなっています。

問50 あなたが普段、お酒を飲む頻度はどのくらいですか。(1つに○)



◇クロス集計

単位：%

		合計(n)	毎日	週5～6日	週3～4日	週1～2日	月に1～3日	やめた(1年以上)	ほとんど飲まない	飲まない	無回答
全体		497	17.7	5.2	6.6	6.2	6.8	0.8	17.1	37.4	2.0
年齢	18～29歳	35	8.6	8.6	8.6	5.7	11.4	0.0	25.7	28.6	2.9
	30～39歳	31	12.9	6.5	9.7	12.9	6.5	0.0	25.8	25.8	0.0
	40～49歳	60	15.0	6.7	13.3	11.7	5.0	1.7	13.3	31.7	1.7
	50～59歳	89	18.0	6.7	6.7	4.5	7.9	1.1	18.0	37.1	0.0
	60～64歳	42	11.9	4.8	11.9	9.5	14.3	0.0	7.1	40.5	0.0
	65～74歳	115	25.2	5.2	2.6	4.3	5.2	0.9	13.9	40.9	1.7
	75歳以上	117	17.9	2.6	4.3	3.4	5.1	0.9	19.7	42.7	3.4
性別	男性	215	27.0	7.9	7.0	5.6	6.0	0.5	16.3	27.9	1.9
	女性	272	9.9	3.3	6.6	6.6	7.7	1.1	18.0	45.2	1.5

(25) 1日当たりの飲酒量

週1回以上飲酒をする人について、1日当たりの飲酒量は、「1合(180ml)」が33.1%で最も多く、以下「2合以上3合(540ml)未満」が25.8%、「1合以上2合(360ml)未満」が24.2%、「3合(720ml)以上」が9.0%となっています。

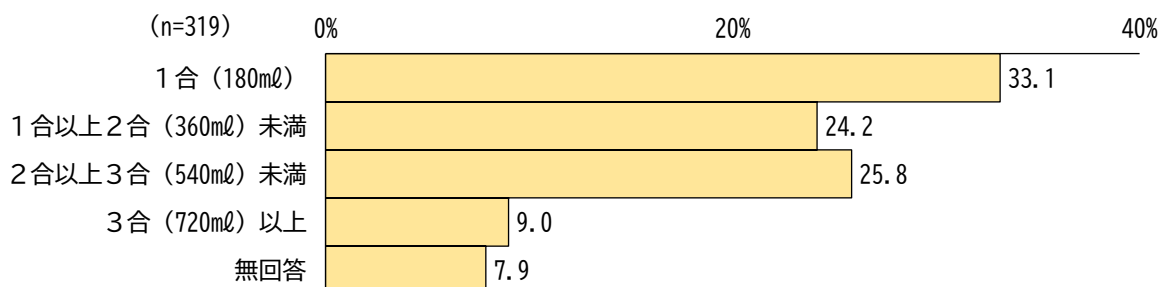
年齢で見ると、30～49歳の層では「3合以上(720ml)」が2割を超え、他の年齢より多くなっています。

性別で見ると、女性では「1合(180ml)」が41.7%で最も多くなっています。一方、男性では「2合以上3合(540ml)未満」が31.4%で最も多くなっています。

問50で「1. 毎日」～「4. 週1～2回」と回答された方

問50-1 お酒を飲む日は、1日当たりどの程度の量を飲みますか。清酒に換算してお答えください。
(○は1つ)

※今回新設した質問



◇クロス集計

単位：%

		合計(n)	1合 (180ml)	1合以上2合 (360ml) 未満	2合以上3合 (540ml) 未満	3合 (720ml) 以上	無回答
全体		178	33.1	24.2	25.8	9.0	7.9
年齢	18～29歳	11	27.3	27.3	27.3	9.1	9.1
	30～39歳	13	30.8	7.7	30.8	23.1	7.7
	40～49歳	28	25.0	25.0	25.0	21.4	3.6
	50～59歳	32	34.4	34.4	25.0	6.3	0.0
	60～64歳	16	37.5	12.5	31.3	12.5	6.3
	65～74歳	43	37.2	20.9	32.6	4.7	4.7
	75歳以上	33	33.3	30.3	15.2	0.0	21.2
性別	男性	102	27.5	23.5	31.4	10.8	6.9
	女性	72	41.7	25.0	18.1	6.9	8.3

(26) 日常生活における悩みやストレス

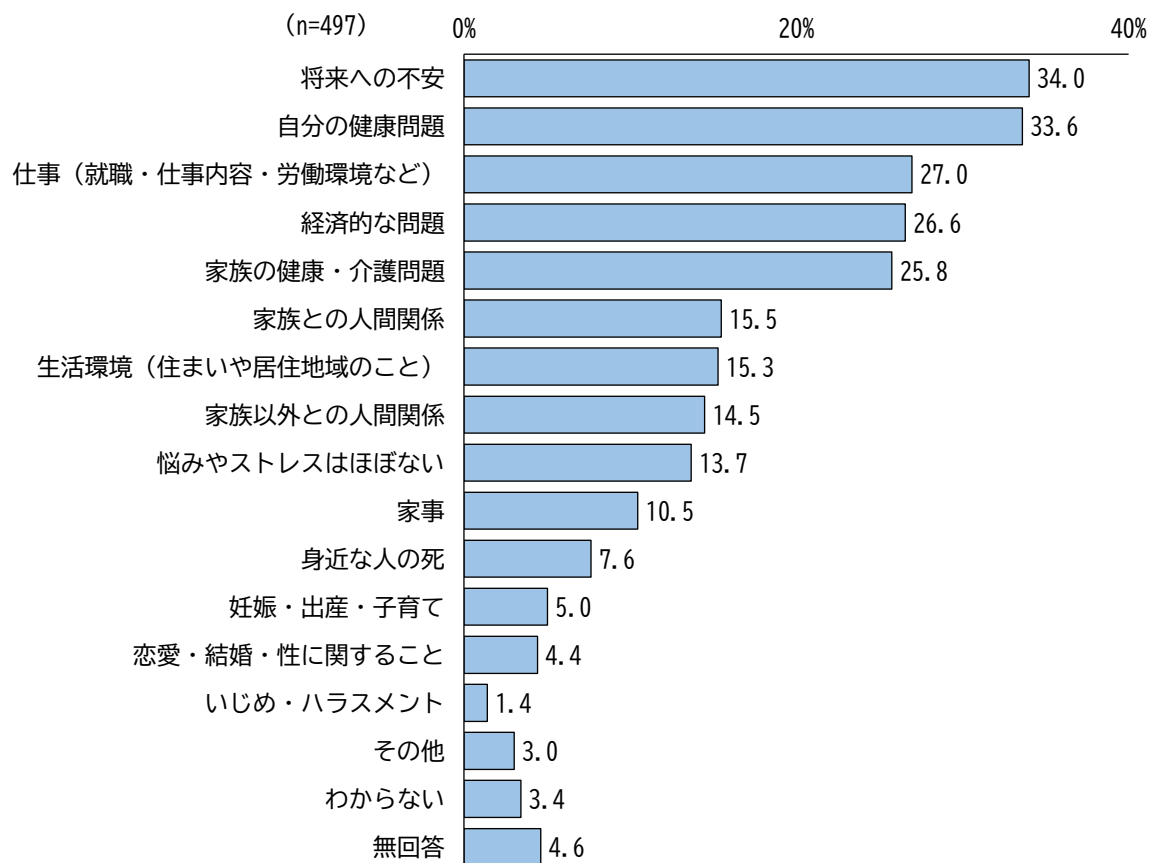
日常生活における悩みやストレスは、「将来への不安」が34.0%で最も多く、以下「自分の健康問題」が33.6%、「仕事（就職・仕事内容・労働環境など）」が27.0%、「経済的な問題」が26.6%などとなっています。

年齢で見ると、「自分の健康問題」は年齢が高いほど多くなる傾向がみられます。一方、「仕事（就職・仕事内容・労働環境など）」は年齢が低いほど多くなる傾向がみられます。

性別で見ると、「家族の健康・介護問題」、「家族との人間関係」、「家事」、「妊娠・出産・子育て」は、女性の方が5ポイント以上多くなっています。

問51 あなたは、日常生活でどのようなことに悩みやストレスがありますか（5つまでに○）

※今回新設した質問



◇クロス集計（上段：上位項目 下段：下位項目等）

単位：％

		合計(n)	将来への不安	自分の健康問題	仕事（就職・仕事内容・労働環境など）	経済的な問題	家族の健康・介護問題	家族との人間関係	生活環境（住まいや居住地域のこと）	家族以外との人間関係	家事
全体		497	34.0	33.6	27.0	26.6	25.8	15.5	15.3	14.5	10.5
年齢	18～29歳	35	48.6	8.6	48.6	34.3	2.9	22.9	11.4	8.6	5.7
	30～39歳	31	22.6	29.0	51.6	38.7	22.6	16.1	16.1	19.4	9.7
	40～49歳	60	40.0	28.3	55.0	20.0	23.3	28.3	16.7	25.0	15.0
	50～59歳	89	40.4	32.6	41.6	39.3	30.3	10.1	18.0	16.9	12.4
	60～64歳	42	33.3	33.3	28.6	19.0	28.6	28.6	19.0	11.9	16.7
	65～74歳	115	29.6	33.0	14.8	23.5	29.6	12.2	19.1	12.2	8.7
	75歳以上	117	29.9	46.2	1.7	20.5	26.5	10.3	9.4	12.0	7.7
性別	男性	215	31.6	32.1	27.9	25.1	22.8	10.7	14.9	12.1	6.5
	女性	272	36.0	34.6	26.8	28.3	27.9	19.9	16.2	16.9	13.6

		合計(n)	身近な人の死	妊娠・出産・子育て	恋愛・結婚・性に関すること	いじめ・ハラスメント	その他	悩みやストレスはほぼない	わからない	無回答
全体		497	7.6	5.0	4.4	1.4	3.0	13.7	3.4	4.6
年齢	18～29歳	35	2.9	8.6	22.9	0.0	0.0	8.6	0.0	0.0
	30～39歳	31	0.0	29.0	12.9	3.2	0.0	9.7	3.2	3.2
	40～49歳	60	3.3	16.7	5.0	1.7	5.0	3.3	5.0	1.7
	50～59歳	89	9.0	3.4	6.7	2.2	0.0	12.4	1.1	0.0
	60～64歳	42	2.4	0.0	2.4	2.4	2.4	9.5	7.1	2.4
	65～74歳	115	7.8	0.0	0.0	0.9	3.5	21.7	2.6	3.5
	75歳以上	117	14.5	0.0	0.0	0.9	6.0	17.1	5.1	11.1
性別	男性	215	7.0	2.3	5.1	1.4	2.3	17.2	6.0	5.1
	女性	272	8.5	7.4	4.0	1.5	3.7	11.4	1.5	3.3

(27) 悩みやストレスの相談状況

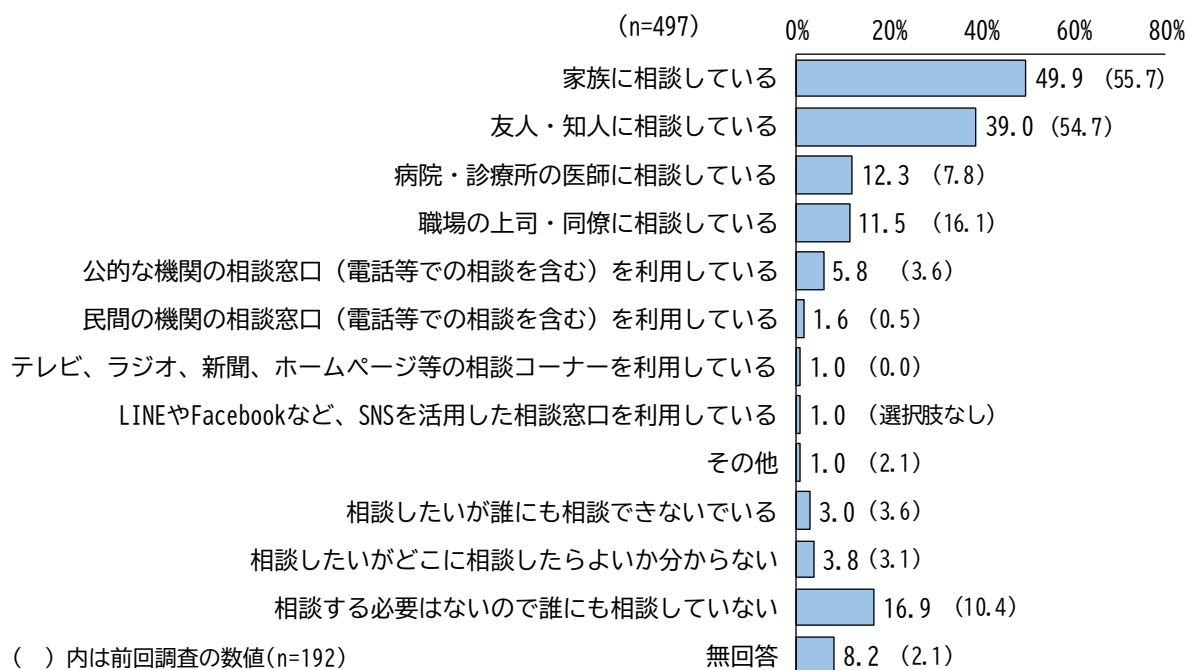
悩みやストレスの相談状況は、「家族に相談している」が49.9%で最も多く、以下「友人・知人に相談している」が39.0%、「病院・診療所の医師に相談している」が12.3%、「職場の上司・同僚に相談している」が11.5%などとなっています。

一方、「相談する必要はないので誰にも相談していない」が16.9%、「相談したいがどこに相談したらよいか分からない」が3.8%、「相談したいが誰にも相談できないでいる」が3.0%となっています。

年齢でみると、「家族に相談している」は30～39歳で特に多く、80.6%を占めています。また、「友人・知人に相談している」は年齢が低いほど多くなる傾向がみられます。一方、65～74歳では「相談する必要はないので誰にも相談していない」が21.7%で他の年齢より多く、「無回答」を合わせると75歳以上とともに3割を超えています。

前回調査と比較すると「相談する必要はないので誰にも相談していない」が多くなっています。

問52 悩みやストレスをどのように相談していますか。(5つまでに○)



◇クロス集計（上段：上位項目 下段：下位項目等）

単位：％

		合計(n)	家族に相談している	友人・知人に相談している	病院・診療所の医師に相談している	職場の上司・同僚に相談している	公的な機関の相談窓口（電話等での相談を含む）を利用している	民間の機関の相談窓口（電話等での相談を含む）を利用している	テレビ、ラジオ、新聞、ホームページ等の相談コーナーを利用している
全体		497	49.9	39.0	12.3	11.5	5.8	1.6	1.0
年齢	18～29歳	35	45.7	60.0	8.6	14.3	5.7	0.0	0.0
	30～39歳	31	80.6	54.8	6.5	25.8	9.7	0.0	0.0
	40～49歳	60	56.7	53.3	11.7	30.0	3.3	1.7	0.0
	50～59歳	89	49.4	40.4	6.7	18.0	4.5	3.4	0.0
	60～64歳	42	50.0	40.5	7.1	4.8	4.8	0.0	0.0
	65～74歳	115	47.8	33.9	12.2	4.3	5.2	2.6	2.6
	75歳以上	117	41.9	26.5	22.2	2.6	8.5	0.9	1.7
性別	男性	215	43.3	27.0	13.5	12.1	5.6	0.0	1.4
	女性	272	55.5	49.6	11.4	11.0	6.3	2.9	0.7

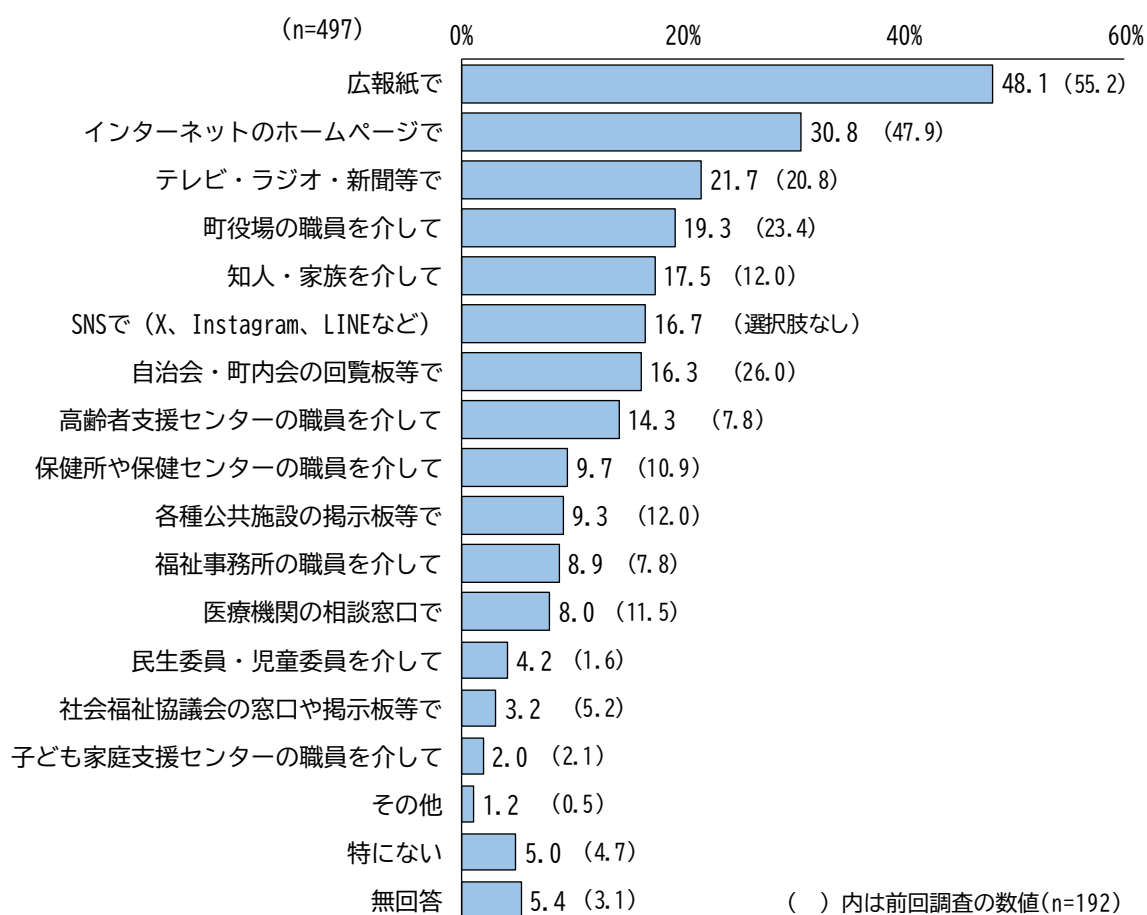
		合計(n)	LINEやFacebookなど、SNSを活用した相談窓口を利用している	その他	相談したいが誰にも相談できない	相談したいがどこに相談したらよいか分からない	相談する必要はないので誰にも相談していない	無回答
全体		497	1.0	1.0	3.0	3.8	16.9	8.2
年齢	18～29歳	35	2.9	0.0	2.9	2.9	17.1	0.0
	30～39歳	31	0.0	0.0	0.0	6.5	12.9	0.0
	40～49歳	60	1.7	3.3	1.7	0.0	16.7	1.7
	50～59歳	89	1.1	1.1	7.9	5.6	16.9	0.0
	60～64歳	42	2.4	2.4	0.0	4.8	14.3	0.0
	65～74歳	115	0.0	0.9	3.5	0.9	21.7	10.4
	75歳以上	117	0.9	0.0	1.7	6.8	15.4	20.5
性別	男性	215	0.5	1.4	3.3	4.7	21.4	10.7
	女性	272	1.5	0.7	2.9	3.3	13.6	5.1

(28) 希望する保健や福祉に関する情報等の入手方法

希望する保健や福祉に関する情報等の入手方法は、「広報紙で」が48.1%で最も多く、以下「インターネットのホームページで」が30.8%、「テレビ・ラジオ・新聞等で」が21.7%、「町役場の職員を介して」が19.3%などとなっています。

年齢で見ると、「広報紙で」、「自治会・町内会の回覧板等で」、「高齢者支援センターの職員を介して」は、年齢が高いほど多くなる傾向がみられます。一方、「SNSで（X、Instagram、LINEなど）」は、年齢が低いほど多くなる傾向がみられます。また、「インターネットのホームページで」は、40～49歳と60～64歳で過半数を占めています。

問53 保健や福祉に関する情報等を、どのような方法で入手したいと思いますか。（5つまでに○）



◇クロス集計（上段：上位項目 下段：下位項目等）

単位：%

		合計(n)	広報紙で	インターネットのホームページで	テレビ・ラジオ・新聞等で	町役場の職員を介して	知人・家族を介して	SNSで(X、Instagram、LINEなど)	自治会・町内会の回覧板等で	高齢者支援センターの職員を介して	保健所や保健センターの職員を介して
全体		497	48.1	30.8	21.7	19.3	17.5	16.7	16.3	14.3	9.7
年齢	18～29歳	35	25.7	37.1	20.0	11.4	17.1	57.1	8.6	0.0	5.7
	30～39歳	31	29.0	35.5	19.4	16.1	12.9	35.5	3.2	0.0	3.2
	40～49歳	60	45.0	51.7	16.7	13.3	20.0	38.3	8.3	0.0	3.3
	50～59歳	89	43.8	41.6	16.9	19.1	12.4	11.2	10.1	11.2	14.6
	60～64歳	42	57.1	50.0	26.2	26.2	16.7	7.1	14.3	14.3	11.9
	65～74歳	115	58.3	25.2	21.7	17.4	21.7	10.4	23.5	15.7	8.7
	75歳以上	117	50.4	9.4	29.1	26.5	18.8	3.4	24.8	31.6	12.0
性別	男性	215	46.0	31.2	23.3	19.5	21.9	12.6	18.1	14.0	9.3
	女性	272	49.6	30.9	21.0	19.9	14.3	19.9	15.4	15.1	9.9

		合計(n)	各種公共施設の掲示板等で	福祉事務所の職員を介して	医療機関の相談窓口で	民生委員・児童委員を介して	社会福祉協議会の窓口や掲示板等で	子ども家庭支援センターの職員を介して	その他	特になし	無回答
全体		497	9.3	8.9	8.0	4.2	3.2	2.0	1.2	5.0	5.4
年齢	18～29歳	35	2.9	0.0	2.9	0.0	0.0	5.7	0.0	2.9	0.0
	30～39歳	31	6.5	3.2	6.5	0.0	0.0	3.2	0.0	12.9	6.5
	40～49歳	60	10.0	3.3	13.3	0.0	3.3	3.3	1.7	11.7	1.7
	50～59歳	89	5.6	18.0	3.4	2.2	1.1	3.4	2.2	4.5	2.2
	60～64歳	42	11.9	9.5	7.1	4.8	2.4	2.4	2.4	4.8	0.0
	65～74歳	115	10.4	7.0	11.3	2.6	6.1	0.0	0.9	3.5	6.1
	75歳以上	117	12.0	11.1	8.5	12.0	4.3	0.9	0.9	2.6	10.3
性別	男性	215	9.3	9.8	7.9	4.7	2.3	2.3	0.5	7.4	7.9
	女性	272	9.6	8.5	8.5	4.0	4.0	1.8	1.8	3.3	2.6

(29) 地域で安心して生活していくために福祉・保健・医療に関して大切なこと

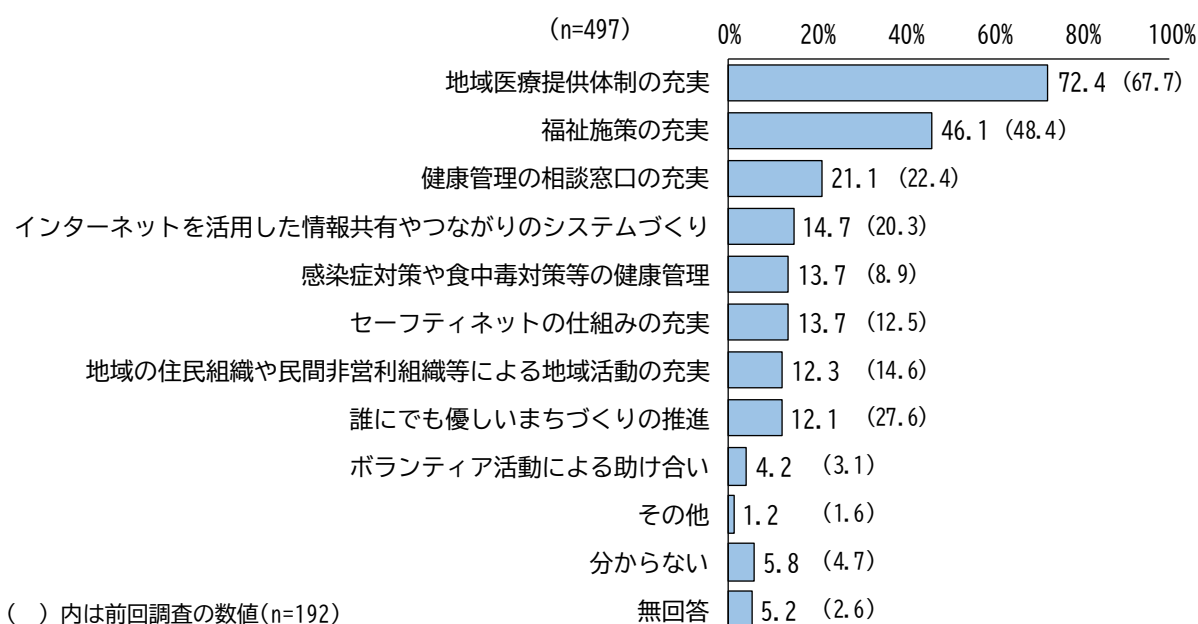
地域で安心して生活していくために福祉・保健・医療に関して大切なことは、「地域医療（かかりつけ医、病院等）提供体制の充実」が72.4%で最も多く、以下「福祉施策（高齢者福祉、障がい者福祉、児童福祉等）の充実」が46.1%、「健康管理（生活習慣病、がん等）の相談窓口の充実」が21.1%、「インターネットを活用した情報共有やつながりのシステムづくり」が14.7%などとなっています。

年齢で見ると、「地域医療（かかりつけ医、病院等）提供体制の充実」は40歳以上の層で7割を超えています。また、「福祉施策（高齢者福祉、障がい者福祉、児童福祉等）の充実」は50歳以上の層で過半数を占めています。

性別による大きな差はみられません。

前回調査と比較すると「地域医療提供体制の充実」が多くなっています。

問54 地域で安心して生活していくために、福祉・保健・医療に関してどのようなことが大切だと思いますか。（3つまでに○）



◇クロス集計（上段：上位項目 下段：下位項目等）

単位：%

		合計(n)	地域医療（かかりつけ医、病院等）提供体制の充実	福祉施策（高齢者福祉、障がい者福祉、児童福祉等）の充実	健康管理（生活習慣病、がん等）の相談窓口の充実	インターネットを活用した情報共有やつながりのシステムづくり	感染症対策や食中毒対策等の健康管理	セーフティネットの仕組み（生活保護、生活困窮者自立支援等）の充実
全体		497	72.4	46.1	21.1	14.7	13.7	13.7
年齢	18～29歳	35	62.9	22.9	20.0	37.1	28.6	20.0
	30～39歳	31	58.1	29.0	19.4	22.6	6.5	9.7
	40～49歳	60	75.0	40.0	16.7	25.0	11.7	15.0
	50～59歳	89	71.9	52.8	20.2	12.4	7.9	18.0
	60～64歳	42	78.6	50.0	33.3	26.2	11.9	14.3
	65～74歳	115	73.9	50.4	18.3	9.6	21.7	13.0
	75歳以上	117	77.8	52.1	24.8	4.3	9.4	9.4
性別	男性	215	71.2	42.3	20.9	16.3	15.8	14.0
	女性	272	75.0	50.0	21.7	13.6	11.8	13.2

		合計(n)	地域の住民組織（自治会・町内会等）や民間非営利組織（NPO等）等による地域活動の充実	誰にでも優しいまちづくり（ユニバーサルデザイン）の推進	ボランティア活動による助け合い	その他	分からない	無回答
全体		497	12.3	12.1	4.2	1.2	5.8	5.2
年齢	18～29歳	35	8.6	17.1	0.0	0.0	2.9	0.0
	30～39歳	31	12.9	22.6	6.5	0.0	12.9	3.2
	40～49歳	60	10.0	11.7	1.7	0.0	8.3	3.3
	50～59歳	89	11.2	9.0	5.6	3.4	7.9	2.2
	60～64歳	42	21.4	9.5	2.4	0.0	4.8	0.0
	65～74歳	115	9.6	13.0	5.2	1.7	5.2	4.3
	75歳以上	117	15.4	11.1	5.1	0.9	3.4	8.5
性別	男性	215	13.0	12.6	4.2	0.5	6.0	5.6
	女性	272	12.1	12.1	4.4	1.8	5.9	2.9

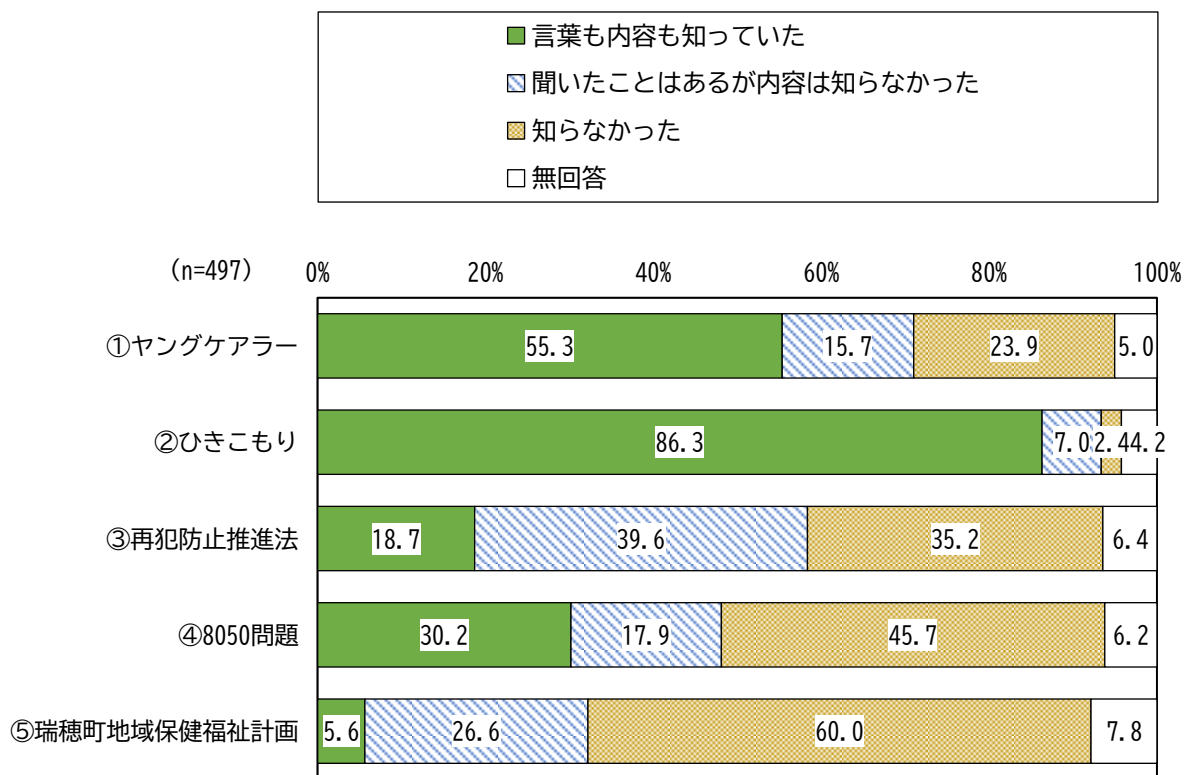
5 地域福祉に関わる知識や関係団体について

(1) 地域福祉に関わりのある用語の認知度

地域福祉に関わりのある用語の認知度は、「言葉も内容も知っていた」が多い順に「②ひきこもり」が86.3%、「①ヤングケアラー」が55.3%、「④8050問題」が30.2%、「③再犯防止推進法」が18.7%、「⑤瑞穂町地域保健福祉計画」が5.6%となっています。

問55 あなたは、次の①～⑤の言葉や内容をご存じでしたか。(それぞれ1つに○)

※今回新設した質問



(2) 町内の団体や福祉施設の認知度

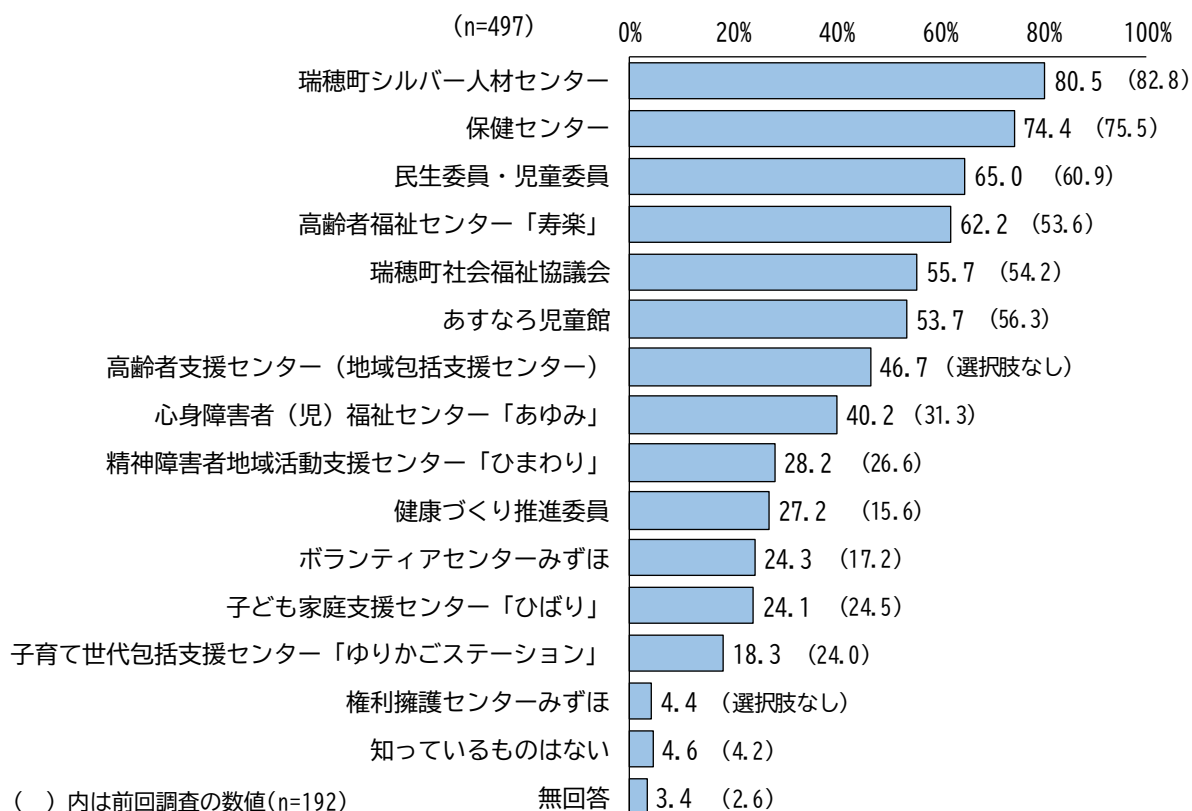
町内の団体や福祉施設の認知度は、「瑞穂町シルバー人材センター」が80.5%で最も多く、以下「保健センター」が74.4%、「民生委員・児童委員」が65.0%、「高齢者福祉センター「寿楽」」が62.2%などとなっています。

年齢で見ると、「瑞穂町シルバー人材センター」、「民生委員・児童委員」、「高齢者福祉センター「寿楽」」などは年齢が高いほど認知度が高くなる傾向がみられます。一方、「児童館」は18～29歳、40～74歳の層で過半数を占めていますが、30～39歳では48.4%にとどまっています。

性別で見ると、女性の方が全体的に認知度が高くなっています。

前回調査と比較すると「民生委員・児童委員」や「高齢者福祉センター「寿楽」」、「心身障害者（児）福祉センター「あゆみ」」などが多くなっています。

問56 あなたは、次にあげる町内の団体や福祉施設を知っていますか。(あてはまるものすべてに○)



◇クロス集計（上段：上位項目 下段：下位項目等）

単位：%

	合計(n)	瑞穂町シルバー人材センター	保健センター	民生委員・児童委員	高齢者福祉センター「寿楽」	瑞穂町社会福祉協議会	あすなろ児童館	高齢者支援センター（地域包括支援センター）	心身障害者（児）福祉センター「あゆみ」	
全体	497	80.5	74.4	65.0	62.2	55.7	53.7	46.7	40.2	
年齢	18～29歳	35	57.1	68.6	31.4	40.0	28.6	71.4	28.6	37.1
	30～39歳	31	61.3	71.0	32.3	32.3	35.5	48.4	12.9	22.6
	40～49歳	60	73.3	66.7	50.0	46.7	50.0	61.7	35.0	31.7
	50～59歳	89	82.0	71.9	60.7	56.2	48.3	56.2	42.7	41.6
	60～64歳	42	88.1	78.6	81.0	66.7	61.9	64.3	64.3	47.6
	65～74歳	115	88.7	85.2	76.5	73.0	73.0	58.3	62.6	49.6
	75歳以上	117	87.2	73.5	79.5	78.6	59.8	36.8	48.7	37.6

	合計(n)	精神障害者地域活動支援センター「ひまわり」	健康づくり推進委員	ボランティアセンターみずほ	子ども家庭支援センター「ひばり」	子育て世代包括支援センター「ゆりかごステーション」（保健センター内）	権利擁護センターみずほ	知っているものはない	無回答	
全体	497	28.2	27.2	24.3	24.1	18.3	4.4	4.6	3.4	
年齢	18～29歳	35	20.0	20.0	20.0	22.9	8.6	11.4	0.0	
	30～39歳	31	12.9	6.5	9.7	25.8	3.2	6.5	3.2	
	40～49歳	60	15.0	21.7	31.7	36.7	1.7	6.7	3.3	
	50～59歳	89	23.6	22.5	21.3	23.6	14.6	0.0	7.9	2.2
	60～64歳	42	38.1	31.0	31.0	28.6	26.2	4.8	2.4	2.4
	65～74歳	115	37.4	40.0	24.3	25.2	20.0	7.0	2.6	0.9
	75歳以上	117	32.5	26.5	25.6	16.2	14.5	5.1	1.7	4.3

6 地域福祉を推進するために重要なことについて

(1) 地域福祉を推進するために重要なこと

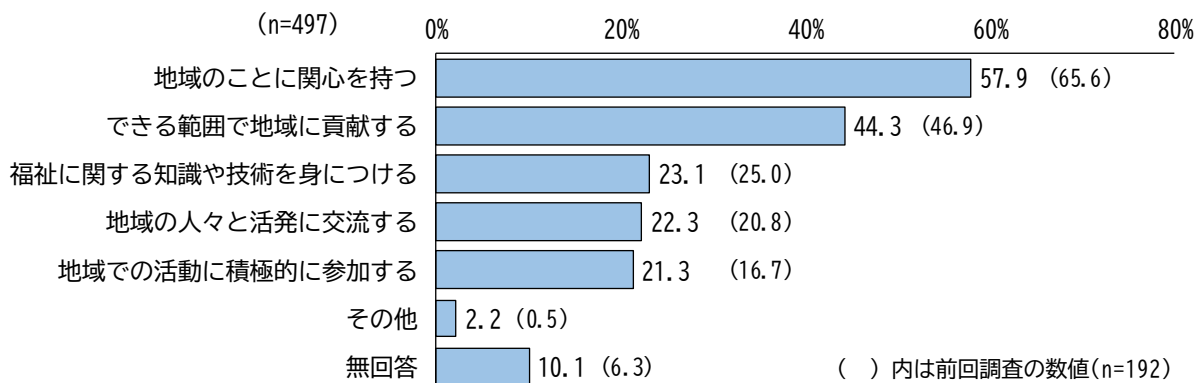
地域福祉を推進するために重要なことについて、『①自助』では、「地域のことに興味を持つ」が57.9%で最も多く、以下「できる範囲で地域に貢献する」が44.3%、「福祉に関する知識や技術を身につける」が23.1%、「地域の人々と活発に交流する」が22.3%などとなっています。

『②互助・共助』では、「より多くの人に地域や福祉に関する情報を広める」が35.0%で最も多く、以下「地域の人々の課題を共有する」が34.0%、「地域で活動できる組織体制を整備する」が27.2%、「地域で活動する人材を育てる」が25.2%などとなっています。

『③公助』では、「地域住民のニーズの把握を強化する」が39.8%で最も多く、以下「公的な福祉サービスの質の向上を図る」が34.8%、「公的な福祉サービスの量の充実に図る」が33.6%、「都市基盤やサービス提供基盤の充実に図る」が32.6%などとなっています。

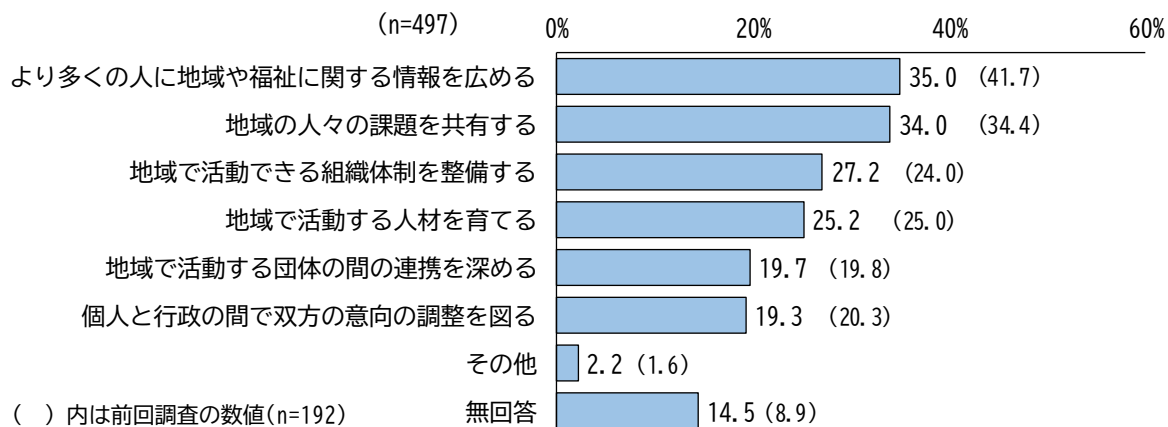
問57 地域福祉を推進するためには、自助（一人ひとりの取組）、互助・共助（周囲や地域のサポート）、公助（国や自治体等による公的な支援）の連携が重要です。あなたは地域福祉を推進するため、どのようなことが重要だと考えますか。（○は①～③のそれぞれにいくつでも）

①自助



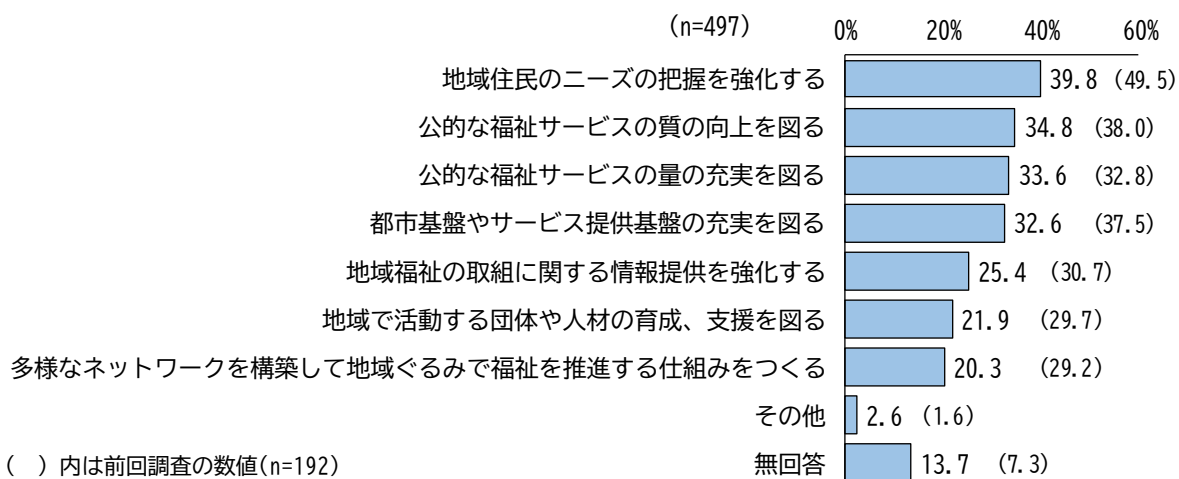
問57 地域福祉を推進するためには、自助（一人ひとりの取組）、互助・共助（周囲や地域のサポート）、公助（国や自治体等による公的な支援）の連携が重要です。あなたは地域福祉を推進するため、どのようなことが重要だと考えますか。（○は①～③のそれぞれにいくつでも）

②互助・共助



問57 地域福祉を推進するためには、自助（一人ひとりの取組）、互助・共助（周囲や地域のサポート）、公助（国や自治体等による公的な支援）の連携が重要です。あなたは地域福祉を推進するため、どのようなことが重要だと考えますか。（○は①～③のそれぞれにいくつでも）

③公助



7 暮らしやすい地域づくりについて（自由記載欄）

暮らしやすい地域づくりに関する意見として、138件の回答がありました。
テーマ別の主な意見は以下のとおりです。

テーマ	件数
(1) 生活環境について	66
(2) 地域活動について	14
(3) 安全・安心について	14
(4) 行政・まちづくりについて	14
(5) 保健・医療・福祉について	11
(6) アンケートについて	10
(7) その他	9

(1) 生活環境について

- 元狭山地区に買い物をする大きなスーパーがなくなり、祖父母の買い物ができず困っている。車がないとどこにも行けないため、いつ事故を起こしてもおかしくない。みずほまるのバス停までも家から遠く、使い切れていない。高齢者も子どもも生きづらい町になっている。このままだと誰も住めない町になってしまう。(20～24歳、女性)
- 電車の本数など交通の便をもう少し改善した方が良いと思います。また、地域住民が利用できる体育館やプールなど施設の改善をすれば暮らしやすい、子育て世代にも良いのではないのでしょうか。(25～29歳、女性)
- 公共交通機関をもっと充実させてほしい。(35～39歳、女性)
- 交通面で不便を感じる時が多くあります。バスの本数が増えると出かけやすいと思いました。(40～44歳、女性)
- 子どもが気軽に遊べる公園、広場の充実。(45～49歳、男性)
- 町内バスを再度運行するようにして欲しい。なぜ利用者が少ないかを考え、利便性の良い物にして欲しい。特に乗り換えなければ役場行けないなど。また、料金にも問題がある。高齢者、障がい者は無料にすべきでした。検討をお願いします。それ以外はいい町だと思っています。(50～54歳、男性)
- 瑞穂町は買い物ができる商業施設（昔あった「みずほモール」の様な）が圧倒的に少ないので買い物に苦労する。(55～59歳、男性)
- 公共施設の駐車場完備（多数台が駐車できる広さ）。また。瑞穂町の広さに対して、徒歩で買い物等が利用できる場所が少ない。免許がない人、返納した人たちが外出しづらいと思う。(55～59歳、女性)
- 都営住宅ですが、瑞穂モールがなくなり、買い物難民になっています。(65～74歳、男性)

- 箱根ヶ崎駅と羽村駅を結ぶバスをお願いします。車を運転しなくなった時、買い物や病院などに行くのがとても不安です。(65~74歳、女性)
- プライバシーを問われる時代、何かあった時以外、あまりご近所への距離を近づけないように気をつけています。本当に近いご近所さんに対しては木の枝など飛び出さないようにとか、駐車場に入る時、我が家の枝が車の屋根に当たらないようになどは大変気を使っています。他人への迷惑がかからないように自己努力が必要と思います。(75歳以上、女性)

(2) 地域活動について

- 子どもの出産にとっても協力的な地域だと感じました。保健師さんのサポート、近所の方々が何かあったら連絡してと連絡先を教えていただいたり、私も子育てに限らず積極的に地域貢献をしていきたいです。(20~24歳、女性)
- 町のお祭りやイベント、とても楽しく子どもと一緒に参加させていただいています。これからも地域交流や楽しい催し物楽しみにしています。(25~29歳、女性)
- 今現在40代の世代は、就職氷河期世代とも呼ばれ、思うような就職ができず、結婚や出産ができなかった人々が多い世代です。私自身も親の介護と兄弟の病気等もあり、出産はついにできませんでした。これから高齢になり身寄りがなくなることが心配です。今からでも参加できるコミュニティや相談できる窓口があれば非常にありがたいですし、仕事の合間をぬって参加できればと考えています。(45~49歳、女性)
- 町内会・自治会は役員が回ってきて、会合や行事に出席できないと近隣(同じ班)に迷惑をかけてしまう。そのため、仕方なく退会し、加入していない人々もいる。(55~59歳、女性)
- 私は高齢者です。周りにいらっしゃるご高齢の方々も比較적으로元気な方が多いです。一方、孫達の世代は住んでいる人数も少なくなり、こちらでは数年前から育成会(子ども会)も存続していません。同じ子を持つ親同士の関わりも減ってきているようです。どうか将来のある子どもたち(その親御さんも含めて)が安心して生き生きと過ごせる町になりますよう、ご尽力してくださると助かります。(65~74歳、女性)
- 町内会をやめる人が多く、今後の維持が大変だと思う。もっと各町内会に補助をして活気ある町内にしてほしい。(75歳以上、男性)

(3) 安全・安心について

- 深夜のバイクによる、ふかし行為の抑制。(18~19歳、男性)
- 小学校(三小)までの道が狭く、パイプがあるだけの歩道なので、小学生が通学するには怖い。道路が狭く難しいかもしれないが、ガードレールが安心。安全に通えるよう通学路を整えて欲しい。(35~39歳、女性)
- 朝の見守り活動で、横断歩道に立っていただけで少しは安全かと思います。ですが、まだまだ細い道でのスピードを出した悪質な車が多いです。幼い命を守るための地域づくりを徹底してほしいです。(45~49歳、女性)

- 子どもが安心して遊べる場所を増やしてほしい（公園だけでなく室内で遊べる場所も）。裏道になっている場所や道路が狭い場所が多いので、子どもや歩行者、自転車がもっと安全に通れる道路にしてほしい。（45～49歳、女性）
- 狭い歩道を自転車も通行せざるを得ない道路事情、仕方ないと思いますが、自転車の交通ルールを徹底してほしい。スピードを出して走行する自転車があります。（65～74歳、女性）

(4) 行政・まちづくりについて

- 悩み相談の際に窓口や電話だけではなく、SNS(LINEやXのDMなど)や専用サイトなどネットで相談ができる場を設けてくれたらいいなと感じています。障がいのある人や何らかの理由で直接での会話ができない人などが気軽に相談しやすくなり、より改善策が生まれるのではないかと考えています。（20～24歳、男性）
- 高齢者よりも子どもを最優先したほうがいい。子育てしにくい町は若い人が住みつかない。高齢者や障がい者福祉を充実させるには若い人が必要不可欠。子どもが多くなればその親である若い世帯が増える。瑞穂町で子育てしたいと思うまちづくりをすれば人口が増え、店ができて高齢者や障がい者にとっても良いことになるはず。（45～49歳、女性）
- 関係者で意見交換するなどの機会があると良いと思います。（75歳以上、男性）
- 行政での取組を積極的にPRする。そして住民の選択肢を多く提供する。（75歳以上、男性）

(5) 保健・医療・福祉について

- 役場がある地区だけではなく、瑞穂町内まんべんなくサービスが行き渡るように地域づくり、計画の策定を考えてほしい。（40～44歳、女性）
- 高齢になると罹患が多くなる。免許を返納して病院に通い、近くに信頼できる耳鼻科、歯科、眼科がないのが現状です。老いた身体でバスや電車に乗って評判の良い信頼できるクリニックに通院しています。先の事を考えるととても不安です。（65～74歳、女性）

(6) アンケートについて

- 今回のアンケートで知ったことがいくつかありました。瑞穂町は住みやすいと思っています。将来もできれば住み続けたいです。みずほまる大好きです。（35～39歳、女性）
- 自分は高齢者ですが、まだ元気で老いを感じていません。なので、地域の福祉とか今まで気にしたことありませんでした。これから自分の身に切実になってくるんだというきっかけとなったこのアンケートに感謝します。（65～74歳、女性）

(7) その他

- いつも大変お世話になっております。今後とも暮らしやすい地域作りに協力させていただきますので、よろしくお願いいたします。(65～74歳、女性)
- まずは仕事をして、世の中の役に立つ事だと思います。そのためにはよく食べて、よく寝ることだと思います。人に頼らず1人でできることをすること(毎日が大事だと思います)。(65～74歳、女性)

資料編

瑞穂町

第5次地域保健福祉計画策定のためのアンケート調査

町民の皆様には日頃から福祉行政にご協力いただき、厚く御礼申し上げます。
瑞穂町では、「すべての人がつながる福祉社会」をめざし、町民、関係機関、各種団体と行政・社会福祉協議会が連携し、すべての人が協働する地域保健福祉をつくるため、「第5次地域保健福祉計画」を策定することとなりました。

このアンケート調査は、住民基本台帳から無作為に抽出した18歳以上の町民1,200人を対象に、皆様の福祉に対する考え方、地域活動への参加状況等の実態を把握するとともに、ご意見、ご提言を広くお聞きし、計画策定に反映していくために実施するものです。

調査にあたってはプライバシー（個人情報）の保護に万全を期すとともに、町民の皆様から頂いた個人情報、本計画策定の目的以外には使用いたしません。調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和6年8月

瑞穂町長 杉浦 裕之

～ ご記入にあたってのお願い ～

- ご記入は、宛て名のご本人をお願いいたします。ご本人による記入が困難な場合は、ご家族の方などがご本人のお考えにもとづき、代理でのご記入をお願いいたします。
- お答えは、あてはまる回答の番号に○をつけてください。また、記入欄については、具体的にその内容をご記入ください。
- 回答したくない質問については、無理に回答する必要はありません。
- ご記入いただいた調査票は、**令和6年9月20日（金）**までに、同封の封筒に入れて投函してください。切手は不要です。
- ご不明の点は、下記の担当へお問い合わせください。

◎このアンケートはお手持ちのスマートフォンやパソコンなどでもご回答いただけます。

下記のURLを入力、または右下のQRコードを読み込んでご回答ください。【QRコード】

回答は、インターネット経由、または本調査票のどちらからかをお選びください。

※インターネット経由の場合、この調査票のご返送は不要です。

【WEB回答ページ】 <https://enquete.cc/q/mizuho-fukusi>



【調査に関するお問い合わせ先】

瑞穂町 福祉課 福祉推進係（電話：042-557-7620）

1. 安心して暮らしやすいまちづくりについてお聞きします

問1 瑞穂町は安心して、暮らしやすい町と思えますか。(1つに○)

- | | | |
|-----------|--------------|--------------|
| 1. そう思う | 3. どちらともいえない | 4. あまりそう思わない |
| 2. まあそう思う | 5. そう思わない | |

問2 あなたにとって暮らしやすいと思うまちの姿を重要度でお答えください。

(①から⑤について、それぞれ1つに○)

	非常に重要である	重要である	どちらともいえない	あまり重要でない	重要でない
①子どもがいきいき育つまち	1	2	3	4	5
②高齢者が暮らしやすいまち	1	2	3	4	5
③障がいのある人が暮らしやすいまち	1	2	3	4	5
④困ったときに助け合えるまち	1	2	3	4	5
⑤災害の時に安心なまち	1	2	3	4	5

問3 安心して子どもを健やかに産み育てていくためには、あなたはどのようなことが必要だと思いますか。(3つまでに○)

1. 延長保育や0～2歳児保育等の保育サービスを充実する	
2. 妊娠・出産・子育てについての不安や悩みを相談できるような窓口を増やす	
3. 出産や子育てに対する経済的な負担を少なくする	
4. 家事・育児等のあらゆる面で男女が協力するための意識づくりを行う	
5. 育児休業制度や労働時間の短縮等の労働環境を整える	
6. 子どもや妊産婦への健康診断等の保健事業や医療サービスを充実する	
7. 子どもが健全に育つための体験学習や地域活動等を充実する	
8. 子どもが健やかに育つような住環境の整備を推進する	
9. 子ども連れでも安全で活動しやすい、人に優しいまちづくりを推進する	
10. ボランティアの育成等、民間活動を支援する	
11. その他 ()	
12. 特になし	

問4 高齢者が暮らしやすい社会とするために、あなたは、どのようなことが必要だと思いますか。(3つまでに○)

1. 健康教育、健康相談、健康診査等の保健事業や医療体制を充実させる
2. 保健・福祉関係の相談窓口を充実させる
3. 在宅福祉サービスを充実させる(ホームヘルパーの派遣やデイサービスの拡充など)
4. 生きがいづくりを推進する(ボランティア活動、文化・スポーツ活動の促進等)
5. 健康づくりを推進する(健康教室の開催・スポーツ活動の促進等)
6. 高齢者が動く場所を確保する
7. 老人ホーム等の入所できる施設を整備する
8. 道路の段差解消や公共的な建物へのエレベーターの設置等、人に優しいまちづくりを推進する
9. 世代間の交流、相互理解を促進する
10. 高齢者向きの住宅を整備したり、住宅改修を支援する
11. ボランティアの育成等、民間活動を支援する
12. 交通手段の確保
13. 買物する場所の確保
14. 必要な情報を探しやすいように、情報技術を活用した情報提供を充実させる
15. その他()
16. 特にない

問5 障がいのある人にも優しい社会をつくるためには、あなたはどのようなことが大切だと思いますか。(3つまでに○)

1. 健康教育、健康相談、健康診査等の保健事業や医療体制を充実させる
2. 保健・福祉関係の相談窓口を充実させる
3. ホームヘルプサービス、ショートステイ等の在宅福祉サービスを充実する
4. 仕事以外の生きがいづくりを推進する(ボランティア活動、文化・スポーツ活動の推進等)
5. 職業訓練、働く場所の紹介等、雇用・就労の場を確保する
6. 障がいのある人のニーズに応じた福祉施設を整備する
7. 道路の段差解消や公共的な建物への障がい者用トイレ、エレベーターの設置等を推進する
8. 障がいのある人とない人の交流の場を提供する
9. 障がいのある人向けの住宅を整備したり、住宅改修を支援する
10. ボランティアの育成等、民間活動を支援する
11. 交通手段の確保
12. 医療費の助成や各種手当・年金等を充実させ、経済的な負担を少なくする
13. 障がい者への差別をなくし、障がいに応じた配慮を充実させる
14. 必要な情報を探しやすいように、情報技術を活用した情報提供を充実させる
15. 障がいのある人のニーズに応じた療育・教育を行う
16. その他()
17. 特にない

問6 あなたは、障がいのある人や妊婦、子ども連れ、高齢者等が外出しやすいまちづくりを進めるためには、どのようなことが必要だと思いますか。(3つまでに○)

1. 建物や道路の段差を改善する
2. 歩道や道路を歩く上での障害物(商品や看板、違法駐車、放置自転車、電柱等)を取り除く
3. 公共施設の階段をスロープ化したり、エレベーターやエスカレーターを設置する
4. 車いすのまま乗り降りできる床の低いバスやリフト付車両を運行する
5. 車いすの人や人工工門を付けている人等が利用しやすいトイレを増やす
6. 赤ちゃん用の補助席、赤ちゃん用のベッドがあるトイレを増やす
7. 点字ブロッックや視覚障がい者用の音声の出る信号機を整備する
8. 障がいのある人のための駐車場を公共施設や商店等に確保する
9. ガードレールのついた歩道を整備する
10. その他()
11. 特にない

問7 ほとんどの福祉サービスを利用者が選択(利用者自身が必要とする福祉サービスを自ら選択)できるようにになりましたが、あなたは、こうした利用者本位の福祉を実現するために、どのようなことが必要になると思いますか。(3つまでに○)

1. 福祉サービスについての情報の提供体制を充実する
2. 専門的な相談を受けられるようにする
3. 福祉サービスについての苦情を適切に解決できるようにする
4. 福祉サービスの内容を評価する仕組みをつくる
5. 自分で人と契約することが難しい方への支援の仕組みを整える
6. 民間非営利組織(NPO等)の活動やボランティア活動への支援を充実させる
7. 福祉の制度や仕組みについて誰もが学ぶことのできる機会や場を提供する
8. その他()
9. 特にない

問8 成年後見制度※を知っていますか。(1つに○)

1. 知っている・利用したことがある
2. ある程度内容を知っている
3. 名前を知っている程度
4. まったく知らない

※成年後見制度：認知症や障がいがある等の理由により、判断能力が不十分な人の不動産や預貯金を管理したり、介護等のサービスに関する契約を結んだりすることにより、当事者を保護し支援する制度です。

問8で「1. 知っている・利用したことがある」～「3. 名前を知っている程度」と回答された方

問8-1 成年後見制度をどのように知りましたか。(あてはまるものすべてに○)

1. 広報紙やパンフレット等で知った
2. テレビやラジオ、新聞、ホームページ等で知った
3. 町役場や高齢者支援センター等で知った
4. ケアマネジャーや福祉関係の職員等から聞いた
5. 支援団体の広報活動や相談会で知った
6. その他()

問9 成年後見制度を利用するとしたら、どのように利用したいですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 預貯金や財産等の管理
2. 介護保険や障害福祉サービスを受ける際の契約手続き
3. 財産被害の防止
4. 様々な意思決定をするときの支援
5. その他()
6. まだ分からない

2. 地域で行う福祉ボランティア活動や助け合い活動についてお聞きします

問10 あなたの家と近所とのつきあいはどの程度ですか。(1つに○)

1. 積極的にしている方と思う 2. 必要に応じてしている程度 3. ほとんどしていない

問10で「3. ほとんどしていない」と回答された方

問10-1 その理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 知り合う機会がないから 5. つきあいをこぼされたから 9. 健康上の問題があるから
2. 家族にまかせているから 6. 学校や仕事で忙しいから 10. その他 ()
3. つきあう必要がないから 7. 家事で忙しいから 11. 特に理由はない
4. 人とのつきあいが苦手だから 8. 子育てや介護で忙しいから

問11 あなたがお住まいの地域には、困ったときに助け合い、支え合うつながりがあると思いますか (1つに○)

1. あると思う 3. どちらかといえばあるとは思わない
2. どちらかといえばあると思う 4. あるとは思わない
5. わからない

問12 あなたは、地域の人がお互いに支え合っていく上で大切なことは、どのようなことだと思いますか。(3つまでに○)

1. 隣近所の人達との普段からの付き合い 6. スポーツやレクリエーション活動を通じた健康づくり
2. 子どものしつけや子育てについての協力・助言
3. ひとりで暮らしている高齢者の見守りの活動 7. その他 ()
4. 障がいのある人との交流 8. 特にならない
5. 地域が行う防災活動等の日常的な協力活動

問13 あなたは、地域の人が困っているとき、どこに相談すればよいか知っていますか。(1つに○)

1. 知っている 2. 知らない

問14 「地域で困っている人や世帯の問題」を「我が事=自分のこと」として、とらえるのはどんなときですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 自分がその問題を抱えているとき 4. 将来自分にも起こりうる可能性があるとき
2. 身近な人がその問題を抱えているとき 5. その他 ()
3. テレビや新聞、ホームページでその話題を知ったとき 6. 特にならない

問15 地域の活動において、地域課題を住民が「我が事=自分のこと」として主体的に取り組んでもらえるための有効な手段は何だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 若い世代への働きかけ 4. 行政等による地域支援の充実
2. 地域での学習会や普及啓発の取組 5. その他 ()
3. 見守りや支え合い、助け合い活動の推進 6. 特にならない

問16 地震や災害時に住民同士が協力し合えるためには、どのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

1. それぞれの支援計画を地域のみんなで考える 5. 支援が必要な人の情報を地域で共有する
2. 地域での自主防災組織づくり 6. 福祉サービス事業者や行政との連携
3. 地域での定期的な防災訓練 7. その他 ()
4. 地域での勉強会 8. 特にならない

問17 あなたやご家族が、高齢や病氣、もしくは子育てなどで日常生活が円滑にいかなくなってきたとき、地域でどのような手助けをしてほしいと思いますか。公的なサービスは除きます。(あてはまるものすべてに○)

1. 近隣への声掛けや安否確認 7. 話し相手
2. ゴミ出し 8. 書類の確認や各種手続の代行
3. 買物の手伝い 9. 食事作りや掃除等の家事援助
4. 子どもの預かり 10. 電球や蛍光灯等の交換
5. 保育園や習い事への送り迎え 11. その他 ()
6. 病院への付添い等、外出の手伝い 12. 特にならない

問18 近隣に高齢者や障がいのある人の介助・介護、子育て等で困っている家庭があった場合、あなたはどのような手助けができますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 近隣への声掛けや安否確認 7. 話し相手
2. ゴミ出し 8. 書類の確認や各種手続の代行
3. 買物の手伝い 9. 食事作りや掃除等の家事援助
4. 子どもの預かり 10. 電球や蛍光灯等の交換
5. 保育園や習い事への送り迎え 11. その他 ()
6. 病院への付添い等、外出の手伝い 12. 特にならない

問19 あなたは、地域社会での生活で起きている問題に対して、住民の間での自主的な協力関係が必要だと思いますか。(1つに○)

1. 必要だと思う 2. 必要だと思わない 3. 分からない

問19で「1. 必要だと思う」と回答された方

問19-1 地域社会の問題に対して住民がお互いに協力するためには、どんなことが必要だと考えますか。(2つまでに○)

1. 自ら進んで日頃から住民相互のつながりを持つように心がけること
2. 地域の活動に積極的に参加すること
3. 町内会や自治会を中心となって住民相互の交流活動を積極的に進めること
4. ボランティアや民間非営利組織(NPO等)の活動を盛んにすること
5. 地域の人が気楽に集まれる場所を作ること
6. 地域の企業・団体が日頃から地域社会の活動に参加できるようにすること
7. コミュニティセンター等の地域活動の拠点を強化すること
8. 行政が地域活動の相談窓口や支援の体制を充実させること
9. その他 ()
10. 特にならない

問20 あなたは主に瑞穂町内において、福祉ボランティア活動や助け合い活動を行ったことがありますか。(1つに○)

1. 現在活動している	2. 以前活動したことがある	3. 活動したことがない
-------------	----------------	--------------

問20で「1. 現在活動している」と回答された方
問20-1 あなたが現在取り組んでいる福祉ボランティア活動や助け合い活動の具体的な内容は次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 困りごとの相談や介助が必要な方の安否確認	6. 教育・学習の支援
2. 介護・介助(家事援助・外出支援等)	7. 自立の支援(就労支援等)
3. コミュニケーション支援(手話・点訳等)	8. 行事・レクリエーション活動の支援
4. 健康づくり活動の支援	9. 福祉団体への物資・資金援助
5. 子育て支援	10. その他()

問21 今後、瑞穂町内で福祉ボランティア活動や助け合い活動を行いたいとお考えですか。現在活動している場合もお答えください。(1つに○)

1. ぜひ活動したい	3. あまり活動したいと思わない
2. できれば活動したい	4. まったく活動したいと思わない
	5. その他()

問21で「3. あまり活動したいと思わない」「4. まったく活動したいと思わない」と回答された方
問21-1 あなたが福祉ボランティア活動や助け合い活動に参加したいと思わない理由は何ですか。(3つまでに○)

1. 活動自体に興味がなく、楽しくないから
2. 活動に参加しても自分や自分の家族に利益がないから
3. 団体内・地域での人間関係がわずらわしいから
4. 地域のことに関心がないから
5. 仕事、家事や勉強で忙しく時間がないから
6. 地域の問題は行政が直接対応するべきだから
7. 体力的に自信がないから
8. どのような活動があるのか知らないから
9. その他()

問22 あなたの家族や知り合いなど身近な方に認知症^{*}の人はいますか。(1つに○)

1. いる(同居している)	2. いる(同居していない)	3. いない
---------------	----------------	--------

^{*}認知症：脳血管疾患やアルツハイマー病、その他の要因で脳に障害を来し、記憶及びその他の認知機能の低下により日常生活に支障が生じた状態です。

問23 あなたは認知症についての程度知っていますか。(1つに○)

1. よく知っている	2. ある程度知っている	3. あまり知らない	4. よく知らない
------------	--------------	------------	-----------

問24 あなたは認知症の人やその家族を支援するためどのようなことをしたいと思えますか。(3つまでに○)

1. 地域の見守り活動や声かけ活動への協力
2. 1人歩きで困っている高齢者を発見した場合、保護等の協力
3. 認知症についての知識の習得や認知症サポーター養成講座の受講
4. 認知症の人等を支援するボランティア活動(認知症カフェ等)への参加
5. 仕事上で出会う認知症の人等への支援・援助
6. その他()
7. 特に支援したいと思わない

問25 あなた自身が、地域住民による見守りが必要な状態になった場合、どのように思えますか。現在見守りを受けている場合は、今の思いをお答えください。(1つに○)

1. ぜひお願いしたい	3. できれば受けたくない	5. わからない
2. できればお願いしたい	4. 受けたくない	

問26 次の①～③のことについて、あなたはどのように感じますか。(それぞれ1つに○)

	決してない	ほとんどない	時々ある	常にある
①人との付き合いがないと感じること	1	2	3	4
②取り残されていると感じること	1	2	3	4
③他の人たちが孤立していると感じること	1	2	3	4

問27 誰にも気づかずに死亡し、しばらくして発見されるという孤立死(孤独死)を防ぐために、どのようなことが有効だと思いますか。(3つまでに○)

1. 地域住民による声かけ、見守り
2. 新聞・郵便配達等、民間の協力による情報提供
3. 民生委員・児童委員による訪問、見守り
4. 水道、ガス、電気の利用に関する情報共有
5. 消防・警察・ゴミ収集等、公的機関による確認
6. 定期的な電話や傾聴訪問等の話し相手
7. 老人クラブへの参加
8. 地域で気軽に集えるサロン活動
9. 高齢者支援センター等による生活実態の把握
10. 配食等生活支援サービスを活用した見守り
11. 本人からの危険危機の通報
12. 機器による緊急通報システム
13. 介護保険等の各種福祉サービス事業所と連携した緊急時連絡網
14. 終活セミナーなどを通じて本人が予め備えておくべきことを考える機会を設ける
15. その他()
16. 特にならない

3. あなたの健康意識・健康行動についてお聞きします

問28 あなたは、日頃、健康についてどのようなことに気を付けていますか。(3つまでに○)

1. 過労に注意し、睡眠や栄養を十分にとる
2. 規則正しい生活を心がける
3. 栄養のバランス等、食生活に気を付ける
4. 運動やスポーツ(体操や散歩を含む)をする
5. 健康づくりの情報や知識を増やすようにしている
6. 定期的に健康診断を受けている
7. 定期的にかん検診を受けている
8. 気軽に相談できる、かかりつけ医を決めている
9. アルコールの摂りすぎに注意している(飲まない)
10. たばこを吸う量を控えている(吸わない)
11. 日常生活の中でできるだけ体を動かすようにする
12. 健康の記録(体重、体脂肪率、血圧値等)を付ける習慣がある
13. 予防接種を受ける、食中毒に注意する等、感染予防対策を実行している
14. その他()
15. 特にない

問29 あなたは過去1年間に、健診(健康診断や健康診査)や人間ドックを受けたことがありますか。(1つに○)

※特定健康診査(職場や医療保険者が行う健診)は、健診に含まれます。
※がんのみの検診、妊産婦健康診査、歯の健康診査、病院や診療所で行う診療としての検査は健診に含まれません。

1. ある
2. ない

問29で「1. ない」と回答された方

問29-1 健診等を受けていない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 健康に自信があるから
2. 費用がかかるから
3. 忙しくて受ける時間がないから
4. 日時や場所がわからないから
5. 申込方法が面倒だから
6. 検査の方法が苦痛だから
7. 悪い結果が見つかるのが怖いから
8. 既に通院中だから
9. その他()

問30 あなたの睡眠時間は平均何時間くらいですか。(おおよその数値を記入)

平均()時間

問31 あなたは、睡眠による体量が十分にとれていますか。(1つに○)

1. 十分にとれている
2. おおむねとれている
3. あまりとれていない
4. とれていない

問32 あなたは、自分の歯の本数が何本あるか知っていますか。知らず、入れ歯、ブリッジ、インプラントは含みません。さし歯も含めて教えてください。(1つに○、数値を記入)

1. 知っている()本
2. 知らない

問33 食べる時の状態について、最もあてはまるものを選んでください。(1つに○)

1. 何でもかんで食べることができ
2. 一部かめない食べ物がある
3. かめない食べ物が多い
4. かんで食べることはできない

問34 あなたは普段、朝食を食べない(欠食する)ことがありますか。(1つに○)

1. 朝食は必ず食べる
2. 週に1～2日食べないことがある
3. 週に3～4日食べないことがある
4. 朝食はほとんど食べない

問35 あなたは、主食・主菜・副菜のそろった食事を1日に2回以上食べていますか。(1つに○)

1. ほぼ毎日2回以上
2. ほぼ毎日1回
3. 週に数回
4. ほとんど食べない

問36 あなたは1日に食べる量が推奨されている野菜の量(350g以上、目安として両手山盛り1杯ぐらい)を知っていますか。(1つに○)

1. 適正な野菜の量を理解し、意識して食べるようにしている
2. 適正な野菜の量を理解しているが、意識して食べるようにはしていない
3. 適正な野菜の量は知らないが、意識して食べるようにしている
4. 適正な野菜の量は知らないし、意識して食べるようにはしていない

問37 あなたは、1日に果物をどのくらい食べていますか。(1つに○)

※果物100gの目安：りんごなら小半分、みかんなら中1個、バナナなら1本程度

1. 200g以上
2. 100～200g未満
3. 100g未満
4. まったく食べない

問38 あなたは、日頃から塩分の摂取量に気を付けていますか。(1つに○)

※「健康日本21(第三次)」では、1日あたり平均値7.0g未満(令和14年度)を目標としています。

1. 日頃から気をつけている
2. 時々気をつけることがある
3. ほとんど気をつけていない

問39 あなたの身長と体重を教えてください。(数字を記入・小数点以下は四捨五入)

身長()cm 体重()kg

問40 健康的な体重の目安としてBMI※という指数があります。あなたは、自分の適正体重を認識し、体重をコントロールしていますか。(1つに○)

1. 適正なBMI値を理解し、体重をコントロールしている
2. 適正なBMI値を理解しているが、体重はコントロールしていない
3. BMI値は知らないが、体重をコントロールしている
4. BMI値は知らないし、体重もコントロールしていない

※BMI：ボディ・マス・インデックスの略で、体格指数、体容指数等と訳されています。
 計算式 BMI = 体重 (kg) ÷ 身長 (m)² ÷ 身長 (m)
 判定基準 やせ…18.5未満、普通…18.5以上25未満、肥満…25以上

問41 あなたは、たばこを吸っていますか。(○は1つ)

1. 毎日吸っている
2. ととき吸うときがある
3. 以前は吸っていたが今は吸っていない
4. まったく吸っていない

問42 あなたは、妊娠中に喫煙したり受動喫煙※にさらされることが低体重児出産の原因になることを知っていましたか。(1つに○)

1. 知っている
2. 知らない (今回の調査で初めて知った)

※受動喫煙：自分の意思とは関係なく他人のたばこの煙を吸わされることを言います。

問43 あなたはCOPD (慢性閉塞性肺疾患)※という病気を知っていますか。(1つに○)

1. 知っている
2. 名前を聞いたことがある
3. 知らない (今回の調査で初めて知った)

※COPD (慢性閉塞性肺疾患)：気管支や、肺胞 (気管支の先において酸素を取り込む場所) に炎症が起きる病気で、肺機能が通常の加齢変化の程度を超えて低下していきます。原因としては、最も重要な危険因子は喫煙だと言われています。(粉じんや大気汚染、乳幼児期の呼吸器感染、遺伝等、様々なものがあります。)

問44 日頃から通勤・買物で歩く、自転車に乗る、体を動かす作業をする等の身体活動を意識して行っていますか。(1つに○)

1. 毎日実行している
2. 時々実行している
3. 努力はしているが、十分に実行できていない
4. その他 ()
5. 実行するつもりはなく、実行していない

問45 1回30分程度、週2回以上の運動を行っていますか。(1つに○)

1. 1年以上続けて実行している
2. 1年未満だが、続けて実行している
3. 時々実行しているが、継続できていない
4. 運動したい気持ちはあるが、実行できていない
5. その他 ()
6. 実行するつもりはなく、実行していない

問46 毎日の生活の中であなたは、一日に合計どのくらいの時間歩いていますか。(1つに○)
 ※目安として10分歩くと約1,000歩です。

1. 約20分以内
2. 約30分
3. 約40分
4. 約50分
5. 約60分
6. 約70分
7. 約80分
8. 約90分以上

問47 あなたはロコモティブシンドローム (運動器症候群)※について知っていますか。(1つに○)

1. 知っている
2. 名前を聞いたことがある
3. 知らない (今回の調査で初めて知った)

※ロコモティブシンドローム (運動器症候群)：骨・関節・筋肉・神経等、体を支えたり動かしたりする「運動器」が衰えて、「立つ」「歩く」といった動作が困難になり、要介護や寝たきりになる危険性が高くなることです。


問48 あなたは、お持ちのスマートフォンで、日々の歩数や身長、体重、血圧等の記録などを一元管理ができる「健康ポイントアプリ」を利用していますか。(民間企業や公共機関が提供しているアプリを含みます。)(1つに○)

1. 利用している
2. 利用していない
3. 今後利用したい
4. 今後利用するつもりはない

問49 あなたは、町で実施している健康ポイントアプリ「みずほ健康ポイント あるってこ」があることを知っていますか。(1つに○)

1. 知っている
2. 名前を聞いたことがある
3. 知らなかった (今回の調査で初めて知った)

※「みずほ健康ポイント あるってこ」：「歩く」ことを中心とした運動・身体活動や健診の受診、指定の町イベントに参加するとポイントが貯まり、景品が当たる抽選に参加することができるスマートフォンアプリです。



対象：18歳以上の町内在住の方
 参加方法：スマートフォンからアプリをインストールし、必須項目を選択後、利用規約に同意すると参加できます。



問50 あなたが普段、お酒を飲む頻度はどのくらいですか。(1つに○)

1. 毎日
2. 週5～6日
3. 週3～4日
4. 週1～2日
5. 月に1～3日
6. やめた (1年以上)
7. ほとんど飲まない
8. 飲まない

問50で「1. 毎日」～「4. 週1～2回」と回答された方

問50-1 お酒を飲む日は、1日当たりどの程度の量を飲みますか。
 清酒に換算してお答えください。(○は1つ)

1. 1合 (180ml)
2. 1合以上2合 (360ml) 未満
3. 2合以上3合 (540ml) 未満
4. 3合 (720ml) 以上

※清酒への換算量：清酒1合 (180ml) は、次の量にほぼ相当します。
 ・ビール・発泡酒中瓶1本 (約500ml)
 ・ワイン1/4本 (180ml)
 ・酎ハイ1.5缶 5度 (520ml) 7度 (350ml)
 ・ウイスキーダブル1杯 (60ml)
 ・焼酎25度 (110ml)

問51 あなたは、日常生活でどのようなことに悩みやストレスがありますか（5つまでに○）

1. 悩みやストレスはほぼない
2. 家族との人間関係
3. 家族以外との人間関係
4. 自分の健康問題
5. 家族の健康・介護問題
6. 仕事（就職・仕事内容・労働環境など）
7. 経済的な問題
8. いじめ・ハラスメント
9. 恋愛・結婚・性に関すること
10. 妊娠・出産・子育て
11. 家事
12. 生活環境（住まいや居住地域のこと）
13. 将来への不安
14. 身近な人の死
15. その他（ ）
16. わからない

問52 悩みやストレスをどのように相談していますか。（5つまでに○）

1. 家族に相談している
2. 友人・知人に相談している
3. 職場の上司・同僚に相談している
4. 公的な機関の相談窓口（電話等での相談を含む）を利用している
（役場、高齢者支援センター、子ども家庭支援センター、保健センター、福祉事務所等）
5. 民間の機関の相談窓口（電話等での相談を含む）を利用している
6. 病院・診療所の医師に相談している
7. テレビ、ラジオ、新聞、ホームページ等の相談コーナーを利用している
8. LINEやFacebookなど、SNSを活用した相談窓口を利用している
9. その他（ ）
10. 相談したいが誰にも相談できない
11. 相談したいがどこに相談したらよいか分からない
12. 相談する必要はないので誰にも相談していない

問53 保健や福祉に関する情報等を、どのような方法で入手したいと思いますか。（5つまでに○）

1. 町役場の職員を介して
2. 子ども家庭支援センターの職員を介して
3. 保健所や保健センターの職員を介して
4. 高齢者支援センターの職員を介して
5. 福祉事務所の職員を介して
6. 民生委員・児童委員を介して
7. 知人・家族を介して
8. 広報紙で
9. インターネットのホームページで
10. SNSで（X、Instagram、LINEなど）
11. 各種公施設の掲示板等で
12. 自治会・町内会の回覧板等で
13. 社会福祉協議会の窓口や掲示板等で
14. 医療機関の相談窓口で
15. テレビ・ラジオ・新聞等で
16. その他（ ）
17. 特にない

問54 地域で安心して生活していくために、福祉・保健医療に関してどのようなことが大切だと思いますか。（3つまでに○）

1. 地域医療（かかりつけ医、病院等）提供体制の充実
2. 健康管理（生活習慣病、がん等）の相談窓口の充実
3. 感染症対策や食中毒対策等の健康管理
4. 福祉施策（高齢者福祉、障がい者福祉、児童福祉等）の充実
5. セーフティネットの仕組み（生活保護、生活困窮者自立支援等）の充実
6. 誰にでも優しいまちづくり（ユニバーサルデザイン）の推進
7. ボランティア活動による助け合い
8. 地域の住民組織（自治会・町内会等）や民間非営利組織（NPO等）等による地域活動の充実
9. インターネットを活用した情報共有やつながりのシステムづくり
10. その他（ ）
11. 分からない

4. 地域福祉に関わる知識や関係団体のことについてお聞きします

問55 あなたは、次の①～⑤の言葉や内容をご存じでしたか。（それぞれ1つに○）

	言葉も内容も知っていた	聞いたことはあるが内容は知らなかった	知らなかった
①ヤングケアラー	1	2	3
②ひきこもり	1	2	3
③再犯防止推進法	1	2	3
④8050問題	1	2	3
⑤瑞穂町地域保健福祉計画	1	2	3

※ヤングケアラー：本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを代替的にこなしていること。責任や負担の重さにより、学業や友人関係などに影響が出てしまうことがあります。

※ひきこもり：様々な要因の結果として、就学や就労、交友などの社会的参加を避けて、原則的には6か月以上にわたって概ね家庭にとどまり閉じている状態のことです。

※再犯防止推進法（再犯の防止等に関する法律）：再犯の防止等に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、国民が犯罪による被害を受けることを防止し、安全で安心して暮らせる社会の実現に寄与することを目的とするものです。

※8050問題：高齢の親と働いていない独身の50代の子と同居している世帯に係る問題のことです。

問56 あなたは、次にあげる町内の団体や福祉施設を知っていますか。（あてはまるものすべてに○）

1. 民生委員・児童委員
2. 健康づくり推進委員
3. 瑞穂町社会福祉協議会
4. 瑞穂町シルバー人材センター
5. 保健センター
6. 子育て世代包括支援センター「ゆりかごステーション」（保健センター内）
7. ボランティアセンターみずほ
8. 高齢者支援センター（地域包括支援センター）
9. 高齢者福祉センター「寿菜」
10. 心身障害者（児）福祉センター「あゆみ」
11. 精神障害者地域活動支援センター「ひまわり」
12. あすなる児童館
13. 子ども家庭支援センター「ひばり」
14. 権利擁護センターみずほ
15. 知っているものはない

5. 地域福祉を推進するために重要なことについてお聞きします

問57 地域福祉を推進するためには、自助（一人ひとりの取組）、互助・共助*（周囲や地域のサポート）、公助（国や自治体等による公的な支援）の連携が重要です。あなたは地域福祉を推進するため、どのようなことが重要だと考えますか。（○は①～③のそれぞれいくつでも）
 ※共助は、住民相互の支え合いのほか、自治会、地域で活動する民間非営利組織（NPO等）、ボランティア団体、各種サークルなどの諸団体による活動を想定しています。

① 自助	1. 地域のことに関心を持つ 2. 福祉に関する知識や技術を身につける 3. 地域での活動に積極的に参加する	4. 地域の人々と活発に交流する 5. できる範囲で地域に貢献する 6. その他（ ）
② 互助・共助	1. 地域の人々の課題を共有する 2. 地域で活動できる組織体制を整備する 3. より多くの人に地域や福祉に関する情報を広める	4. 地域で活動する人材を育てる 5. 地域で活動する団体間の連携を深める 6. 個人と行政の間で双方の意向の調整を図る 7. その他（ ）
③ 公助	1. 地域住民のニーズの把握を強化する 2. 地域福祉の取組に関する情報提供を強化する 3. 公的な福祉サービスの量の充実を図る 4. 公的な福祉サービスの質の向上を図る 5. 多様なネットワークを構築して地域ぐるみで福祉を推進する仕組みをつくる	6. 地域で活動する団体や人材の育成、支援を図る 7. 都市基盤（道路、公共施設等のまちづくり）やサービス提供基盤（福祉サービス提供事業者の確保等）の充実を図る 8. その他（ ）

6. あなたご自身についてお聞きします

問58 令和6年7月1日現在のあなたの年齢はいくつですか。（1つに○）

1. 18～19歳	4. 30～34歳	7. 45～49歳	10. 60～64歳
2. 20～24歳	5. 35～39歳	8. 50～54歳	11. 65～74歳
3. 25～29歳	6. 40～44歳	9. 55～59歳	12. 75歳以上

問59 あなたの性別はどれですか。（1つに○）

1. 男性	2. 女性	3. その他
-------	-------	--------

問60 あなたの現在の職業は次のどれですか。（1つに○）

1. 自営業・自由業	5. 家事専業
2. 会社員・公務員・団体職員	6. 無職
3. アルバイト・パート・派遣社員	7. その他（ ）
4. 学生	

問61 職場または通学先は次のどれですか。（1つに○）

1. 自宅	3. 多摩地区市町村	5. 埼玉県	7. 通っていない（無職）
2. 町内	4. 東京23区	6. その他（ ）	

問62 令和6年7月1日現在、瑞穂町に住みはじめてから何年になりますか。（1つに○）

1. 2年未満	2. 2～4年	3. 5～9年	4. 10～19年	5. 20～29年	6. 30年以上
---------	---------	---------	-----------	-----------	----------

問63 同居しているご家族の構成（あなたを含めた構成）はどれですか。（1つに○）

1. 単身世帯	3. 親子2世代	5. その他（ ）
2. 夫婦のみの世帯	4. 親・子・孫3世代	

問64 同居しているご家族について次のどれですか。（あてはまるものすべてに○）

1. 小学校入学前の子どもがいる	3. 介護を必要とする家族がいる	5. どれもあてはまらない
2. 小・中学生の子どもがいる	4. 65歳以上の家族がいる	

問65 今後も瑞穂町に住み続けたいと思えますか。（1つに○）

1. 今住んでいるところに住み続けたい	3. 町外に転居したい
2. 瑞穂町のどこかに住み続けたい	(転居先の希望：)

問66 あなたは現在、どちらにお住まいですか。（1つに○）

1. 殿ヶ谷地区	(町内会名：安住町、表町、仲町、中芝町)
2. 石畑地区	(町内会名：東砂町、西砂町、丸町、神明町、表東町、表上町、上仲町、旭町)
3. 栢根ヶ崎地区	(町内会名：東一丁目、西一丁目、二丁目、東三丁目、中三丁目、西三丁目、栢根ヶ崎地区 東一丁目、六丁目、七丁目、八丁目、九丁目、松原町) 四丁目、五丁目、長岡町、東長岡町、春日町、愛宕町、水保町)
4. 長岡地区	(町内会名：長岡町、駒形町、春日町、愛宕町、水保町)
5. 元狭山地区	(町内会名：二本木町、駒形町、高根町、富士山町、栗原町、松山町)
6. 武蔵野地区	(町内会・自治会名：旭が丘、さかえ町、富士見町、南平町)

問67 あなたは町内会・自治会に加入していますか。（1つに○）

1. 加入している	2. 加入していない	3. わからない
-----------	------------	----------

7. 暮らしやすい地域づくりについてのご意見をお聞きます

問68 暮らしやすい地域づくりについて、ご意見がありましたらお書きください。

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

調査票は、9月20日（金）までに同封の返信用封筒に封入し、

そのまま郵便ポストへ投函してください。（切手は不要です）

無記名アンケートのため、お名前を記入する必要はありません。

瑞穂町第5次地域保健福祉計画策定のためのアンケート調査
調査報告書

令和7年3月

発行 瑞穂町
編集 瑞穂町 福祉部 福祉課 福祉推進係
住所 〒190-1292
東京都西多摩郡瑞穂町大字箱根ヶ崎2335番地
TEL 042-557-7620
FAX 042-556-3401
